

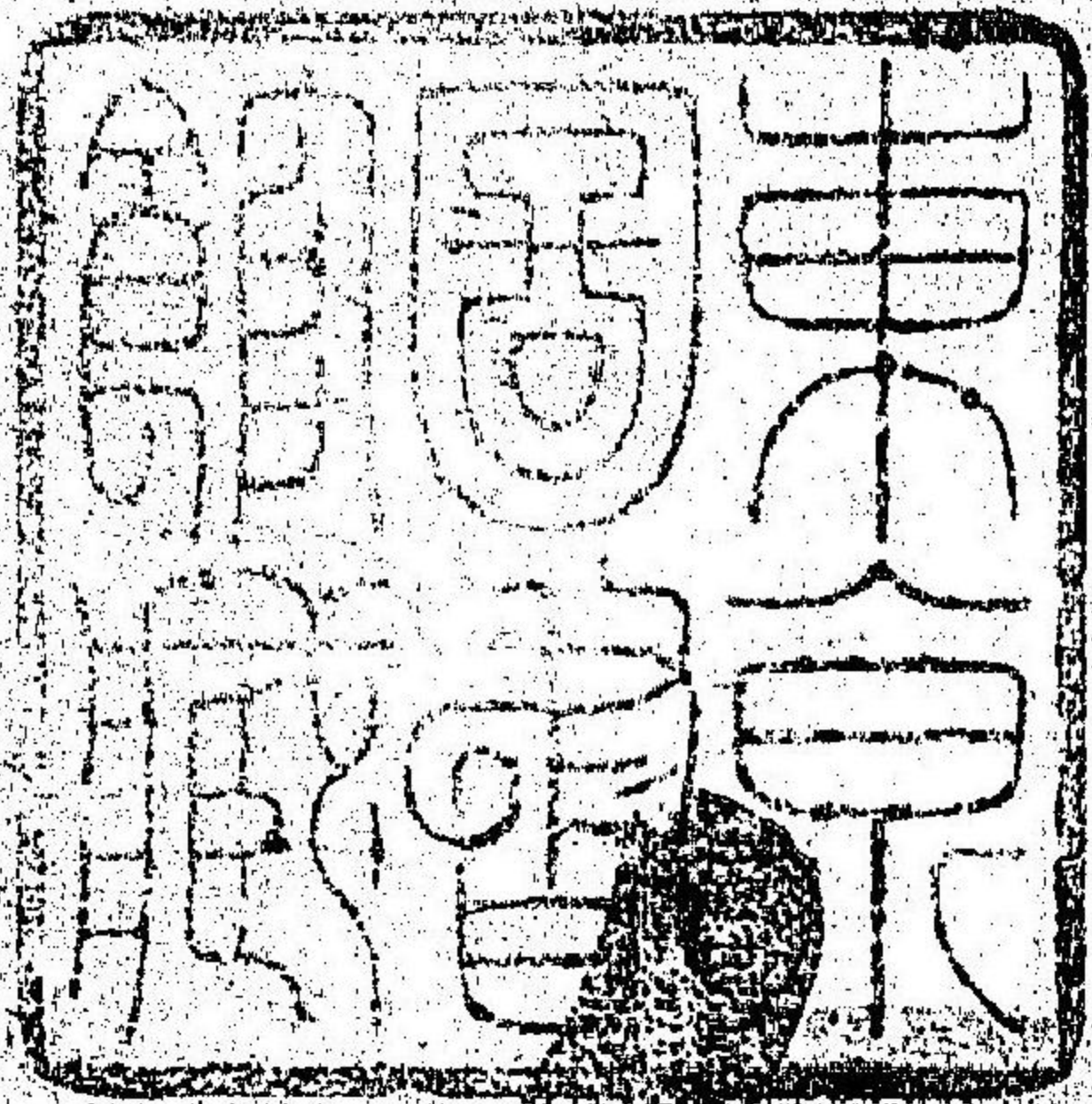
31-140

檢事補吉田道一校訂
東京堀田智三注解

增補 刑法 註解

增補 治罪法 註解

版權所有 高崎藏版

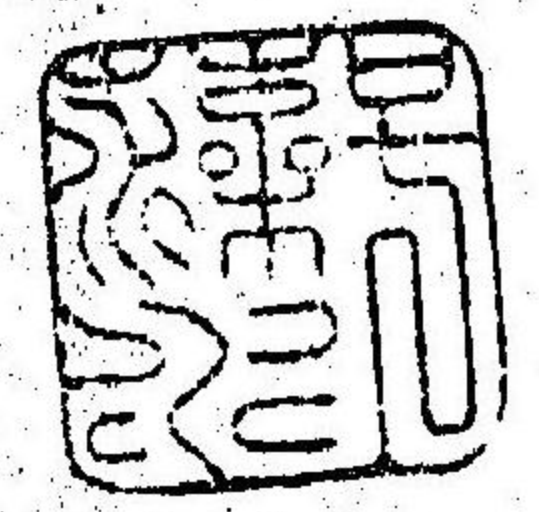


Two large, bold calligraphic characters in cursive script (Caoshu). The characters are '尚' (Shàng) and '尚' (Shàng), which are identical. They are written with thick, expressive strokes and are positioned vertically in the center of the page.

草書
筆
九

而

明治十五年
五月
藤水增戶寧



刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 微償處分

第五節 刑期計算

第六節 假出獄

第七節 期滿免除

第八節 復權

第三章 加減例

第四章 不論罪及七減輕

第五章 不論罪及七宥恕減輕

第六章 自首減輕

一 全 丁
二 全 丁
三 全 丁
四 全 丁
五 全 丁
六 全 丁
七 全 丁
八 全 丁
九 全 丁
十 全 丁

第三節	酌量減輕	二十丁
第五章	再犯加重	全
第六章	加減順序	廿一丁
第七章	數罪俱發	廿二丁
第八章	數人共犯	廿三丁
第一節	正犯	全
第二節	從犯	廿四丁
第九章	未遂犯罪	廿五丁
第十章	親屬例	廿六丁
第二編	公益ニ關スル重罪輕罪	廿七丁
第一章	皇室ニ對スル罪	全
第二章	國事ニ關スル罪	全
第一節	内亂ニ關スル罪	廿八丁
第二節	外患ニ關スル罪	廿九丁
第三章	靜謐ヲ害スル罪	卅一丁
第一節	兇徒聚衆ノ罪	全

第二節	官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪	卅二丁
第三節	囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪	卅三丁
第四節	附加刑ノ執行ヲ違ル、罪	卅五丁
第五節	私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪	全
第六節	往來通信ヲ妨害スル罪	卅六丁
第七節	人ノ住所ヲ侵スル罪	卅八丁
第八節	官ノ封印ヲ破棄スル罪	卅九丁
第九節	公務ヲ行フヲ拒ムル罪	四十丁
第四章	信用ヲ害スル罪	四十一丁
第一節	貨幣ヲ偽造スル罪	全
第二節	官印ヲ偽造スル罪	四十三丁
第三節	官ノ文書ヲ偽造スル罪	四十五丁
第四節	私印私書ヲ偽造スル罪	四十六丁
第五節	免狀鹽札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪	四十七丁
第六節	偽證ノ罪	四十八丁
第七節	度量衡ヲ偽造スル罪	五十二丁

第八節	身分ヲ詐稱スル罪	五十三丁
第九節	公選ノ投票ヲ偽造スル罪	全
第五章	健康ヲ害スル罪	五十三丁
第一節	阿片烟ニ關スル罪	全
第二節	飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪	五十四丁
第三節	傳染病豫防規則ニ關スル罪	全
第四節	危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪	五十五丁
第五節	健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪	全
第六節	私ニ醫業ヲ爲ス罪	五十六丁
第六章	風俗ヲ害スル罪	五十七丁
第七章	死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪	五十八丁
第八章	商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪	五十九丁
第九章	官吏擅權ノ罪	六十丁
第一節	官吏公益ヲ害スル罪	全
第二節	官吏人民ニ對スル罪	六十一丁

第三節	官吏財産ニ對スル罪	六十四丁
第三編	身體財産ニ對スル重罪輕罪	六十五丁
第一章	身體ニ對スル罪	全
第一節	謀殺故殺ノ罪	全
第二節	殴打創傷ノ罪	六十六丁
第三節	殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪	六十八丁
第四節	過失殺傷ノ罪	七十丁
第五節	自殺ニ關スル罪	全
第六節	擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪	全
第七節	脅迫ノ罪	七十二丁
第八節	墮胎ノ罪	七十二丁
第九節	幼者及ヒ老疾者ヲ遺棄スル罪	七十三丁
第十節	幼者ヲ略取誘拐スル罪	七十四丁
第十一節	猥褻姦淫重婚ノ罪	七十五丁
第十二節	誣告及ヒ誹毀ノ罪	七十七丁
第十三節	祖父母父母ニ對スル罪	七十八丁

第八節	身分ヲ詐稱スル罪	五十三丁
第九節	公選ノ投票ヲ偽造スル罪	全
第五章	健康ヲ害スル罪	五十三丁
第一節	阿片烟ニ關スル罪	全
第二節	飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪	五十四丁
第三節	傳染病豫防規則ニ關スル罪	全
第四節	危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪	五十五丁
第五節	健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪	全
第六節	私ニ醫業ヲ爲ス罪	五十六丁
第六節	風俗ヲ害スル罪	五十七丁
第七節	死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪	五十八丁
第八章	商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪	五十九丁
第九章	官吏瀆職ノ罪	六十丁
第一節	官吏公益ヲ害スル罪	全
第二節	官吏人民ニ對スル罪	六十一丁

第三節	官吏財産ニ對スル罪	六十四丁
第三編	身體財産ニ對スル重罪輕罪	六十五丁
第一章	身體ニ對スル罪	全
第一節	謀殺故殺ノ罪	全
第二節	毆打創傷ノ罪	六十六丁
第三節	殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪	六十八丁
第四節	過失殺傷ノ罪	七十丁
第五節	自殺ニ關スル罪	全
第六節	擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪	全
第七節	脅迫ノ罪	七十二丁
第八節	墮胎ノ罪	七十二丁
第九節	幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪	七十三丁
第十節	幼者ヲ略取誘拐スル罪	七十四丁
第十一節	猥褻姦淫重婚ノ罪	七十五丁
第十二節	誣告及ヒ誹毀ノ罪	七十七丁
第十三節	祖父母父母ニ對スル罪	七十八丁

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

七十九丁

第二節 強盜ノ罪

全

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

八十一丁

第四節 家資分散ニ關スル罪

八十二丁

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

八十三丁

第六節 贖物ニ關スル罪

全

第七節 放火失火ノ罪

八十五丁

第八節 決水ノ罪

八十六丁

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

八十七丁

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

八十八丁

第四編 違警罪

○

刑法附則

第一章 主刑執行

九十七丁

第二章 監視

百一丁

第三章 假出獄及ヒ特別監視

百五丁

第四章 刑事裁判費用

百七丁

第五章 賠償處分

百八丁

○刑法註解
 ○刑法ハ刑名及ヒ
 刑ノ適用ヲ示ス
 (總則)總則ハ此刑
 法一般ニ關スル
 條目ヲ舉ク者
 ナリ○(第二條)總
 ナリ○(第二條)總
 刑法律トハ特リ此
 刑法ノミヲ指スニ
 非スシテ太政官ニ
 布告トシテ發布
 シタル者モ亦法律
 ト爲ス例々ハ禁
 會條例又ハ酒造稅
 則ノ如キ皆法律
 ナリ而シテ一般ノ
 法律ニ於テ之ヲ罰
 スルノ簡條ナキ者
 ハ如何ナル不正ノ
 所爲ニテモ之ヲ罰
 スルコトヲ得ズト云
 フ明文ナリ○(第
 三條)法律ハ既往
 ニ遡ボラズト謂フ

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪分テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ボズコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經ザル者ハ新舊ノ法ヲ比

照シ輕キニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ズ可キ者ニ適

用スルコトヲ得ズ

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ

各其法律規則ニ從フ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケ

テ頒布ミナラヌ前
方ノ事ニ及ボシ用
ニハ新法ヲ得ズ則
テ新法ノ未タ頒布
スルニテハ前法ニ
テハ罪ト爲ラザル
テハ新法ニ於テ有
罪ト爲ルモ新法頒
布以前ノ犯事ナル
者ハ之ヲ罰スルコ
ト得可ラズ若シマ
ク頒布以前ニ於
テ罪ヲ犯シ舊ノ法
律ニ於テ已ニ有
罪ナルモ其罪ノ未
テ新法ニ至ラズシ
テ爲ル時ニ舊法
ニ爲ル時ニ舊法
新法ト比ベテ其
輕キ刑ニ從テ處斷
ス可シ◎第四條
陸海軍刑法其他總
則ヲ犯シ以テ常律
可テ犯罪スル者

ザル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス
附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セザル者トテ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ重刑ト爲ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期流刑

五 有期徒刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

三 罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

一 拘留

二 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規

則ヲ以テ之ヲ定ム

リ刑法ニ從テ論ズ
ル事ヲ得ルナリ
◎第五條 此刑法
ニ於テ罰金トシテ
三ノ種類ニ別ビ定
ムルハ左ノ如クニ
一 罰金トシテ
二 罰金トシテ
三 罰金トシテ
◎第六條 附加刑
ハ主刑ニ附加シテ
之ヲ宣告スルコト
得ルモ其宣告スル
者ト宣告セザル者
トテ定ム
◎第七條 刑ノ執行
ハ左ノ如クニ定ム
一 刑ノ執行ハ
二 刑ノ執行ハ
三 刑ノ執行ハ
◎第八條 刑ノ執行
ハ左ノ如クニ定ム
一 刑ノ執行ハ
二 刑ノ執行ハ
三 刑ノ執行ハ
◎第九條 刑ノ執行
ハ左ノ如クニ定ム
一 刑ノ執行ハ
二 刑ノ執行ハ
三 刑ノ執行ハ
◎第十條 刑ノ執行
ハ左ノ如クニ定ム
一 刑ノ執行ハ
二 刑ノ執行ハ
三 刑ノ執行ハ
◎第十一條 刑ノ執行
ハ左ノ如クニ定ム
一 刑ノ執行ハ
二 刑ノ執行ハ
三 刑ノ執行ハ

刑ニ宣告ヲ爲サズ
トモ自ラ附加スル
モノトス○罪ニ國
事犯常事犯ノ二種
アリ政治ニ關スル
罪ヲ犯セルモノヲ
國事犯ト稱シ強盜
竊盜及ヒ詐僞等ノ
一身ニ關スル私罪
ヲ犯セルモノヲ常
事犯ト爲ス死刑ハ
國事犯事犯トモ
之ヲ用ユ徒刑懲役
ハ常事犯ニ用ヰ流
刑禁獄ハ國事犯ニ
限リ科スル刑ナリ
○第八條(重禁錮)
ノ刑ハ定役アリテ
專ラ常事犯ニ用ヰ
輕禁錮ハ定役ナシ
重禁錮ニ比シレバ
輕クシテ重モニ感
事犯ニ使用ス而レ
ハ常事犯ニテモ之

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏監檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非レバ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヰテ葬ルコトヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

ナ用ヰルトナリ
官吏公益ヲ害スル
罪ノ如キ是ナリ○
第十二條 裁判官
罪人ノ刑ヲ定メ其
刑方サニ死刑ニ處
テ可キ時ハ先ツ司
法卿ニ上申シ其命
令ヲ待テ後之ヲ行
フ抑モ刑ハ一タ
ヒ之ヲ行ヘハ復タ
之ヲ取り復ヘスコ
能ハサル者ナレハ
斯クハ重ニ爲ス
ナリ○第十四條
大祀令節國祭ノ日
官神嘗祭新嘗祭大
政ヲ云ヒ令節ハ天
長節紀元祭ヲ曰ヒ
國祭ハ孝明天皇祭
春季皇靈祭仁光天
皇祭神武天皇祭秋
季皇靈祭後桃園天
皇祭光格天皇祭等

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

第二十一條 有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十二條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得

第二十三條 有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同

第二十四條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

第二十五條 重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲

第二十六條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

第二十七條 重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲

第二十八條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

第二十九條 禁錮ハ重輕ヲ分タズ十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

ナ曰フ是等ノ日ハ國民一般祝賀スルキノ日ナレハ死刑ノ刑キルキ凶事ヲ行フヲ禁スルナリ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受タル婦女已ニ孕メル時ハ刑法附則第五條ニ定メタル如ク醫師檢査シテ之レヲ驗シテシテ果シテ懐胎ナル時ハ檢査官ヨリ司法卿ニ申シテ刑ヲ執行ナシト爲リテ至ク二日ト爲リテ其刑ヲ行フ

第十六條 死刑ハ死シテハ親屬ノ兄弟又ハ朋友等ノ申請ヲ受ケテ願フ者アレハ獄中ヨリ下

第廿五條 定役ニ服スル囚人ノ工餘ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

第廿六條 罰金ハ二圓以上十圓以下爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第廿七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一日ニ滿ガル者ト雖モ仍ホ一日ヲ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ズ

若シ禁錮限内罰金ヲ納マタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シ禁錮ヲ免ル親屬其他者代テ罰金ヲ納マタル時亦同シ

第廿八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セ其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第廿九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

シ渡ス可シ併シ神官僧侶等ヲ頼ミテ葬式ヲ爲スコトヲ得

第十七條 徒刑ハ有期無期トモ一定シテ島即チ北海道等ニ送リテ開墾杯ノ業ヲ爲サシム有期刑ハ處シテレタル年限ヲ經シハ内地ニ還ルコトヲ得レトモ無期刑ハ終身ノ刑ト爲ルコトヲ得

第十八條 刑ハ一定ノ島中ニ獄舎ヲ設ケ囚人ヲ閉テ込メテ復ク惡事ヲ爲スコトヲ得ザラシメ且ツ懲戒スル爲メ閉スルマテニ特別ニ使役スルコト無シ但自ラ工業ヲ爲サシム

第三十條 刑料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第廿七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑

第卅一條 刑罰公權ハ若クハ刑罰ヲ執行スルニ關シテ

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章年金位記賞狀恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權
- 六 裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
- 七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫以爲ニスルハ此限リニ在ラス
- 八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財產ヲ管理スルノ權
- 九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

トテ請フモノハ之
ヲ許ス可シ又流刑
ノ囚人能ク獄則チ
テ全ク改心ノ状ア
ルモノハ無期ノ囚
ハ五年有期ノ囚ハ
三年ヲ經レハ行政
ノ處分ニ以テ附屬
ノ免シ獄舎近傍ノ
地ヲ限リテ其區域
内ニ居住セシム且
ツ其請願ニ因テハ
其子ノ如キ家屬ヲ
招テ同居スルコトヲ
得シム併シ同ノコト
ヲ行政ノ處分ナレ
バ法律ニ定メタル
ト異リ年限ヲ經レ
何人ニテモ必ス附
屬ヲ免スルト得フ
ニハ非ズ唯改心ノ
狀アル者ニ限ルベ
シ○(第廿四條)輕

第卅二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終
身公權ヲ剝奪ス
第卅三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒズ現任ノ
官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコト停止ス
第卅四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用
ヒズ監視ノ期限間公權ヲ行フコト停止ス
第卅五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒズ其
主刑ノ終ルマテ自ラ財產ヲ治ムルコト禁ズ
第卅六條 流刑ノ囚附屬ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以
テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコト得
第卅七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒズ各
本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス
第卅八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ
記載スルノ外監視ニ付スルコト得ズ
第卅九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告

禁錮重禁錮トモ十
一年以上五年以下
ノ刑期ノ長短ハ
罪ノ輕重ニ因リ各
本條ニ於テ定メラ
レタリ○(第廿七
條)一ヒ宣告ヲ受
ルモ其裁判ヲ不當
ト思ヒ之ヲ控訴ス
ル時ハ其控訴ノ裁
判確定スルマテハ
裁判確定ト爲サス
但初メノ宣告ニ服
從スレハ其宣告ノ
日ヲ以テ裁判確定
ノ日ト爲ス可シ其
確定ノ日ヨリ一月
内ニ殘ラズ納メ切
ラサル時ハ一圓ヲ
一日ニ讀リテ之ノ
輕禁錮ニ換フ其
一圓ニ滿タサル者
モ禁錮ニ換フル時
ハ一日ト爲ス例令

テ用ヒス五年間監視ニ付ス
第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス但刑以
期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス
若シ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨ
リ起算ス
第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分
ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコト得
第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セザ
ル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換テ主刑滿限ノ後之ヲ
執行ス
第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法
律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從
フ
一 法律ニ於テ禁制タル物件
二 犯罪ノ用ニ供シタル物件
三 犯罪ニ因テ得タル物件

ハ十圓五十錢ニテ
モ之ヲ禁ルニ換フ
レハ十一日ト爲ス
罰金ニシテ罰金ヲ禁
罰金ニ換レバ若キ
日ヲ禁テ罰金ヲ收
ムル時ハ已ニ經過
シタル日數ヲ差引
キ殘數ノ金高ヲ納
ムレハ禁罰金免ス
可キ親屬朋友ノ切
キ者代テ罰金ヲ納
ムルモ亦同様ノ處
分ナル可シ○第
卅一條ノ公權トハ
國民タル者ハ皆有
スルヲ得ベキ權利
ニシテ或ハ現ニ有
シ得ルハ將來有ル
ヲ得ル也但此權利
剝奪セラルタル時
ハ剝奪ニ有スル若ハ
剝奪セラルタル日
ヨリ直チニ之ヲ失

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハ
ス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯
人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコト得ス
第四節 徵償處分
第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス
但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム
第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラルト雖モ被害
者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免ルコト得ス
第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償
ハ其犯人チシテ之ヲ擔當セシム
第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求
ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルコト得若シ贓物犯人ノ
手アル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス
第五節 刑期計算
第四十九條 刑期ヲ計算スルニ二日ト稱スルハ二十四時ヲ以
テ十一月ト稱スルハ三十日ヲ以テ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

ハ將來有ス可キ者
ハ者復權セラル
迄得ルコト能ハス
刑或ハ府縣區町村
會ノ職員ト爲ル
權及ヒ之ニ選舉ス
ル權又ハ學務衛生
委員等ト爲ル權及
ヒ之選舉スル權ヲ
云フニ刑功ニ因テ
得タル勳章ヲ佩用
スルノ權恩給ニ因
テ受シ可キ扶助金
ヲ得ルノ權位記ヲ
稱スルノ權華士族
ノ貴号ヲ用ユルノ
權等之ヲ剝奪サル
ル者ハ現在所有セ
ル者ハ之ヲ返上ス
○外國ヨリ贈與
サレタル勳章ヲ佩
用スルノ權○五兵
卒ト爲ルノ權我國

受刑●初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算
入セズ
第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非ザレバ之ヲ執行スルコ
ト得ス
第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シ
タル者ハ左ノ例ニ從フ
一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ
起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否ト是分タヌ
前判宣告ノ日ヨリ起算ス
三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ
算入スルコト得ズ
第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ
日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス
第六節 假出獄
第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ悛

人ノ如キハ兵士ト
爲ルヲ嫌ヒ百方忌
避テ謀ル如キノ情
態アレハ必竟兵士
ハ護國ノ重任ヲ負
フモノナレハ行狀
方正ニシテ能ク其
任ニ適ッ者ニ限ル
ベシ故ニ兵籍ニ入
ルヲ得ルハ一ノ
名譽ナリトス(六)
裁判所ニ於テ證人
ト爲ルハ實直ノ人
ト爲ザレハ信ヲ措
クニ足ラズ故ニ會
テ重罪ノ刑ニ處セ
ラレタル者ハ証人
ト爲ルノ權ヲ得
可カラザル理ナリ
併シ見聞シタル實
事ヲ陳テシタル幼
クナシトス(七)幼
主又ハ治産ノ禁ヲ
受タル者等ノ後

改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ
以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ
死刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免ケルノ外假出獄ノ例ヲ
用ヒス
第五十四條 死刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルベト雖モ仍ホ島地ニ
居住セシム
第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産
ノ禁ニ幾分ヲ免スルコトヲ得但ハ刑期限内特別ニ定メタル監視
ニ付ス
第五十六條 假出獄更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄
ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス
第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ
許サス
第七節 刑滿免除
第五十八條 刑ノ執行ヲ通ラザル者法律ニ定メタル期限ヲ經

見人ト爲ルノ權此
種ヲ剝奪セラル
モ自分ノ子孫ノ爲
ニスル時ハ親等ノ
許可ヲ得レハ妨ケ
ナシ(八)家資ヲ分
散シタル者ノ財產
ヲ支配スル權又ハ
銀行會社若シハ共
有ノ財產ヲ支配ス
ル權○以上ノ公權
ハ國民皆之ヲ有ス
可レ但之ヲ剝奪セ
ラレシ者ハ此權無
カル可シ○第卅
三條(輕重ノ禁錮
ニ處セラレタル者
ハ別ニ言ヒ渡シテ
シ又辭令ナクモ現
ニ任セラレタル官
又ハ職(教導職等)
ヲ失フ可シ且ツ又
其處セラレタル刑
ノ期限マテハ第三

過スルニ因テ刑滿免除ヲ得
第五十九條 死刑ハ在ラザル年限ニ從テ刑滿免除ヲ得
一 死刑ハ三十年
二 無期徒刑ハ二十五年
三 有期徒刑ハ二十年
四 重懲役重禁獄ハ十五年
五 輕懲役輕禁獄ハ十年
六 錮禁罰金ハ七年
七 拘留科料ハ一年
第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ刑滿免除ヲ得ズ
附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ刑滿免除ヲ得
沒收ハ五年ヲ經テ刑滿免除ヲ得但禁制物ハ刑滿免除ノ限ニ在
ラス
第六十一條 刑滿免除ハ刑ノ執行ヲ通ラザル日ヨリ起算ス若
シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ關席裁
判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

十一條ニ掲ケタル
公權ヲ行フコトヲ得
ス但劊奪ニ非ザル
故テ從前ノ過クレン
復ク從前ノ過クレン
リ因テ之ヲ停止公
權ト云○(第卅四
條)第百二十六條
ノ内亂ノ豫備ニ中
略ニ本刑ヲ免シ六
月以上三年以下ノ
監禁ニ付シタル
如ク止テ監視ニ付
シラシタル者ニテ
モ其監視ノ間ハ公
權ヲ行フコトヲ停止
ス○(第卅五條)自
ラ刑ヲ治ムルコト
ハ自分ノ所有ナル
支配ニ付シタル物
ノ人ニ付シタル即
ハ贈與ニ買入ル
等ヲ云フ○(第卅

第六十三條 刑ノ執行ヲ遂シタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時
最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期間免除ヲ起算ス
第八節 復権
第六十三條 公權ヲ劊奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨ
リ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ
得
主刑ノ期間免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經
過スルノ後亦同マ
第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復権ヲ得特
赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ終狀中記載スルニ非ザレバ復権ヲ
得ス
第六十五條 復権ニ對シテ非ザレバ之ヲ得ヘカラス
第二章 加減例
第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ
記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

七條)本刑ノ短期
トハ輕懲役若シハ
輕禁獄トシテ六年
以上八年以下ナル
ヲ以テ其最短期ハ
六年ナリ其三分ノ
一即チ二年ヲ以テ
監視ノ期限ト爲ス
○(第卅九條)刑
ノ執行ヲ遂シタル
者○(第五十九條)ニ
定メタル年限ヲ經
過スルニ至リテ免
除
得ルト雖モ特別
監視ノ期間滿テ
得
可ラザルノ刑ヲ
ハ死刑及ヒ無期徒
流刑ノ宣告ヲ受ケ
テ刑者ハ別ニ宣告
爲シテ之ヲ其再ヒ
捕縛ニ就キシ日ヨ
リ五年間ノ監視ニ
付ス○(第四十一
條)監視ニ付シラ

第六十七條 重罪ノ刑ニ左ノ等級ニ照シテ加減ス
一 死刑
二 無期徒刑
三 有期徒刑
四 重懲役
五 輕懲役
第六十八條 同事ニ關スル重罪ノ刑ニ左ノ等級ニ照シテ加減
一 死刑
二 無期徒刑
三 有期徒刑
四 重懲役
五 輕懲役
第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以
下ノ重懲役ニ處スルヲ以テ一等正爲ス
輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁獄ニ
處スルヲ以テ一等正爲ス

ノナル者其規則ヲ
 遵守シ改心ノ状
 ヲ時ハ警察官ヨリ
 内務司法ノ兩卿ニ
 上申シ其命ヲ受ケ
 テ仮令監視ヲ免セ
 ラルハアリ
 第四十三條 (一)
 法律ニ依テ禁制
 シタル物件トハ何人
 ニテモ之ヲ所有ス
 ルヲ禁止シタル
 品物ナリ例金ハ廢
 造シタル貨幣等
 烟毒製ノ圖書等
 ナリ(二)犯罪ノ用
 ニ其ノモノヲ物件ト
 ハ禁制物ヲ製造シ
 タル者禁制物ヲ運
 行スル者禁制物ヲ
 器物即チ禁制物ヲ運
 送スルニ用非タル
 舟車人ヲ運送スル
 ニ用非タル兇器等

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シ
 タル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加算ス
 可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス
 輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年
 ニ至ルコトヲ得
 第七十一條 禁錮ヲ減シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減シ
 タル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下算數一
 圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得
 第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例
 ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス
 違禁罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二
 日ニ至ルコトヲ得減シテ一日以下ニ降スコトヲ得科料ハ加ヘテ
 二圓四十錢ニ至ルコトヲ得減シテ五錢以下ニ降スコトヲ得ズ
 第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ
 一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス
 第七十四條 附加ノ罰金又主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ

リ(三)犯罪ニ因テ
 得タル物件トハ詐
 偽ノ所爲ヲ以テ得
 ル財物器物又強竊
 盜ニ因テ得タル
 ○以上ノ物件ハ裁
 判ノ時言ヒ渡シテ
 官ニ取リ上グルモ
 ノトス尙此外酒造
 稅則ニ違背シテ密
 造シタル酒類出版
 條列ニ背致シタル
 版シタル圖書等ハ
 此刑法ニ拘ハラズ
 各其規則ニ從テ處
 分スルニ依リ(四)
 第十四條(一)第四十三
 條一項ニ當ル物件
 ハ何人ノ所有ニテ
 モ之ヲ官ニ取リ上
 ケ第二項以下ノ物
 件ハ各其所有主ニ
 返付ス可シ但其物

一ヲ加減スルニ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑
 ナ科ス
 第四章 不倫罪及ヒ宥恕減輕
 第七十五條 抗拒ス可カザル強制ニ遇ヒ其意ニ非ザルノ所
 爲ハ其罪ヲ論セス
 天災又ハ意外ノ變ニ因リ避テ可ラザル危難ニ遇ヒ自己若クハ
 親屬ノ身體ヲ防衛スルコト出タル所爲亦同シ
 第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者
 ハ其罪ヲ論セス
 第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規
 則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラズ
 罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラズシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス
 罪本重カル可クシテ犯ス時知ラザル者ハ其重キニ從テ論スル
 コトヲ得ス
 法律規則ヲ知ラザルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ズ

件犯罪人ノ所有ナル時ハ之ニ官ニ没收スル者トス。○ハ徴償ノ犯人罪ヲ犯シタル時ハ其ノ他ハニ損害ヲ被ケタル時ハ被害者ノ請求ニ依リテ之ヲ償却セザル可ラス又刑事ノ裁判ニ付テ呼ビ出シタル證人鑑定人等ノ日常旅費等ハ犯人ヨリ其金額又ハ幾分ヲ徴收スルモノトス。○ハ徴收スル處分ヲ徴償分ト爲ス。○ハ第四十六條ノ罪ヲ犯シタル者其罪ノ爲スニ死刑若シハ他ノ刑一處セラレ又ハ大赦幼若癡疾者等ノ故ヲ以テ其刑ヲ免サルハモ

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セザル者ハ其罪ヲ論セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿ザル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過ギザル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿ザル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ密接シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス且情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キザル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ハ二等ヲ減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿ザル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ハ一等ヲ減ス

第八十二條 癡癲者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キザル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿ザル者ト雖モ

其犯罪ノ爲ニ生シタル損害ノ償ヒ又ハ盜ミ物ノ取リ戻シ等ヲ被害者ヨリ請求スルハ時ハ盜物已ニ典物賣品ト爲ルモ其代價又ハ實物ヲ以テ犯人又ハ其相續人ヨリ償却ヒザル可ラス。○ハ第四十七條ノ數人共ニ一ノ惡事ヲ爲シタル時ハ其裁判費用損害ノ賠償ヲ共犯ノ數人ニテ連帶シテ償却ス可キモノトス。連帶トハ一人共ニ一部ヲ償フトモ全體ノ償却ヲ終ラザレハ二人共ニ義務ヲ免ルモノニ非サルヲ云。○ハ第四十八條ノ此條ノ要償ハ被害者ニ

其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

滿十二歳以上十六歳ニ滿ザル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ハ二等ヲ減ス

第八十四條 此節ハ記載スルノ外特別ノ不諭罪ヲ宥恕減軽ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減軽

第八十五條 罪ヲ犯シテ未ク發覺セザル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ハ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減軽ノ限リニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ没給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ハ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタ

リ其犯人ヲ取り調
 べル刑ヲ裁可シ
 所ニテ之ヲ裁可
 ス可シ若シ刑多
 シハ刑事裁判所ニ
 テハ之ヲ受理スル
 此場合ニハ刑事附
 屬第六十條ニ據テ
 之ヲ民事裁判所ニ
 請求ス可シ若シ盜
 シ物品犯人所有ス
 時ハ被害者ヨリ請
 求ナシモ裁判所ニ
 テ取り上ケテ還付
 ス可シ○第五十
 一條一刑ノ宣告
 ナ受ケタル者其裁
 判ニ服シズシテ上
 訴シタル時ハ其上
 訴正當ニシテ前ノ
 判決不當ナル時ハ
 前判宣告ノ日ヨリ

ル者ハ各其本條ニ從フ

第三節 酌量減輕

第八十九條 重罪輕罪並發罪ヲ分クテ所犯情狀原諒ス可キ者

ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可

キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル

時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ所罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ

該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違背罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違背罪ニ

該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年內再ヒ其違背罪裁判所ノ管

轄地內ニ於テ犯レタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得

ス

刑期ヲ起算ス若シ
 其ノ上訴不當ニシ
 前判正當ナルハ上
 訴ノ裁可宣告ノ日
 ヨリ刑期ヲ起算ス
 故ニ上訴判決マテ
 囚獄ニ在リタル時
 間ハ損失トナル可
 判事ノ裁可ヲ不當
 ト爲シ上訴シタル
 時ハ其ノ上訴不當
 ト不當ナラザル限
 ニ拘ハラス前判宣
 告ノ日ヨリ起算ス
 爲リタル者ハ檢察
 官ノ上訴シタルト
 自ラ上訴シタルト
 訴當不當ナルトコ
 拘ラス保釋或ハ責
 付中ノ日數ハ刑期
 ニ算入スルコトヲ得

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非ザレハ之ヲ

論スルコトヲ得ズ

第九十五條 刑罰國內再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時

ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服シタル者ヲ後ニ

ス若シ再犯再犯其ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ其ニ定役ニ

服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕

罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪當律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレ

ハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ズ

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖

モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ズ

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ狀情ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重

ス(保釋)金罰其他
 罰ヲ以テ向時ニテ
 モ呼ビ出シニ感ズ
 可キトテ約シテ自
 宅ニ還リ候ニ自由
 得ルヲ云フ(其付)
 保釋金ヲ出サシメ
 テ其期朋友ニ預ケ
 置シテ云フ○一保
 出獄ニ重罪輕罪ノ
 刑ニ處モテ守レケル
 者獄期ヲ守ルハ其
 心ノ狀アル時ハ其
 宣告ヲ受ケケル刑
 期ノ四分ノ三ニ減
 ハ八年ノ刑期ナレ
 ハ其四分ノ三即チ
 六年ヲ經過スレハ
 仮ニ出獄シシムル
 コアリ輕罪ノ刑ニ
 處モテ守レケル者
 出獄ヲ得ルハ自宅
 ニ還テ自ラ勤業ヲ
 治メ若クハ職業ヲ

減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂
 犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シ
 タル者ヲ以テ本刑ト爲ス

- 一 再犯加重
- 二 宥恕減輕
- 三 自首減輕
- 四 酌量減輕

第七章 數罪併發

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未ク判決ヲ經テ二罪以上俱ニ發シタ
 ル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス
 重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定
 役アル者ヲ以テ重ト爲ス
 輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若
 シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕シ

若クハ等シキハ之ヲ論ヒス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前條ノ
 刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納
 完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑罰ニ通
 算ス

若シ前發罪ヲ判決ナル時未ク發セザル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シ
 タル者ハ其再犯ト比擬シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第百三條 警罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フト雖モ其沒收及ヒ徵
 價ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自
 ニ其刑ヲ科ス

第百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯
 ト爲ス

第百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正
 犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヲ得ス

若クハ等シキハ之ヲ論ヒス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前條ノ
 刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納
 完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑罰ニ通
 算ス

若シ前發罪ヲ判決ナル時未ク發セザル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シ
 タル者ハ其再犯ト比擬シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第百三條 警罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フト雖モ其沒收及ヒ徵
 價ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自
 ニ其刑ヲ科ス

第百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯
 ト爲ス

第百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正
 犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヲ得ス

ハ復權ヲ得ズ凡テ
 復權ヲ得タル者ハ
 自ラ監視モ免ズ可
 シ(勅令) 天皇陛下
 下ノ御親裁ナリ○
 (第六十七條) 法律
 ニ從テ刑ヲ加重シ
 又ハ減輕ス可キ時
 ハ情事犯國事犯ヲ
 區別シテ本條及ヒ
 第六十八條ノ順序
 ニ從テ加重ス○
 第六十九條(輕懲
 役) 禁錮ニシテ
 一、二年以上五年以
 下ノ重懲禁錮ニ處
 シ若シ二等ノ處ス
 レハ禁錮減等ノ刑
 ニ據リ四分ノ一ヲ
 減シ一年六月以上
 三年九月以下ノ重
 懲禁錮ニ處ス以下
 推知スベシ○第七

第十章 親屬関係
 第十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者
 ナ云フ

- 一 祖父母、父母、夫妻、
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 六 父母ノ兄弟姉妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母父母
- 八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子
- 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹
- 第十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父ト
 稱スルハ職父母姉妹同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫亦同
 シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ養子其養家ニ

十一條、禁錮ノ刑
 期ヲ減シテ下ル時ハ
 拘留ニ處シ罰金ヲ
 減シテ下ル時ハ九
 十五錢以下ニ下ル
 時ハ科料ニ處ス若
 シ又禁錮ヲ減シ其
 長期ハ十一月以上
 ニ在テ短期ハ十日
 以下ニ下ル時ハ拘
 留ニ處スルコトヲ得
 ルナリ罰金モ其少
 數一圓九十五錢以
 下ニ下ル時ハ科料
 料ニ處スルコトヲ得
 ベシ○第七十三
 條(奇罰) 一、奇罰
 數ニシテ一個ニ滿
 サル罰數ナリ二十
 四時ヲ以テ一日ト
 爲ス○因リ二十三
 時以下ハ切リ案テ
 算入セス○第七

於ル親屬ノ對ハ實子ニ同シ

第二編 八益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第十六條 天皇皇后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘント
 シタル者ハ死刑ニ處ス

第十七條 天皇皇后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月
 以上五年以下ノ重懲禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危
 害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒ニ處ス

第十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以
 下ノ重懲禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者
 ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 國事ニ關スル罪

七十四條)主刑ニ
 附加スル罰金ハ主
 刑ト共ニ加減シ若
 減シ盡シタル時ハ
 止ラズ刑ノミナ科
 ス○(不)罪ニ罪ア
 リテモ情狀ニ因リ
 更ニ刑罰ヲ科セザ
 ルヲ云フ○(若)怒
 減(主)事情ニ因リ
 其罪ヲユルメテ一
 等又ハ二三等ヲ減
 輕ス○(第七十五
 條)強テ爲スルナ
 追マラレ如何ナル
 方法ヲ以テモ拒ク
 不能ハザル場合ニ
 遇ヒ餘儀ナシ爲シ
 タル其罪ヲ論ビ
 ス地獄火水變難
 船等存シ寄ラヌ災
 變ニ出遇自分又ハ
 親子等ノ身ヲ階ル
 爲ニ餘儀ナシ犯シ

第一節 内亂ニ關スル罪

第百廿一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ニ僭竊シ其他劇憲ヲ紊亂
 スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷
 ス

- 一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス
- 二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流
 刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス
- 三 兵器金銀ヲ供給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄
 ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス
- 四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シ
 ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁獄ニ處ス

第百廿二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金銀其他
 軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同
 シ

第百廿三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者
 ハ兵ヲ率シテ至ラヌト雖モ内亂ト同シ論シ其教唆者及ヒ下

タル罪ハ之ヲ論セ
 ス○第七十七條 罪
 ナ犯スノ意ナキ所
 爲トハ例外ハ鳥獸
 ナ射ルノ目的ニテ
 放チタル銃丸ソレ
 テ人ヲ殺傷シタル
 如キノ所爲ナリ併
 シ過失殺傷等ノ隨
 罪ニ當ル者ハ各其
 本條ニ從テ○罪ト
 爲ル可キ事實ヲ知
 ラズシテ犯シタル
 所爲トハ例外ハ有
 夫ノ婦女ト知ラズ
 レテ姦通シ偽造ノ
 貨幣ト知ラズシテ
 之ヲ行使シタル等
 ナ云フ○(第七十
 八條)劇毒又ハ強
 烈ノ酒ヲ下テ過テ
 飲ミ夫レガ爲ニ知
 覺ヲ失ヒ精神狂亂
 シ是非ノ辨別ナシ

手ヲ死刑ニ處ス

第百廿四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ
 科ス

第百廿五條 兵隊ヲ召集シ又ハ兵器ヲ教ヲ準備シ其他内亂ノ
 豫備ヲ爲シタル者ハ第百廿一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未ク豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第百廿六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未ク其事ヲ行
 ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年
 以下ノ監視ニ付ス

第百廿七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ
 二年以上五年以下ノ輕禁獄ニ處ス

第百廿八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ
 關シザル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ
 處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第百廿九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戦中同

シテ犯シタル罪ハ
其罪ヲ論セス○
其罪減輕ノ自身ノ
罪ヲ犯シタルコトヲ
後述シ自ラ官ニ申
シ出テ又ハ被害者
ニ告タル時ハ其情
狀ニ因リ刑ヲ減輕
スルコトナリ○
七十九條 懲治場
ニ留置スルハ刑ニ
處スルニハ非ズ
テ只將來ヲ戒メ
ルナリ○
八十
七條 例ヲ以テ解
釋セシ茲ニ竊ニ他
人ノ所有金五十圓
ヲ盜ミシ者アリ此
種若シ但罪ヲ後悔
シテ自ラ被害者ニ
謝シ其金額五十
圓ヲ還給スル時ハ
自首ノ罪ヲ以テ一
等減シ贓物ヲ返

盟國ニ抗敵シ其他本國ニ叛叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百三十條 交戰中敵兵ニ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若シハ本國及ヒ同盟國ノ都府城寨又ハ兵器彈藥給糧其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百卅一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若シハ軍隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若シハ之ヲ殺匿シタル者亦同シ

第三百卅二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戰ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其略遣ヲ收受シテ命令ニ違背シテ準備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

第三百卅三條 外國ニ對シ私ニ戰艦ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其準備ヲ止ル者ハ二等又ハ三等減ス

第三百卅四條 外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル

付スルニ因テ二等
減シ都合三等ノ
減輕ト爲ル○
量減輕ノ犯罪ノ性
質輕重ト可キ者
ハ時ハ裁判官ノ見
込ヲ以テ情事酌量
シテ減輕スルコト
ナリ○
第九十九條
法律ニ於テハ犯罪
加重ス可キ者ニ
モ酌量ス可キ情事
アル時ハ本刑ヲ減
ズルコト得ベシ○
再犯加重ノ犯罪ニ
因リ一度處刑ニ爲
リ後復テ罪ヲ犯ス
時ハ罰ヲ重クスル
コトナリ○
第九十
三條 一クハ違背
罪ノ刑ニ處セラレ
二度目ニ犯シタル
罪モ亦違背罪ニ該
ル時ハ一等ヲ加フ

時共布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ懲禁刑ニ處シ
十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百卅五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ懲禁刑ニ付ス

第三章 暴動ノ罪

第一節 兇徒暴衆ノ罪

第三百卅六條 兇徒シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ詭論ヲ受ケル所雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ懲禁刑ニ處ス

附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百卅七條 兇徒シテ暴動ヲ謀リ官吏ニ強迫シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其協助ニ應ジ暴動ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百卅八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若シハ家屋船倉庫等ヲ燒

期刑ナリ是ヨリ一
等ヲ減スル時ハ有
期刑ト爲リ全ク一
等ノ寛チ得ベシ其
加減ノ順序ニ因テ
如此ノ差チ生ス是
レ殊ニ本條ヲ設ク
ルノ旨ナル可シ但
書ノ意ハ刑ヲ加重
シ又ハ減輕シタル
時ハ其加重シタル
刑ガ又ハ減輕シタ
ル刑ヲ以テ本刑ト
爲スト云フナリ○
（前罪俱發）二罪以
上同時ニ露顯シ又
ハ一罪已ニ發シ未
タ其判決ヲ經サル
ニ復タ一罪發覺ス
ルモ皆數罪俱發ト
爲ス○（第百條）列
令ハ竊盜ノ罪發覺
シテ未タ判決ヲ經
サルニ又強盜ノ罪

第百四十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走
ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス
第百四十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシ
メタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ
第百四十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントレテ未タ
遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラ
サル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓
以下ノ罰金ニ處ス
第百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタ
ル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若シハ隱避セシメタル者ハ十一
日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

露顯シタル時ハ止
テ強盜ノ本刑ノ罪
ヲ科シテ竊盜ノ罪
ヲ問ハス○（第百
二條）二罪以上ヲ
犯シタル者一罪ノ
ニ發覺シ已ニ判決
ヲ經テ後ニ先キノ
ハ發覺ノ罪前發ノ
罪ヨリ輕キカ又ハ
等シキ時ハ其罪チ
論ビス若シ前發ノ
罪ヨリ重キ時ハ前
刑ノ已ニ經過シタ
ル分チ後ノ刑期ヨ
リ減シ去テ殘餘ノ
ミチ科ス若シ前發
ノ刑罰金料ニ該
リテ已ニ納終リタ
ル時ハ一圓ヲ一日
ニ積リテ後ノ刑期
ヨリ差引ク可シ
○若シ又餘罪再犯

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ
第百五十二條 他人ノ罪ヲ免カシメシメテ圖リ其罪證ト爲
ル可キ物件ヲ隱匿シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時
ハ其罪ヲ論セス
第四節 附加刑ノ執行ヲ通ルル罪
第百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル
者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ
二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時
ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非
サレハ再犯ヲ以テ論スルコト得ス
第五節 私ニ軍用ノ銃藥彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪
第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得ズシテ陸海軍ノ兵

ノ罪ト俱ニ處シタルハ重刑ニ等シテ加重シタル刑ト比ベテ重キ方ノ刑ニシテ科シ前段ノ刑ニ關セズ○(數人共犯)一ノ惡事ヲ二人以上ニテ相共ニ犯スルコトヲ○(正犯)一ノ惡事ヲ爲スニモ其擧事ニ由リ自ラ罪ノ輕重ヲ決スル者ニテ例令ハ三人共ニテ盜ヲ爲スモ二人ハ現ニ盜ニシテ爲シ人ハ止テ盜ニシテ方ヲ指示セシマテナル時ハ盜ニシテ爲シタル者同ユリ重クシテ正犯ト爲シテ指示セシ者ハ從犯タル可シ○(第百四條)二人相共ニ

ニ做スル銃砲藥其他破製質ノ物品ヲ製造シタル者ハ三月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニテ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ
前項ノ物品ヲ私匿販賣シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止マテ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス
第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ製造シ供給ル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス
第六節 往來通信ヲ妨害スル罪
第百六十二條 道路橋梁河溝堤埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若シハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ
第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス
第百六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ
第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

現在其場ニ於テ罪ヲ犯シタル者ハ正犯ト爲シテ人毎ニ其刑ヲ科ス教唆或ル事ヲ爲ス可シトテ之ヲ他人ニ勸メテ已レノ罪ノ如ク行ハシムルヲ云フ○(第百六條)數人相共ニ人ヲ傷シ其犯人中ニ被害者ノ子孫交リ居タル時ハ其子孫ノ刑ヲ加重シテ其他ノ犯人ニ加重スルコトヲ得ス○(第百七條)一人他ノ一人ヲ教唆シテ強盜ヲ爲サシメタル時ハ二人以上トシテ加重スルコトヲ得ス何トナレハ一人ハ教唆者ナルヲ以テ其數ニ算入セザルハナリ○

ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若シハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ
第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス
第百六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ
第六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

（第百八條）爲サシ
 メント欲スルコトヲ
 豫メ指圖シテ他人
 ニ爲シシメシニ他
 人其指圖シシコト
 リ以外ノ罪ヲ犯ス
 カ又ハ其指圖シタ
 ル仕方ヲ變ノ教唆
 者ノ存外ノ罪ヲ犯
 シタル時ハ本條第
 一第二ノ例ニ照シ
 テ刑ヲ科ス。○第
 百十條）身分ニ從
 テ刑ヲ加重ス可キ
 者從犯ナル時ハ其
 身分ニ因テ受ケ可
 キ本刑ヨリ一等ヲ
 減スルヲ云フ例令
 ハ一子アリ他人ヲ
 指テ誘導シテ其父
 母ヲ毆打シ死ニ致
 サシメタル時ハ正
 犯ハ重懲役ニ處シ
 其一子ハ子タル身

第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀕車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住處ヲ侵ス罪

第百七十一條 警備故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ二等ヲ加フ

- 一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時
- 二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時
- 三 暴行ヲ爲シテ入りタル時
- 四 二人以上ニテ入りタル時

分ニシテ其罪ヲ死
 ニ致サシメタルニ
 因リ其本刑ハ死刑
 ナントモ從犯ナル
 ナリテ一等ヲ減シ
 無期徒刑ニ處ス可
 シ○又ハ項正犯ハ
 瘡腫者ニシテ其罪
 免セラントタル時
 雖モ其從犯ヲ免ス
 ルコト得ス但正犯
 受ケ可キ刑ヨリ一
 等ヲ減ス可シ○ハ
 未遂犯罪ノ罪ヲ犯
 サントシテ未ダ全ク
 爲シ終ラサル者又
 ハ將ニ犯サントシ
 未ダ着手セザル者
 ナクフ○（第百十
 一條）本條別ニ刑
 名ヲ記載スルコトハ
 其犯人ノ犯サント
 スル罪ヲ照スヘキ
 條節ニ於テ刑名ヲ

第百七十二條 夜間故チ人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重スヘキ所爲アル時ハ二等ヲ加フ

第百七十三條 故チ皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄タル罪

第百七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ二等ヲ加フ

第百七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官
 省ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二
 年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷
 シテ疾病ヲ作爲シ其詐僞ノ所爲ヲ以テ兵役ヲ圖リタル時ハ一
 月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ
 附加ス
 若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シテ徵募ニ應セシメタル者
 亦同ノ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應レタル者ハ第二百三十一條ノ
 列ニ照シテ處斷ス
 第二百七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析
 又ハ鑑定ヲ命ゼラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓
 以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百八十條 裁判所ヨリ証人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命ゼ
 ラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第二百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港
 スルニ當リ醫師其他思手検査ヲ又ハ消毒ノ方法ヲ陳述スルコ
 トヲ命ゼラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十
 圓以下ノ罰金ニ處ス
 獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ二等ヲ減ス
 第四章 信用ヲ害スル罪
 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪
 第二百八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シ
 タル者ハ無期徒刑ニ處ス
 若シ製造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
 第二百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ
 行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス
 若シ製造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第二百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若シ
 ハ製造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ
 照シテ處斷ス

父母トハ母方ノ父
 母トハ父方ノ母
 妻ノ生メル子ニ非
 ザル者ヨリ正妻ヲ
 稱シテ嫡母ト云ヒ
 正妻ノ生メル子ニ
 非ザル者ヲ庶子ト
 云フ即チ妾腹ノ子
 ナリ孫ノ子チ曾孫
 ト云ヒ曾孫ノ子チ
 玄孫ト云フ娘メノ
 子チ外祖ヨリ稱シ
 テ外孫ト云フ
 第二編(公)益ニ
 關スル罪(一)一般
 人ニ關係スル書ヲ
 爲罪(第百十六
 條)天皇ニハ先帝即
 太上天皇モ之ニ合
 メリ三后ハ太皇太
 后皇太后皇后皇
 太子ハ皇子中ニテ
 已ニ御世嗣ヲ定マ
 リテ者○第百十

七條)天皇三后皇太子ノ御墳墓ヲ稱テ皇陵ト云フ○(國事ニ關スル罪)國ノ政事ニ關係スル罪即チ國事犯ノ罪○(第百廿一條)形府ヲ顛覆スルトハ政体ヲ變更セントシ若クハ自ラ政治ノ大權ヲ握ラントシ現在ノ官吏ヲ驅逐シ從來ノ組立ヲ破滅スルヲ云ヒ邦土ヲ僭竊スルトハ一國ノ地方等ヲ奪取シテ獨リテスルヲ云ヒ朝廷ヲ紊ルヲ云フ○以上ノ事ヲ爲シ國内ニ於テ騷動ヲ作シタル者ハ

第百八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ偽造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造ノ已ニ成テ未ダ行使セザル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未ダ成ラザル者ハ二等ヲ減ス
若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未ダ着手セザル者ハ各三等ヲ減ス
第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供セタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス
第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス
第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ偽造

本條一二三四項ノ區別ニ從テ其罪ヲ定ム可シ一軍若クハ一隊ノ長首トシハ一隊ノ指圖ヲ爲シ衆人ニ謀策ヲ議スル等肝要ノ職務ヲ爲シタル者(一)叛亂者ト共ニ事ヲ爲サハルモ兵隊金錢食糧等ノ叛亂ヲ作スニ必要ナル者ヲ給與シ又ハ是等ヲ聚集シ軍用ナル等ノ事ヲ掌リタル者(四)教唆者ノ勸誘ニ從ヒ之ニ同意シテ附キ隨ヒタル者○(第百廿二條)政府ノ處置ニ憤リテ懷キ之ヲ變更セシトシテ其目的ヲ達スルヲメ政府ノ顯官等ヲ暗殺スル

變造ノ刑ニ同シ
第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス其未ダ行使セザル者ハ各三等ヲ減ス
第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處ス者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入收受シタル者未ダ行使セザル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス
若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未ダ行使セザル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス
第百九十三條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但シ其罰金ハ二圓以下ニ降ヌコトヲ得ス
第二節 官印ヲ偽造スル罪
第百九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者

如キハ未タ兵ヲ起
スニ至ラヌトモ最
早内亂ヲシタル者
ト同罪トス乃チ教
唆ヲ爲シタル者及
ヒ現在手ヲ下シテ
殺シタル者ナリ刑
ニ處ス。○(第百廿一
四條)第百二十一
條第百二十二條第
百二十三條ノ罪ヲ
犯サントシテ未タ
遂ケサルモ各本
條ニ掲ケタル刑ヲ
科スル者トス。○
第百廿五條一此條
ハ内亂ヲ起スノ用
意ヲ爲シタル者
ニテ未タ起リ立タ
ザル者ナリ。○(外
國ノ罪ニ關スル罪
ノ戰爭ニ關スル罪
○第百廿九條)外

ハ無期徒刑ニ處ス
第百九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル
者ハ重懲役ニ處ス
第百九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記号印章ヲ偽造シ
又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス
書籍什物等ニ押用スル官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使
用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
第百九十七條 御封國軍官印記号印章ノ影取ヲ盜用シタル者
ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ罪ニ照シ各一等ヲ減ス
若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ罪ニ同シ
第百九十八條 官ノ封印シタル各物ノ印紙界紙及ヒ郵便切手
ヲ偽造シ又ハ其封印シタル各物ノ印紙界紙及ヒ郵便切手
年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ其封印シタル各物ノ印紙界紙及ヒ郵便切手
第百九十九條 記号印章ノ各種ノ印紙及ヒ郵便切手再
七州用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百條 此節記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル

國ト一政ヲ自國ト外
國ト戰爭中直接ニ
自國ニ敵シタルモ
自國ト一致シタル
身方ノ國敵ニ對シ
タル等凡テ自國ニ
叛キテ敵兵ニ附キ
從ヒタル者ハ外刑
ニ處ス。○(第百廿
一條)自國又ハ自
國ニ身方ナル國ノ
軍隊ニ通過シ又ハ
敵國ニ通過シ又ハ
兵隊ヲ屯集シ又ハ
アル要害ノ地又ハ
道路ノ險阻ナルト
平垣ナルトノ地理
ヲ敵國ニ通シ知ラ
スル者ハ無期徒刑
ニ處ス(間諜)機子
ヲ探リ見ル者(竊
置)除竊シテ捕獲
チ免カレシム。○

モノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者
ハ六月以上二年以下ノ監禁ニ付ス
第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪
第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑
ニ處ス
詔書ヲ新乘シタル者亦同シ
第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル
者ハ輕懲役ニ處ス
官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ
第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造
シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ
第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シ
テ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百二條 陸海軍ノ物品ヲ取リ輸用シタル者ハ爲ス者又ハ其ノ入用ノ物品ヲ造ル者等自國外國ノ戰事中等外國ト謀計ヲ通シ合ヒ又ハ外國ヨリ贈物ヲ受テ自國ノ命令ニ背キテ軍用ノ物品ヲ不足ニシメ自國ノ不利ナルヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ處ス

○(第百四條) 外國交戦ノ時外國ト外國トテ戰事スルハ何レノ方ニモ附カス之ニ關シサルナク

○(第百五條) 安穩ヲ害スルヲ騷々敷クテ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減刑ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若シハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六條 惡徒多人聚徒ヲ結ビ亂暴シテ

○(第百一十條) 未タ

○(第百一十一條) 未タ

○(第百一十二條) 未タ

○(第百一十三條) 未タ

○(第百一十四條) 未タ

○(第百一十五條) 未タ

○(第百一十六條) 未タ

○(第百一十七條) 未タ

○(第百一十八條) 未タ

○(第百一十九條) 未タ

○(第百二十條) 未タ

○(第百二十一條) 未タ

○(第百二十二條) 未タ

○(第百二十三條) 未タ

○(第百二十四條) 未タ

○(第百二十五條) 未タ

○(第百二十六條) 未タ

○(第百二十七條) 未タ

○(第百二十八條) 未タ

○(第百二十九條) 未タ

○(第百三十條) 未タ

○(第百三十一條) 未タ

○(第百三十二條) 未タ

○(第百三十三條) 未タ

○(第百三十四條) 未タ

○(第百三十五條) 未タ

○(第百三十六條) 未タ

○(第百三十七條) 未タ

○(第百三十八條) 未タ

○(第百三十九條) 未タ

○(第百四十條) 未タ

○(第百四十一條) 未タ

○(第百四十二條) 未タ

○(第百四十三條) 未タ

○(第百四十四條) 未タ

○(第百四十五條) 未タ

○(第百四十六條) 未タ

○(第百四十七條) 未タ

○(第百四十八條) 未タ

○(第百四十九條) 未タ

○(第百五十條) 未タ

第二百一十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂メザル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百一十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百一十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百一十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受クル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百一十五條 公務ヲ免ル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ

唆者ヲ同罪ニ處ス
 ○(百卅九條)行政
 司法官署ノ命令ヲ
 執行スルトハ租稅
 ナ徵收シ犯人ヲ捕
 縛糾問スル等ノ事
 ナ行フヲ云フ○蒸
 行強迫トハ手荒キ
 所爲ヲ以テ無罪ニ
 追リ付ケルコト○
 第百四十一條)官
 吏カ其職務ノ事ヲ
 行フニ當リ其眼前
 ニ於テ身振又ハ有
 語ニ以テ之ヲ偽リ
 辱メタル者ハ本條
 ノ刑ニ處ス可シ其
 日新開書冊圖書
 行ノ新開書冊圖書
 ナ以テスルカ若ク
 ハ總衆ノ中ニテ演
 說ヲ爲シ侮辱シタ
 ル者モ同罪トス○
 (第百四十二條)已

證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲ニシ他人ノ爲メニス
 ルヲ分クヌ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓
 以下ノ罰金ヲ附加ス
 醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ
 第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免ガル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ
 偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リ
 タル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
 第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減與換シテ行使
 シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ
 第六節 偽證ノ罪
 第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタ
 ル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時
 ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス
 一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ
 重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ

決ノ因トハ已ニ裁
 判決定シタル者ヲ
 云フ若此因徒逃走
 シタル者ハ已ニ處
 セラレタル刑ノ外
 ニ本條ノ刑ヲ科ス
 其逃走ノ模様ニ由
 リ發見ヲ爲シ獄舎
 ナ破リイマシメノ
 器具ヲ毀チタル者
 ハ末項ノ刑ニ處ス
 ○(第百四十四條)
 未タ判決ニ爲ラサ
 ル囚人逃走シタル
 者ハ數罪俱發ノ例
 ニ照シ前ニ犯シタ
 ル刑ト比較シ一ノ
 重キ罪ニ從テ處斷
 ス○(第百五十三
 條)犯人ノ親屬ハ
 成ル可ク犯人ノ罪
 ナ免ルシメント欲
 スルハ人情ナレハ
 前二條ノ罪ヲ犯ス

重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 三 違刑罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ從
 テ處斷ス
 第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ
 偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
 第二百二十條 被告ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ
 例ニ照シテ處斷ス
 一 重罪ニ陷ラレムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下
 ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下
 ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下
 ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百廿一條 偽證ノ爲メ被告大刑ニ處セラレタル後ニ於テ
 偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反座ス若シ反座ノ刑
 前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處

モ其罪ヲ論セサル
ナリ ○(第百五
十七條)官ノ命令
モ無ク又ハ官許チ
得ヌシテ軍用ト爲
ス可キ小銃大砲彈
丸火藥其他破襲ス
可キ危險ノ物品ヲ
製造シ又ハ其品ヲ
外國ヨリ買ヒ入レ
タル者ハ本條ノ刑
ニ處ス ○(第百六
十一條)單ニ其用
ニ供ス可キ者トハ
他ノ用ニハ供ス可
ラサル者ニシテ唯
軍用ノミニ供ス可
キ器械ナリ是等ハ
常人ノ所有ス可ラ
サル者ナレハ何人
ノ所有ニテモ之ヲ
沒收ス可シ ○(往
來通信ヲ妨害スル
罪)通行ヲ妨害スル

斷ス
其刑期限内於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數
ニ照シテ反座ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ニ
リ降スコトヲ得ス

第二百廿二條 偽證ノ爲メ被告人生刑ニ處セラレタル時ハ反
座ノ刑一等ヲ減ス其未ク刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル
時ハ二等ヲ減ス
若シ被告人ヲ死ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死
刑ニ反座ス其未ク刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一
等ヲ減ス

第二百廿三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタ
ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス

第二百廿四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者
詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照
シテ處斷ス

第二百廿五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑記シテ偽證又ハ
詐僞ノ利益通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ
第二百廿六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁
判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪
第二百廿七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ
二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス但官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官
印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百廿八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者
ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百廿九條 商賣農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタ
者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐僞取財ヲ以テ論ス
第二百三十條 人囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタ

又ハ郵傳信等ノ
通信ヲ通スルヲ妨
害シタル罪 ○(第
百六十三條)偽僞
ノ計ヲ以テスルカ
又ハ假借シテ等ノ
計ヲ以テ威シ付ケ
テ郵便ノ送達ヲ妨害
シ又ハ其送達ヲ遲
延シシメタル者ハ
第百六十二條ノ刑
ニ處ス ○(第百六
十條)度量衡ノ往來
ヲ妨害スル爲メ鐵
道ヲ破壞シ又ハ其
目印ト爲ス可キ者
ヲ毀損シ其他凡テ
電車ヲ顛覆シシメ
ントスル障ヲ爲シ
タル者ハ重懲役
ニ處ス而シテ已ニ
顛覆セシメタル者
ハ第百六十九條ニ
從テ處斷ス ○(第

第二百廿五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑記シテ偽證又ハ
詐僞ノ利益通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ
第二百廿六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁
判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

百六十六條 燈臺
海岸ニ高臺ヲ築キ
燈火ヲ點シ遠方ノ
船舶ヲ望シ見テ
以テ方位ヲ知ル爲
メノ目印ヲシテ海
標ノ時標ノ在ル所
又ハ潮流危險ノ場
所ニ浮ベタル目印
○航海ノ安寧ヲ保
護スル爲メ凡テ
船舶ノ海ヲ渡リ行
クニ安全ナル目印
ルヲ設ケタル目印
○人ノ住所ヲ侵ス
罪○人ノ住居ヲ看
守シタル家屋ニ入
ル罪○第百七十
一條 人ノ看守シタ
ル建造物トハ人ノ
住居セルニ非サレ
モ神社佛閣ニ造場
等ノ看守ヲ爲シ
タル家屋○(一) 儲

ル者ハ其屬託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
第八節 身分ヲ詐稱スル罪
第二百卅一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏
名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處
ス
第二百卅二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服食徽章若クハ内
外國ノ勳章ヲ借用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ
シ處ス二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪
第二百卅三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者
ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス
第二百卅四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ
投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以
上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百卅五條 投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其切票ヲ

論 開シトハ錠前
ヲ破リカキガ子又
ハクサリチ切ルチ
云フ(一) 刃物又ハ
錠等ノ品ヲ所持シ
テ入りタル時○官
ノ封印ヲ破棄スル
罪○官署ニテ施シ
ル封印ヲ切リ破ル
罪○公務ヲ行フ
ナ拒ム罪○公然ノ
職務即チ官ノ職權
ヲ以テ行フコトヲ拒
ム罪○第百七十
八條 陸海軍ノ徵
兵ニ爲ル可キ者其
徵兵ヲ免カレン爲
メ故サラニ自分ノ
身ヲ傷シ疾病ヲ
生シシメ其外凡テ
正當ニアラサル所
爲ヲ爲シテ免役ヲ
圖リタル者ハ本條
ノ刑ニ處ス○若シ

製造シ又ハ増減シ時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ
四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百卅六條 罰金課税ノ納付ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ增
減シ其他詐稱ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第五章 健康ヲ害スル罪
第九節 阿片烟ヲ關スル罪
第二百卅七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ
タル者ハ有期徒刑ニ處ス
第二百卅八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造
シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス
第二百卅九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入
セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ
第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖
ル者ハ輕懲役ニ處ス
入ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同

他人ヲ已レノ代人
ニ預ミ巴レノ氏名
ヲ詐稱セシメテ徵
兵ト爲ラシメタル
者ハ同罪ト爲ス又
頼ミテ受ケテ代人
ト爲リ徵募ニ應ジ
タル者ハ二圓以上
二十圓以下ノ罰金
ニ處ス(○第百七
十九條)化學家ト
ハ物体ノ元質ヲ分
析シ又ハ抱合セシ
ムル等ニ通シタル
者即チ舍密學者ナ
リ解剖トハ死屍ソ
ヲ分ケテ爲スヲ云
○信用ヲ害スル罪
人々ノ信シテ用ル
ル物ニ人ヲシテ其
信用ヲ欠カシムル
罪(第百八十二條)
我日本ノ國內ニテ
發行シ通用スル金

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下
ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シ
タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十三條 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪
人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用
フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一月以下ノ重
禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變
シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ
三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シ
タル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ
入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月

以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰
金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ
知テ制止サル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地
方ヨリ他處ニ出テタルモノハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ
處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ
獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處
シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ
關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得ズシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所
ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上
百圓以下ノ罰金ニ處ス

貨銀貨及ヒ紙幣ヲ
全シ偽物ヲ以テ私ニ
造リ一銅ニ鐵金ニ
命貨ト爲スノ類
ハ無期徒刑ニ處ス
○若シ全體ヲ造リ
タルニ非スシテ已
ニ在ル者ヲ造リ變
ヘ一圓ヲ五圓ト
爲シ十錢ヲ二十錢
ト爲スノ類ハ已ニ
使用シタル者ハ輕
懲役ニ處ス(○第
百八十六條)前三
條ニ記載シタル貨
幣ヲ偽造シ若シハ
變造シ已ニ出來上
リテ未ダ使ハ用ヒ
タル者ハ已ニ使用
シタル者ノ刑ニ一
等ヲ減ス可シ(○
第百八十九條)外
國ニテ已ニ偽造變

造シタル貨幣ヲ内
國ニ積ミ來リタル
者ハ内國ニテ偽造
變造シタル者ト同
罪ナリトス
○(第
百九十九條)偽造變
造シタル貨幣ヲ知
テカテ其偽貨幣ヲ
受ケ取リテ使用シ
タル者ハ凡テ偽造
變造シタル者ニ使
用シタル者ノ刑ニ
等ナリトス
○其偽
貨幣ヲ受取リタル
マテニテ未タ使用
セサル者ハ三等ヲ
減ス
○各ノ字ハ金
銀貨紙幣及ヒ銅貨
ニ偽造變造シタル
各條ト指ス
○(第
百九十九條)
貨幣ヲ受取リタル
後ニ於テ始テ其
貨幣ノ偽造又ハ變

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設
スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ
前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シ
タル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪
第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シ
テ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ
十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致
シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第六節 私ニ醫藥ヲ爲ス罪
第二百五十六條 官許ヲ得テ醫藥ヲ爲スル者ハ十圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷

造ナルコトヲ知リ之
ヲ使ヒ拂ヒタル時
ハ其金高ノ二倍ノ
罰金ニ處ス
例令ハ
五圓ヲ行使スレハ
十圓ノ罰金ニ處ス
但五十圓ヲ行使ス
ルモ二圓以下ニ
下スナ得サルヲ以
テ其罰金ハ二圓ナ
リトス
○(第百九
十四條)御印ハ天
皇陛下ノ御印
ニシテ勅任官ノ辭
令書ニ捺用ス印文
ニ天皇御印ノ四字
アリ
○(第百九十五條)
及ヒ外國ノ交際公
使ノ委任狀等ニ捺
用ス文ニ大日本國
印ノ五字アリ
○(第百九十七條)
印章ノ影蹟ヲ盜用
スルトハ之ヲ偽造

ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第六章 風俗ヲ害スル罪
第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三
十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其也假令ノ物品ヲ公
然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處
ス
第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタ
者ハ三月以上一年以上ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰
金ヲ附加ス
第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル
者ハ此限リニ在ラス
賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒取ス
第二百六十二條 財物ヲ賭集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ

スルニ非ズシテ眞
正ノ印ヲ捺用スル
其印影ヲ捺用スル
ヲテナリ
九十八條 各種ノ
印紙界紙ハ各種ノ
印紙證券印紙證券
界紙ナリ
二百三條 天皇陛下
ノ御用ニテ偽造シ又
ハ其文面ヲ改テニ
増減シ又ハ變改シ
テ使用シタル者ハ
無期禁刑ト爲ス
（第二百四條）官吏
ノ公證シタル文書
トハ地籍建物ヲ賣
入書入賣買スル時
之ヲ請スル爲メ戶
長ノ與書ヲ爲メ等
ノ書類無記名ノ公
債證券下ノ起業公
債證券等所有主

業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以
上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ
所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ誠敬又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰
金ニ處ス
第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪
第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以下
一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル
者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス
因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ
五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ク遂
ケタル者ハ未ダ犯罪ノ例ニ照シテ處ス

ノ氏名ヲ記セ、ル
者○（第二百六條）
官人ノ印章ヲ偽造シ
タル者ハ三月以上
一年以下ノ禁錮ト
シ至リ官印ヲ偽造
ナルカ又ハ影贖ヲ
盗用シタル者ハ官
印ヲ偽造シタル者
ノ本條ニ照シ其重
キ刑ニ處ス○私
印私書ヲ偽造スル
罪ハ私用ニスル印
形書類ヲ偽造スル
罪○（第二百九條）
私書ヲ以テ買買ス
ルキ證書トシテ
免許證ノ如キ是ナ
リ○（第二百十條）
贈遺トハ人ニ物ヲ
贈リ與フルヲ權利
義務ニ關スル證書
トシテ已ノ代理下爲
ス用用ナル委任狀

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪
第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ
缺ク可カラザル食料物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月
以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ニ罰金ニ處シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ
減ス
第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シ
ル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル
者ハ前條ニ同シ
第二百七十條 農工ノ雇人共職賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景
況ヲ變ゼシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ
妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百七十一條 雇主共雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變ズ

等ナリ ○(第二百十五條) 證人又ハ鑑定人等裁判所ノ呼出シテ受ケ之ヲ免レト欲シ醫師ノ氏名ヲ用井テ病氣ノ容狀書ヲ偽造シ之ヲ使用シタル者ハ自身ノ爲ニスルモ他人ノ爲ニスルモ何レニテモ本條ノ刑ニ處スヘシ

○偽證ノ罪 偽ノ保證ヲ爲ス罪 ○(第二百十八條) 刑事ニ關スル證人トシテ犯罪人ノ罪ヲ犯ス時ノ狀情ヲ見聞シタルリテ陳述シテ其事ノ確實ナルヲ保證スル者ナル其證人タル者若シ犯人ヲカハラヒ其事實ヲ抑シ隠シシニ偽

ル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽言威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 一處偽ノ風説ヲ流布シテ毀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏擅權ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏公官堂ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ毀壞ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サハル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

證ヲ爲シタル者ハ本條一三三項ノ區別ニ依テ處ス ○(第二百廿三條) 刑事ニ關シテ被告ノ人ニ對シテ無實ノ事ヲ陳述シテ偽證ヲ爲シ其罪ヲ重カシメ又ハ無罪ヲ有シ其罪者ト爲ラシメタルハ本條一三三項ノ區別ニ依テ處斷ス

○(第二百廿四條) 反坐トハ刑事ノ被訴人偽證ノ爲メニ處シタル刑ニ爲證人トシテ其反坐ス可キ刑前二倍ノ刑ニ輕キ時ハ前條ノ刑ニ處シ重キ時ハ反坐ノ刑ニ處ス可キ ○(第二百廿三

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官官吏共報告ヲ受ケテ遠ニ保護ノ處分ヲ爲サハル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セズシテ囚人ヲ監禁シ若シハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

條此條ハ刑事ト異リ
 身體ニハ罰セズ
 又ハ被告ハ
 損害ヲ被ラズル
 爲メ偽造シタル者
 ニテ之ヲ反坐セシ
 ムルコトハ出來ス故
 ニ本條ノ刑ニ處ス
 ○(第二百廿九條)
 定規ヲ増減シタル
 度量衡トハ度ハ尺
 度量ハ兩ハハカ
 リ凡テ一定ノオキ
 テニ背キタル不正
 ノ度量衡ヲ云フ個
 令ニ買方ニハ寸大
 ノ沖ヒタル樹ヲ以
 テシ賣方ニハ縮タ
 ルヲ用キル等不
 ノ所爲ヲ以テ財ヲ
 欺キ時ハ第三百
 九十條以下ノ詐偽
 取付條ニ從テ處罰
 ス○(第二百卅一

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ差送者囚人ニ對シテ飲食衣服ヲ屏去シ其尙苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ重キニ從テ處罰ス

第二百八十一條 水火災變ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ懈コテ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 其刑官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ軍狀ヲ陳述ヒシムル爲メ奉行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處罰ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理ス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

條 風籍身分ヲ詐稱シルトハ平民ニシテ華士族ト稱シ主ニ非ムシテ主ト稱シ庶子ニシテ嫡子ト稱スルノ類若シ官署ニ對シテ非條ノ罪ヲ犯ス時ハ二條以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス可シト雖モ相互ヒテ詐稱シタル者ハ此條ノ問フ所ニ非ス○(第二百卅三條)公選ノ投票トハ府縣會同村會ノ議員若シハ市長學務委員等ヲ選スルノ投票ナリ私立ノ會社ノ役員ヲ選スル等ニ關スル者ハ此條ノ問フ所ニ非ス○(第二百卅四

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ以テ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條 裁判官檢察官官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告ハテ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

用六條投票ノ旨數ヲ取リ調へ其人等ヲ記録シテ其落着キ報告スルコトヲ掌ル者○(健康ヲ害スル罪)人ノ身ヲ保全スルコトヲ責ムル者○(第二百卅七條)阿片ニ二種アリ一ハ藥用阿片ニシテ一ハ阿片烟ナリ阿片烟ハ日本ノ烟草ヲ吸用スルコト其用リテ吸食スル者ニシテ其健康ヲ害スルコト甚トス此條ニ稱スル者ハ即チ阿片烟ニシテ藥用阿片ニ非ス是ヲ外國ヨリ賣入ルコト又ハ製造シ賣捌キタル者ハ有期徒刑ニ處ス○飲料ノ淨水ヲ汚

若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス
 第二百八十七條 裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ收受聽許シスト雖モ情ニ恟カヒ又ハ怒ヲ挾ミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
 第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス
 第三節 官吏財産ニ對スル罪
 第二百八十九條 官吏自ラ監下スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタ者ハ輕懲役ニ處ス
 囚テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス
 第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ罰罪ノ刑ニ處ス

穢スル罪并戸水又ハ水道ノ水等ノ人ノ飲用ニスル淨水ヲ汚シ健康ヲ害スル罪○(第二百四十四條)人ノ健康ニ害アル毒物ヲ用ヒテ飲用ノ水質ヲ變シ又ハ腐ラシメタル者ハ前條ノ罪ヨリ重シ因テ本條ノ刑ニ處ス○(第二百四十六條)傳染病ハ衆人ノ普ク知ル如ク些少ノ媒介ヲ因テモ能ク病ヲ傳染スル者ナリ故ニ其流行ノ際ニ方テハ務テ傳染ノ媒介ヲ除カサル可ラス若シ船中ニ其病者アリテ乘客荷物等ヨリ傳染スル時ハ爲ニ數千百人

ル者ハ六月以上二年以下ノ監禁ニ付ス
 第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪
 第一章 身體ニ對スル罪
 第一節 謀殺故殺ノ罪
 第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス
 第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス
 第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス
 第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス
 第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯テ其罪ヲ免ガル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス
 第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以

者ハ現在其場ニテ捕獲サレタル者又ハ博奕ヲ爲スル者又ハ博奕ヲ知テ房室家屋ヲ貸與シタル者ハ本條ノ刑ニ處ス○
 (第二百六十二條) 利益ヲ獲得スルノ業ヲ興行スル者トハ些少ノ財ヲ以テ許多ノ財ヲ得ントシ萬一ノ利益ヲ貪ルノ業ヲ取リ設ケ以テ已レテ利スル者ナリ○死屍ヲ毀棄シ及ヒ遺棄ヲ殺傷スル罪死体ヲ切リ毀棄投ケ棄テ又ハ埋葬シタル死体ヲ掘リ出シタル罪
 ○(第二百七十條) 農工業ノ狀況ヲ變セシムル爲メトハ其就業ノ日數時間

第三百七條 健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス
 第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス
 第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不輪罪
 第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受ケルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス
 第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得
 第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺シ傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス
 第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

ヲ短クセシメ爲メ特ナリ○官吏職ニ由リテ爲ス可キ事務ヲ爲ス可キ事務又ハ役柄ニ對シテ爲ス可キ事務ヲ官吏タルノ體面ヲ損シタル者○
 (第二百七十四條) 陸海軍ノ兵隊ヲ要請シ之ヲ使用シテ地方ノ一擧一動等ヲ鎮撫ス可キ權ヲ有シ且ツ其責任ヲ負ル者其處分ヲ爲サシムル時ハ本條ノ刑ニ處ス可シ○
 (第二百七十五條) 官吏ノ爲ス可カラハル商業ハ明治八年太政官第六十五号ノ達ニ由リテ定メラレタルハ之ヲ左

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ三等又ハ三等ヲ減ス
 第三百十四條 身體性命ヲ盜奪ス防衛爲メ自ラ殺傷セタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス
 第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已レテ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ減ス
 一 財産ニ對シテ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時
 二 盜犯ヲ防止シ及ヒ盜賊ヲ取還スルニ出タル時
 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時
 第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルニ雖モ已レテ得サルニ非ズレテ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不輪罪ノ限ニ在ラズ但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコト

ニ記載セシモノ第一
 條一凡ソ官吏モル
 者並ニ其家族トモ
 他ノ物品ヲ買入レ
 テ利ヲ得ル者或ハ
 他ノ生産ヲ買入テ
 製作ヲ加ヘ之ヲ販
 賣シテ利ヲ獲ル等
 ノ業一切禁止ス事
 ○但區戶長郵便取
 扱入學區販賣及
 等外吏ノ分限
 ニアラス 第二條
 官吏ノ家族トモ
 財ヲ以テ商賣ノ業
 ヲ營ムル下欲スル
 者ハ分籍別居ノ上
 相當ノ人トキ事ニ第
 三條 左ノ事件ハ第
 三條ノ業ニアラス
 商賣ノ業ニ付テハ
 一 離モ制禁スル者
 事○但商賣同

ヲ得ル者ハ一圓以上三圓以下ノ罰金ニ處スル
 第四節 過失殺傷ノ罪
 第三百十七條 一 踴躍懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セテ過失ニ因テ
 人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三百十八條 一 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱瘓疾ニ致シタル者ハ
 十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三百十九條 一 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタ
 ル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五節 其自殺ニ關スル罪
 第三百廿條 一 人ヲ教唆シテ自殺シレバ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺
 人ヲ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處
 シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ其他自殺ノ補助ヲ爲シ
 タル者ハ一圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三百廿一條 一 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺シレバ又ハ
 者ハ重懲役ニ處ス
 第六節 擅入ヲ逮捕監禁スル罪

相成候事○一 砲山
 田地利事○一 田地
 家屋ヲ貸シテ地代
 宿賃ヲ貸ル事○一
 金銀ヲ貸シテ利息
 ヲ獲ル事○一 所有
 地ニテ生スル物産
 三製作ヲ加ヘ賣拂
 事○一 第二百十
 七條 一 人身體
 傷害シテ財産ヲ劫奪
 スル犯人アル報告
 ナ受テ豫審判事
 檢事警察官史速ニ
 犯人ヲ捕獲スル事
 被害者ヲ保護セシ
 ル時ハ本條第百
 七十八條ニ據テ第
 百七十八條ニ據テ
 吏トハ檢事司法官
 察官巡查等アリ若
 犯人ヲ逮捕スル

第三百廿二條 一 擅入ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十
 一圓以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金
 ヲ附加シ但監禁日數十日ヲ過クシ毎一圓等ヲ加フ
 第三百廿三條 一 擅入ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣
 服ヲ屏退シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上二年以下
 ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第三百廿四條 一 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル
 者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重懲ニ因テ處斷ス
 第三百廿五條 一 擅入ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クト
 テ怠ル者死殺ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
 第七節 脅迫ノ罪
 第三百廿六條 一 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋
 ニ放火セシト脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處
 シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第三百廿七條 一 毆打創傷其他暴行ヲ加ヘテ脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毆
 打擄掠等以上脅迫シタル者ハ十月以上二月以下ノ重禁錮ニ

時ニ治罪法ニ定メ
タル逮捕監禁ノ書
式手續ヲ遵守シテ
シテ逮捕シ監禁シ
タル時ハ本條ノ刑
ニ處ス ○第二
八十條) 逮捕官吏
囚徒ノ護送者囚人
ノ飲食ヲ減シ衣服
ヲ脱却セシメ其他
難儀ヲ加ヘ虐使ス
ル等ノ所爲アル者
ハ本條ニ從テ處斷
ス ○第二十八
二條) 刑事ノ被告
人ヲ糾彈スルニ當
リ其罪狀ヲ白狀セ
シムル爲メ威嚇官
檢事及ヒ警察官吏
等被告人ヲ毆打シ
拷問スル等凡テ身
体ニ苛虐ノ所爲ヲ
加ヘタル者ハ本條
ノ刑ニ處ス ○第

處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百廿七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等
ヲ加フ
第三百廿八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ
亦前二條ノ例ニ同シ
第三百廿九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ
其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スル者ハ
第八節 贖賄ノ罪
第三百三十條 贖賄ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ贖賄シタル
者ハ一月以テ六月以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百卅一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ贖賄セシメタル者ハ亦
前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百三十二條 醫術醫藥又ハ藥商前條ノ罪犯シタル者ハ各
一等ヲ加フ
第三百三十三條 贖賄ノ婦女ヲ威迫シ又ハ誑騙シテ贖賄セシ

二百八十三條) 裁
判官檢察官刑事及
ヒ民事ノ告訴告發
ヲ受ケテ故ナシ之
ヲ受理セズ又ハ其
訴ヘテ受理スルモ
持日ヲ延シテ其裁
判ヲ爲サ、ル時ハ
本條ニ從テ處斷ス
○(第二百八十四
條) 一般ノ官吏若
シ人ノ領ニ受ケ
贈物ヲ受ケ取リ又
ハ未ダ受取ラサル
モ受取ルルヲ承知
シテ許シタル時ハ
不當ノ處分ヲ爲サ
ストモ本條ニ從テ
處斷ス可シ若シ不
正ノ處分ヲ爲シタ
ル時ハ其刑一等ヲ
加フ可シ ○(第二
百八十六條) 枉濫
トハ法ヲ枉ケテ處

メタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加
ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ
處ス其墮胎セシムルノ意ニ出テタル者ハ輕懲役ニ處ス
第三百卅五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡癡疾又ハ死ニ
致シタル者ハ毆打刑罰ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪
第三百卅六條 八歳ニ滿タサル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以
上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
自ラ生活スルコト能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ
第三百卅七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老病者ヲ監禁無人ノ地
ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百卅八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保護ス可キ者前二
條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各二等ヲ加フ
第三百卅九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ
輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル

新スルヲ云○(第
二百八十七條)情
事洵カヒ又ハ怨
ヲ懷キテ下ニ殺
シテ其ノ遺體ヲ
埋メテ其ノ故ヲ
隠シテ其ノ遺體
ヲ発見セシメテ
引
キ出シテ其ノ遺
體ヲ示シテ其ノ
故ヲ明カセシメ
ルニ被テ以テ被
告
者ヲ懲テシヨシ
トシテ其ノ罪ヲ
同シ論テ○(第
二百八十八條)○
○(第
二百八十九條)○
○(第
二百九十條)○
○(第
二百九十一條)○
○(第
二百九十二條)○
○(第
二百九十三條)○
○(第
二百九十四條)○
○(第
二百九十五條)○
○(第
二百九十六條)○
○(第
二百九十七條)○
○(第
二百九十八條)○
○(第
二百九十九條)○
○(第
三百條)○

者ハ有期徒刑ニ處ス
第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラ
レタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告
セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ疾病ニ罹リ管領者アルコトヲ知テ扶助セズ又ハ申告セ
サル者亦同シ
第三百四十一條 幼者ヲ奪取誘拐シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
十二年以上二十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百四十二條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百四十三條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百四十四條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百四十五條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百四十六條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百四十七條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百四十八條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス

○(第
三百零一條)○
○(第
三百零二條)○
○(第
三百零三條)○
○(第
三百零四條)○
○(第
三百零五條)○
○(第
三百零六條)○
○(第
三百零七條)○
○(第
三百零八條)○
○(第
三百零九條)○
○(第
三百一十條)○
○(第
三百一十一條)○
○(第
三百一十二條)○
○(第
三百一十三條)○
○(第
三百一十四條)○
○(第
三百一十五條)○
○(第
三百一十六條)○
○(第
三百一十七條)○
○(第
三百一十八條)○
○(第
三百一十九條)○
○(第
三百二十條)○
○(第
三百二十一條)○
○(第
三百二十二條)○
○(第
三百二十三條)○
○(第
三百二十四條)○
○(第
三百二十五條)○
○(第
三百二十六條)○
○(第
三百二十七條)○
○(第
三百二十八條)○
○(第
三百二十九條)○
○(第
三百三十條)○
○(第
三百三十一條)○
○(第
三百三十二條)○
○(第
三百三十三條)○
○(第
三百三十四條)○
○(第
三百三十五條)○
○(第
三百三十六條)○
○(第
三百三十七條)○
○(第
三百三十八條)○
○(第
三百三十九條)○
○(第
三百四十條)○
○(第
三百四十一條)○
○(第
三百四十二條)○
○(第
三百四十三條)○
○(第
三百四十四條)○
○(第
三百四十五條)○
○(第
三百四十六條)○
○(第
三百四十七條)○
○(第
三百四十八條)○
○(第
三百四十九條)○
○(第
三百五十條)○

第三百四十九條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十一條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十二條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十三條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十四條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十五條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十六條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十七條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十八條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百五十九條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス
第三百六十條 幼者ヲ略取シテ其ノ罪ヲ犯スル者ハ
五年以上十年以下ノ重禁錮ニ處ス又ハ誘拐シテ
其ノ罪ヲ犯スル者ハ三年以上五年以下ノ
重禁錮ニ處ス

二百九十七條 人
 殺シテ深キ詐テ
 意ニテ深キ詐テ
 漫處ト稱シ人ヲ之
 レニ誘導シテ溺死
 セシメテ死ニ致ス等ハ
 レテ死ニ致ス等ハ
 臨時殺意生シテ爲
 シタルハ故殺ヲ以
 テ論シテ謀殺ヲ以
 テ論ス ○(第二百
 九十八條) 人ヲ謀
 殺シ故殺セントシ
 テ人違ヒ等ニテ誤
 テ自身ノ目的トス
 ル人ニ非サルモノ
 ナラバ謀殺ナルヲ
 殺ナル時ハ謀殺ナ
 以テ論シテ故殺ナ
 時ハ故殺ヲ以テ論
 ス ○(第二百九十九
 條) 人ヲ打擲シテ
 ハシムル罪 ○(第

ニ處ス
 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シ
 タル者ハ強姦ヲ以テ論ス
 第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲
 役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス
 第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ
 告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷
 ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但
 強姦ニ因テ癱瘓疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタ
 ル者ハ無期徒刑ニ處ス
 第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合
 シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓
 以下ノ罰金ヲ附加ス
 第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下
 ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

三百倍(本條ノ死
 ニ至ラハトモ必要
 以テ論シテ謀殺ナ
 シ人間早生ニ不幸
 ナラバ謀殺ナルヲ
 刑ナリ初項ハ一
 部ノ機用ヲ全ク廢
 ヒシムルヲ云ヒ末
 項ハ一部ノ機用ヲ
 全ク廢スルニ至ラ
 スノ一部ヲ不具ト
 爲ス者ヲ謂フ假令
 一兩片ヲ暗シテ全
 ク視覺ヲ失ハシメ
 又ハ陰莖ヲ切斷シ
 テ全ク交合ノ用ヲ
 絶タシムル如キハ
 一部ノ機用ヲ全廢
 スルモノトス若シ
 一部ヲ暗シテ陰莖
 傷シタルニ止マル
 時ハ未ダ全ク視覺
 ナシト交合ノ用ヲ
 廢シタルニ非ス廢

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱
 容シタル者ハ告訴ノ效ナシ
 第三百五十四條 配偶者アリ者重キヲ婚姻者爲メタル時ハ六
 月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ
 附加ス
 第十三節 誣告及ヒ誹毀ノ罪
 第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二
 十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス
 第三百五十六條 誣告ヲ爲ス雖モ被告大ニ推問ヲ始メサル
 前ニ於テ誣告者自若シタル時ハ本刑ヲ免ス
 第三百五十七條 誣告ニ因テ被告入刑ニ處セラレタル時ハ第
 二百二十一條(第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス
 第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事
 實ノ有無ヲ問はず左ノ例ニ照シテ處斷ス
 一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以
 下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

損セシマテナリ
 兩手ヲハハ一肢ト
 ハ片足又ハ片手ヲ
 云○(第三百五條)
 假令ハ甲乙ノ二人
 相共ニ人ヲ毆打シ
 甲ハ兩目ヲ瞎シ乙
 甲ハ一肢ヲ折ル時ハ
 甲ハ輕懲役ニ處シ
 乙ハ二年以上五年
 以下ノ重禁錮ニ處
 ス可シ若シ二人亂
 毆シテ何レカ重輕
 ノ傷ヲ爲シタル時
 辨シハル時ハ重傷
 ノ刑ヨリ一等ヲ減
 ノ二人共ニ同罪ニ
 處ス可シ○(第三
 百九條) 自身ニ害
 ナ加ヘントスルニ
 因リ怒ヲ儀シテ暴
 行人ヲ創傷シ殺害
 シタル者ハ其罪ヲ

二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタ
 ル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十
 圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ輕罔ニ出テタルニ非
 サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコト得ス
 第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代官人辨護人代書人若クハ
 神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知待タル
 陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十二日以上三月以下ノ
 重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ
 呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス
 第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死
 者以親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第三百六十二條 祖父母父母ニ對スル罪
 第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死
 刑ニ處ス
 其自殺ニ關スル罪凡ハ刑ニ照シ二等ヲ加フ

容恕シテ本刑ヲ減
 輕ス若シ自ラ不正
 ノ所爲ヲ行ヒ暴行
 ナ受ク可キコトヲ招
 キ來シタル時ハ容
 恕ス可キ限ニ非ス
 トス○(第三百十
 一條) 本夫其妻ノ
 姦夫ト現在姦通ヲ
 爲シ居ル時ヲ見付
 ケ忿怒ノ念目ヲ制
 止スル能ハス其場
 所ニ於テ姦夫又ハ
 姦婦ヲ殺傷シタル
 時ハ其罪ヲ容恕ス
 ルコトヲ南ヘシ但シ
 本夫先ニ其婦ノ姦
 通セルヲ知テ許シ
 カルカ又ハ誘ヒテ
 爲サシメタルハ宥
 恕ス可キ限ニ非ス
 ○(第三百十四條)
 身禁ニ暴行ヲ受ケ
 之レヲ種々正當ノ

第三百六十三條 姦孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他
 監禁追遺棄親告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シテ
 ル凡人ノ刑ニ照シ二倍ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑
 ニ處シ癡疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ
 死刑ニ處ス
 第三百六十四條 孫子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其
 他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮
 ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
 第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥
 恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ
 此限ニ在ラス
 第二章 財產ニ對スル罪
 第一節 竊盜ノ罪
 第三百六十六條 他人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲
 シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

方法ヲ以テ防禦ス
ルモ自己ハ他人
ノ性命ニ係ル如キ
ノ危難ニ遇ヒ止ム
ヲ得ルハ其罪ヲ論
サル時ハ其罪ヲ論
セズ ○第三百十
六條 身死ハハ財
産ヲ防禦スル爲メ
テ正當ニ防禦
スルハ暴行人ヲ殺
傷スレテ済ム可
キヲ殺傷シ又ハ暴
行人ノ逃去去ルヲ
追驅ケテ殺傷シタ
ル等ハ不逞罪ノ限
ニ非ズ但情狀ニ因
リ其罪ヲ宥恕スル
コトヲ得 ○第
三百十七條 注意
シテ人ヲ死ニ致ス
ルハ渡船ハ舟人ノ
注意ニシテ舟ヲ杭

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル
者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百六十八條 四戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸
宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ
第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各
一等ヲ加フ
第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊
盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス
第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付
シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之竊取タル
者ハ竊盜ヲ以テ論ス
第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタ
ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊受シ又
ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生獲ニ若クハ營業ニ關スル產物ヲ
竊受シタル者ハ又前條ニ同シ

二衝突シ爲シ人ヲ
溺死セシムル類ハ
凶殺ノ罪トス ○鐵
道ノ線路ヲ看守ス
ル者通行口ノ閉鎖
ヲ怠リ通行人車前
ヲ遮リ瀕車ニ墮ル
テ死シタル等ハ看
守人ノ懈怠ニ由リ生
ズル罪トス ○以上
ノ外規則ニ從ハズ
從來ノ習慣ヲ守ラ
ズシテ人ヲ死ニ致
ス等凡テ死傷セシ
ムルノ意ヲシテ
人ヲ死ニ致シタル
者ハ本條ニ從テ處
斷ス可シ ○擲シテ
人ヲ逮捕監禁スル
權理ヲ以テ者勝手
ニ人ヲ捕縛シ又ハ監
倉ニ幽閉スルヲ云
○脅迫ノ罪暴行ヲ

第三百七十四條 必勝ニ於テ收者ノ職類ヲ竊取シタル者ハ二
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サザラシテ未ダ
遂ケザル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第三百七十六條 此節ニ記載シタル輕罪ノ刑ニ處ス
ル者ハ六月以上二年以下ノ監禁ニ付ス
第三百七十七條 祖父父母夫妻子孫及其配偶者又ハ同居
ノ兄弟姊妹互ニ其財物ヲ竊受シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ
限ニ在ラズ
第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シ
タル者ハ強盜ノ罪ト爲レ輕懲役ニ處ス
第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ
一等ヲ加フ
一 二人以上共ニ犯シタル時

加フルニ非スヲテ
將ニ暴行ヲ加ヘン
トスル等ノ事ヲ以
テ語言又ハ文書ニ
テ人ヲオドシ付ル
罪○(第三百廿九
條)此節ノ脅迫ノ
罪ハ脅迫ヲ受ケタ
ル者又ハ其親屬ヨ
リ訴ヘ出ツルニ非
サレハ官之ヲ知ル
ト雖其罪ヲ論ゼス
○(第三百三十條)
已ニ妊娠セルヲ藥
物又ハ手術ヲ以テ
流産セシムル罪○
(第三百三十一條)
○(第三百三十二條)
俗ニトリアゲト稱
スル者はナリ○幼
片又ハ若疾者ヲ藥
スル罪自ラ生活ス
ル能ハサル年少ノ
者又ハ老衰疾病ノ

三 兇器ヲ携帶シテ犯シタル時
第三百八十八條 強盗人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致
シタル者ハ死刑ニ處ス
第三百八十九條 強盗婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
第三百九十二條 窃盗財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅
迫ヲ爲シタル者ハ強盗ヲ以テ論ス
第三百九十三條 藥種等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取
シタル者ハ強盗ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス
第三百九十四條 其此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪
ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
第三百九十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主
ニ還付セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一月以上三月以下ノ
重禁錮ニ處ス又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百九十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ
隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

者ヲ棄テル罪○
(第三百二十七條)
深山幽谷ノ中キハ
ノ往來モ稀ナル
地ニ云フ斯ル地ニ
遺棄スル時ハ其生
命甚ク危險ナルヲ
メ之ヲ隠シテシテ
殘忍ノ所爲ヲ爲ス
者故其罪重シトス
○(第三百廿八條)
相當ノ給料ヲ得テ
人ノ頼ミヲ受ケテ
者若疾者ヲ育テ養
ヒ看護ス可キ者ニ
シテ前二條ノ罪ヲ
犯ス時ハ一等ヲ加
フ○(第三百四十
條)昏倒トハ目ヲ
マシ氣ヲ失フテ
倒ルハ○幼者ヲ
略取誘拐スル罪略
取トハ幼者ノ肯セ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七
七條ニ掲グル親屬關係ル時其罪ヲ論ゼス
第四百節 家畜分散ニ關スル罪
第三百八十八條 家畜分散ノ際其財産ヲ藏匿隠漏シ又ハ虛偽
ノ負債ヲ增加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百八十九條 債權ノ契約ヲ承諾シ若シハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一
等ヲ減ス
第三百九十条 家畜分散ノ際隠匿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ
分岐決定シ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ
債主ニ害シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪
第三百九十一條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ
騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁
錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本
條ニ照シ重禁ニ從テ處斷ス

ナルヲ暴行脅迫ヲ爲シテ無理ニ連レ行クヲ曰ヒ誘拐トハ幼者ヲ騙シテ得心セシメテ連レ行クヲ云幼者トハ二十歳以下ノ男女ヲ云ヘ○第三百四十一條(自ラ贓匿シ若クハ他人ニ交付スルトハ自ラカシメテ贓ヲ自分ノ便利ノ爲ニスルカ又ハ他人ニ賣渡シ貸シ與ヘテ利ヲ圖ルヲ云フ)○第三百四十三條(略取誘拐シタル者ヲ其交付テ受ケテ妻妾ト爲シ下男下女ト爲シ又ハ養女娼婦等ノ名稱ヲ以テ之ヲ受ケ取リタル類ハ處

第三百九十二條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽シテ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十四條 借取人ノ動産ノ不備ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ヲ爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金類物件ヲ費消シタル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺人所爲ニ應者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

取誘拐シタル犯人ノ刑ニ一等ヲ減ス○第三百四十四條(前條ノ罪ハ被害者又ハ其親屬ヨリ訴ヘ出ツルニ非サレバ其罪ヲ減スルハ但シ略取誘拐シタル者都廳役所ノ届ケテ済マシテ犯人ト婚姻シタル時ハ告訴スルモ其効ナシトス犯人ニテ略取誘拐シタル者及ヒ其情ヲ知テ交付ヲ受ケタ者ヲ含有ス)○第三百四十五條(淫重婚ノ罪ハ至テハ未タ姦通ニ至ラス手ヲ以テ淫ヲ爲スナクハ姦淫トハ得心ノ上淫スルヲ云ヒ重婚トハ已ニ配偶者アル者

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一年以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分取ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケタル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ據ケテ罰金ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強窃盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日

復タ他人ト婚ヲ結
 フチ云フニ夫ニ妻
 ノ如キ是ナリ ○
 (第百四十六條)
 男女ニ對スル強姦
 ノ行ハ男ノ女ニ對
 ニ對シテハ男ノ女
 ノ男ニ對スル強姦
 ノ所行及強姦等チ
 云 ○(第百四十四
 八條) 強姦トハ淫
 行有テ以本人ノ
 承諾ヲ得ズシテ姦
 スルヲ云 ○暴行脅
 迫ヲ以テザルモ藥
 劑又ハ酒類ヲ用キ
 テ醉ヒ眠フセ又ハ
 意思ノ辨別ナキ時
 ニ淫ヲ爲シタル者
 ハ強姦ト同シ論ス
 ○(第百五十三
 條) 夫アル婦人餘
 人ト姦通シタル者

以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罪金ヲ附
 加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ
 死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒
 シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百四條 火ヲ放テ瀆屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒
 燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶滅車ヲ燒燬シタル
 者ハ死刑ニ處ス

其ノ人ヲ乘載シタル船舶滅車ニ係ル者ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル
 柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上
 二年以下ノ重禁錮ニ處ス

ハ六月以上二年以
 下ノ重禁錮ニ處ス
 其相姦スル者トハ
 却テ姦夫ナリ此罪
 ハ本夫ノ外ハ何人
 ノ告訴ニテモ之ヲ
 受テヒス ○強姦及
 ヒ強姦ノ罪告知ト
 ハ對形ナキ事ヲ有
 リトシ又ハ此少
 事チ大ニシテ誣ヒ
 テ訴ヘ出ツルチ云
 ヒ誣告トハ事實ノ
 有無ニ拘ハラズ人
 ヲ誣リ名譽ヲ毀損
 スルチ云 ○(第百三
 百五十八條) 惡事
 又ハ淫行等ノ名譽
 ニ關スルチ公衆
 ニ流布シテ人ヲ譏
 謔スル時ハ事實ノ
 有無ニ拘ハラズ本
 條第一第二ノ區別
 ニ從テ處斷ス ○一

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上
 二年以下ノ監禁ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ二圓
 以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣并蒸氣罐ヲ破
 毀セシメ人ノ家屋財產ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失
 トチ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居
 シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲
 役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃陂坑牧場
 等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ
 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以

公然ノ演説トハ衆人ノ群集セル場所ニテ言語ヲ以テ述フルヲ云フ(二)書類圖書トハ新聞雜誌書冊及ヒ形容ヲ寫シタル圖書ヲ云フ(三)劇トハ情態ヲ描寫シタル芝居狂言ヲ云フ(四)肖像トハ人形等ノ形容ヲ像リタル者ヲ云フ(五)死セシ者ニ對シテ誹毀シタルハ無實ノ事ナリテ識解シタルニ非サレハ罰スルコトヲ得サルモ(六)此條ニ記載セル諸人ハレノ職業ニ由リ治癡代言祈禱等ノ頼ミヲ受ケ因テ知り得

上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ過失ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節

船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船舶中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園地ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵柵ヲ毀壞シタル者ハ十一月以上三月以下

タル内寄ノ事柄ヲ漏シテ人ニ告グタル者ハ本條ノ刑ニ處ス(三)第三百六十三條(凡ハノ刑トハ祖父母母ヲ除キ其他ノ親屬ヲ用サレバ刑ナリ)第三百六十四條(子孫タル者其祖父母父母ニ衣服食物ヲ與ヘム其他若シテ金錢ヲ給與セサル等凡テ孝養ヲ欠キタル者ハ本條ニ從テ處斷ス)第三百六十五條(祖父母母ヲ殺シタル者ハ特別ノ宥恕ノ例及ヒ不倫罪即チ第三百九條以下第三百十六條以下ニ記載セル例ニ從テ處斷スルコトヲ許

ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第四百十九條 人ノ稼穡竹林其他常用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(二)土地ノ境界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(三)器物ヲ毀棄シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(四)重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載セル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ズ

第四百廿四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ

サズ申シ罪ヲ犯ス
時其父母ナルコトヲ
知ラスシテ爲シタ
ル罪ハ特別ノ宥恕
不論罪ノ例ヲ用サ
ルコトヲ得ヘシ但總
則第七十五條以下
第八十三條マテノ
宥恕不論罪ノ例ハ
此節ニ適用スルモ
妨ケナシ○財產ニ
對スル罪他人ノ所
有ニ係ル物品ヲ不
正ノ所爲ヲ以テ獲
取スル等ノ罪ナリ
○窃盜ノ罪人ノ目
ヲ忍ビ隱密ニ盜ニ
テ爲ス罪○第三
百七十一條)自分
ノ所有物ニテモ賤
物トシテ他人ニ渡
シ寄キ又ハ故有テ
官署ニテ他人ヲシ
テ和守セシメアル

罰金ヲ附加ス
第四編 違警罪

- 第四百廿五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ
拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 規則ニ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運
搬シタル者
 - 二 規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火
ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
 - 三 官許ヲ得スレテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
 - 四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
 - 五 蒸氣器其他煙筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ
違背シタル者
 - 六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋塙壁ノ修補ヲ爲
ササル者
 - 七 官許ヲ得ズシテ死屍ヲ解剖シタル者
 - 八 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セズ又ハ

物ヲ竊取シタル者
ハ窃盜ト同罪ナリ
○(第三百七十三
條)他人ノ所有地
ノ竹木ヲ伐リ金銀
石炭等ノ礦物ヲ掘
リ又ハ川澤池沼湖
海ニ他人ノ者ニ置
タル魚鳥ノ類ヲ撈
取シタル者ハ前條
ノ刑ニ處ス○(第
三百七十七條)本
條ニ對シテ其物
ニ限リ互ニ其物
ヲ竊取スルモ窃盜
ナシテ論ヒスル難
シ他人ト共同シテ
犯シ其財物ヲ分テ
取リタル者ハ窃盜
ナシテ論ス可シ○
(第三百七十九條)
一個毎ニ一等ヲ加
フト六年以上ニ
テ強盜ヲ爲シタル

電所ニ移シタル者

- 九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
 - 十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者
 - 十一 入ノ住居ニサル家屋内ニ潜伏シタル者
 - 十二 定リタル住居ナシテ平常營生ノ產業ナクシテ諸方ニ徘徊ス
ル者
 - 十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
 - 十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證
ノ爲メ刑ヲ免カシタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ
- 第四百廿六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ
拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
 - 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏モリ防禦スヘキノ求メテ受ケ傍
觀シテ之ヲ背セサル者
 - 三 不熟ノ藥物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
 - 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ

時ハ強盜ノ罪ニ一
等ヲ加ヘ重懲役ニ
處シ若シ二人以上
ニテ兇器ヲ所持シ
強盜ヲ爲シタル時
ハ二等ヲ加ヘテ有
期徒刑ニ處ス○遺
失物返還物ニ關ス
ル罪人ノ取捨シタ
ル物品ヲ拾ヒ又ハ
土中ニ埋リタル物
品ヲ掘リ出ス等ニ
關スル罪○家資分
散ニ關スル罪身代
限ニ關スル罪也○
第二百八十八條
身代限ノ處分ヲ受
ケタル者未タ債主
ニ引キ渡リタル前
ニ於テ其財産ヲ匿
シ置キ又ハ他ヘ預
賣却シ又ハ他ヘ預
カス或ハ人ニ依頼

- 一 違背シタル者
- 二 人ノ通行ヲ可キ場所ニアル危険ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者
- 三 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯又ハ驚逸セシメタル者
- 四 發狂人ヲ看守シ忘リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 五 狂犬猛獸等ヲ繋鎖シ忘リ路上ニ放シタル者
- 六 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
- 七 墓碑及墓路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚損シタル者
- 八 一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 九 十二公然人ヲ罵詈訕弄シタル者但テ待テ其罪ヲ論ス
- 十 第四百廿七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五圓以下ノ科料ニ處ス
- 十一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十二 制止ヲ肯セズシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 十三 夜中燈火ナシシテ車馬ヲ疾驅スル者

シテ虛偽ノ借財ヲ
作爲シ以テ債主ニ
損害ヲ與ヘシ者
債主若シ情實ヲ知
ラズシテ債主ト爲
リ又ハ其契約ノ媒
介ヲ爲シタル者ハ
罰助シタル者ハ罪
ヲ以テ正犯ノ刑ニ
シテ減ス○第二百
八十九條
代限ノ處分ニ關シ
定シ未タ債主ニ記
録セサル前ニ於テ
私ニ債主中ノ一人
又ハ數人ニ辨償シ
他ノ債主ヲ害シタ
ル者ハ本條ニ從テ
處斷ス○詐欺取財
ノ罪及ヒ受寄財物
ニ關スル罪○詐欺
取財トハ詐僞ノ方

- 四 水石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケヌ又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋周圍ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七 汚穢物ヲ道路家屋周圍ニ投擲シタル者
- 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業務ヲ爲シタル者
- 九 醫師穩健事故ナクシテ急病人ノ招キニ應ヒサル者
- 十 死亡ノ申告ヲ爲サズシテ埋葬シタル者
- 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
- 十三 私有地外ニ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
- 十四 官許ヲ得ズシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
- 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者
- 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

法ヲ以テ財物ヲ欺
 キ取ルカ云ヒ受
 財物トハ他ヨリ依
 託テ受ケテ預リタ
 ル財物ヲ云フ此節
 ハ詐欺ノ術ヲ以テ
 財物ヲ得若クハ受
 寄ノ財物ヲ得消テ
 ル等ニ關スル罪ナ
 リ○第三百九十
 條一人ヲ欺罔シ又
 ハ恐喝スルトハ八
 ナ欺キ騙シ又ハ跡
 形ナキ事ヲ稱道シ
 テ人ヲオドロシホソ
 レシムルヲ云フ○
 (第三百九十一條)
 幼者ノ智慮淺薄ト
 ハ二十歳ニ滿スサ
 ル幼者ニシテ知識
 淺ク思慮乏シキ
 者○第三百九十
 三條一人ノ衣類
 諸道具又ハ家作土

- 第四百廿八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又
 八十錢以上二圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
 - 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リ又ハ
 故ナク通行ヲ妨ケタル者
 - 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サ
 スシテ通行シタル者
 - 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 - 五 官許ヲ得ズシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背
 シタル者
 - 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚
 ハサル者
 - 七 制止ヲ肯セズシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 - 八 官許ヲ得ズシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又牧畜シタル者
 - 九 身體ヲ刺突キ及ヒ之ヲ棄トスル者
 - 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

地等ヲ詐テ自分ノ
 所有ト稱シ取賣交
 換シ又ハ抵當賣物
 ニ書キ入レタル者
 ○詐欺取財ト罪
 トス○自己ノ建物
 土地等ヲ自己ノ地
 へ抵當又ハ賣物ニ
 書キ入レタル者ヲ
 欺キ隱シテ復テ他
 ノ人ニ賣リ渡シカ
 二重ニ抵當賣物ニ
 書キ入レタル者ヲ
 亦詐欺取財ト罪ト
 シ第三百九十條ノ
 刑ニ處ス○動産ト
 衣類護道具ノ類
 ナ云ヒ不動産トハ
 建物土地ヲ云フ○
 (第三百九十五條)
 預リ物又ハ質物借
 務其外遞送等ノ委
 託ヲ受ケタル金銀
 物品ヲ遺失拾テ

- 第四百廿九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五十錢以下
 ノ科料ニ處ス
- 一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 - 二 牛馬諸獸其他物件ヲ道路ニ横置シ又ハ木石薪炭等ヲ堆積
 シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 三 車馬ヲ並ニ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 四 水路ニ於テ舟船ヲ並ニ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
 - 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サハズ者
 - 七 制止ヲ肯セズシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタ
 ル者
 - 八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忍カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シ
 タル者
 - 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
 - 十 通行禁止ノ標示ヲ犯シテ通行シタル者

ル者ハ本條ノ刑ニ
 處ス若シ欺キ取ル
 カ持テ逃ケスルカ
 詐リノ所爲ニテ受
 ケ取タル者ハ詐欺
 取財ノ罪ト爲シ第
 三九十九條ニ照シ
 處ス○贓物ニ關
 スル罪不正ノ所爲
 ナリテ得タル物品
 ニ關スル罪○第
 三百九十九條ニ強
 盜若シハ窃盜ノ強
 盜ナルヲ知テ
 之ヲ受取リ又ハ贖
 ミヲ受ケテ贖金シ
 或ハ買入レ若シハ
 其賣買ノ請人證人
 ト爲リタル者ハ本
 條ノ刑ニ處ス○放
 火失火ノ罪放火ト
 ハ故意ヲ以テ火ヲ付
 ケタル事云ヒ失火
 トハ過テ火事ヲ出

- 十一 道路ニ於テ放歌高聲ニ發シテ制止ヲ肯セサル者
- 十二 酩酊シテ路上ニ喧嘩シ又ハ醉臥シタル者
- 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
- 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
- 十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標
 等ヲ毀損シタル者
- 十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜葉ヲ採食又ハ花卉ル採折シタ
 ル者
- 十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者
- 十八 道路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬等牽入シタル者
- 第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定
 ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

刑法附則

第一章 主刑執行

- 第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑
 場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス所ヨリ告示シタル後
 獄丁ヲシテ之ヲ決行セシム但シ其期限ハ午前十時前トス
- 第二條 死刑ヲ行フ時ニ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者
 ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但シ立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此
 限ニ在ラス
- 第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ
 爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可
 シ
- 第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス
 元始祭
 孝明天皇祭
 紀元節
 春季皇親祭

シタル事云フ
 ○(第四百四條) 廢屋
 トハ人ノ住居ス可
 ラサル家屋ヲ云フ
 ○(第四百五條) 人
 ノ乘リ居ル船舶蒸
 車ヲ燒シ者ハ人ヲ
 死ニ處サズモ死
 刑ニ處ス可シ
 ○(第四百六條) 露積
 トハ屋舎ニ非サル
 場所ニ雨晒ニシテ
 積ミ置ク事ヲ云フ
 ○(第四百十條) 激發
 ス可キ物品トハ地
 雷火ノ類ヲ云ヒ煤
 氣井トハ瓦斯ヲ溜
 メル釜ヲ云フ木條
 ノ罪ハ故サテニ爲
 シタル者ハ放火ノ
 罪トシ過テ爲シタ
 ルハ失火ノ罪トス
 ○決水ノ罪水ノ防
 キヲ切リ破テ水ヲ

流ス罪ナリ ○(第
四百十一條)堤ヲ
切リ崩シ又ハ水樋
ノ門閉サ破リ水ヲ
流シ出サシメタル
者ハ無期徒刑ニ處
ス但シ故意ニ爲シ
タル者ヲ云フ ○
(第四百十四條)本
條ハ過失ノ所爲ニ
テ決水シタルヲ云
フ天然ノ洪水等ノ
爲ニ堤防崩レ水圍
破レタルハ法律ノ
間フ所ニ非ス ○
(第四百十五條)自
己ノ乘リタル船舶
又ハ他ノ船舶ニテ
モ故意ニ衝キ當テ
タルカ又ハ航海ノ
道具ヲ毀シ壞リ或
ハ船舶ニ穴ヲ穿ツ
等ノ所爲ヲ以テ船
舶ヲ覆ヘシ沈没セ

仁孝天皇祭
神武天皇祭
六月大祓
秋季皇靈祭
神宮神嘗祭
天長節
後桃園天皇祭
新嘗祭
光格天皇祭
十二月大祓
第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及
以テ診察ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ
司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿
ニ命令ヲ受テ執行ス可シ
第六條 一ニ死刑ヲ宣告ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者
則チ埋葬ハ獄司ニテ許可シ下付スルコトヲ得

シメタル者ハ本條
ニ從テ處斷ス ○物
品ヲ毀損シ動物
ヲ害スル罪動物
ハ鳥獸ノ類ヲ云ヒ
植物トハ草木ノ類
ヲ云フ ○第四百
十八條 園地ノ裝
飾ヲ毀壞スルトハ
庭園ノ木石ヲ害シ
泉水ヲ埋メ假山ヲ
崩スノ類ヲ云フ 田
圃ノ灌漑牧場ノ柵
柵ヲ毀損スルトハ
田圃ノ垣根圍ヒ獸
類ノ逃出ヲ防キタ
ル杭垣土手ノ類ヲ
破リ毀スルヲ云フ ○
(第四百二十條)土
地ノ境界ヲ表シタ
ル物件トハ地界ヒ
ノ目印トシタル木
石垣根等ヲ云フ是
等ノ標識ヲ破損シ

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ
獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得
第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所
及其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ名所ニ榜示公告ス可シ
刑ヲ宣告シテ裁判所ノ門前
犯人住居ノ地
第九條 禁徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ
管内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ
第十條 禁徒流刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシ
メテ其罪狀ヲ得テ
第十一條 流刑ヲ因閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請
フ者ハ獄司ニテ許可シ
第十二條 流刑ノ囚因閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務
司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受シ可シ
第十三條 禁徒流刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚因閉

又ハ其位置ヲ變シタル者ハ本條ニ從テ處斷ス○(第四)○違警罪ヲ加減ス可キ時ハ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ノ爲ス但シ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得スト雖モ拘留ハ加ヘテ十日ニ全リ科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルコトヲ得ル○以下ニ降スコトヲ得ス○違警罪ヲ一年內再ヒ同一ノ違警罪ヲ犯シテ管轄地内ニ於テ犯シタル時ハ再犯ヲ以テ論シ一等ヲ加フ可シ○違警罪ハ二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス

ヲ免セラレタル者密匿ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許ス可シ
第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ住居セシムル者ハ監獄近傍ノ地ニ限リ獄司ノ官督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サルル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得ル
第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ
第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ限セシムルコトヲ得
第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ
第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シモヒ定役ニ服スル後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス
第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ
第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未ダ納完セサル前ニ於テ犯

可シ○違警罪ハ未遂犯罪ノ場合ニ於テ其罪ヲ論ス○(第四百廿五條)本條第一項ヨリ第十項ヲテノ罪ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處スルカ若クハ一圓以上一圓九角五分以下ノ科料ノニ處ス○(二)火藥運搬ノ規則ハ明治四年十月ニ布達スル(三)火藥其他激發ス可キ物品ヲ貯ヘ置ク規則ハ明治九年九月ニ布達スル(九)人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラシメタル時ハ第三百一條ニ從テ處斷ス(十)娼妓ノ鑑札ヲ受ケヌコトヲ

人身死スル時ハ之ヲ徵收セズ附加ノ罪金ニ於ル亦同シ
第二章 監視
第十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官更ニ之ヲ犯人ヲ行儀ヲ監視セシムル者ニシテ之ヲ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居若クハ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシムルコトヲ得ル○(一)主刑ノ終リタル時ハ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ
第十二條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ビ刑者警告書ヲ附ス可シ
第十三條 犯人ヲ住居遠地ニ在リ一姓程ヲ遺棄ル者ハ獄司若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ○(一)送致スル時ハ其行程ヲ詳シ白敷キ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着後直

代料ヲ得テ淫ヲ賣ル者俗ニ地獄ト稱スル者是ナリ○其
 官淫ノ手引ヲ爲シ又ハ之ヲ宿ヲ爲ス者ハ官淫者ト同罪ニ處ス本條ノ處分
 方ニ何明治十四年十二月第六十四号ノ布告アリ之ヲ左
 記載ニス○密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候トモ
 當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通り東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ委任ス
 (十三)官ニテ定メタル禁地外ニ於テ想則ニ背キ罪ヲ犯スル者ナクフニ
 四 違警罪ノ犯人ノ犯罪ヲ匿クシテ

ナニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シ
 タル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ
 犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ送達ス可シ
 第廿六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ
 第廿七條 監視ヲ付セシメラル者ハ其期間間左ノ條件ヲ遵守ス可シ
 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコト得サ
 二 事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ル事可シ
 三 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ羣集ノ場所ニ參會スルコト許サズ
 四 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

カハトタル者ハ本條ニ從テ處罰ス○
 第二 水陸火事其他ノ事アル時官吏ニテ防範ス可キ命命ヲ受ケ變事ヲ傍觀シテ其禁メナクモトナル者五回所所ナリ(一)警逸シシメルトハ懲カシ
 (二) 躍リ走ラシムルコト
 (三) 其他公ノ建築物ハ公立ノ學校病院集會所ノ如キモノ外非ノ建築物ニ樂器紙等ヲ爲ス者ハ本條ノ拘留又ハ科料ニ處ス可シ(十二)衆人ノ日前コト人ヲ驚愕シ又ハ何リ愚弄シタル者此項ノ犯罪

四 他ノ地方ニ旅行スルコト許サス若シ止ムコトナリサル事故アル時其事由警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ
 第十八條 監視ノ期間間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコト可シ
 第十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコト許シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ送達ス可シ
 第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコト許シタル時ハ其里程ヲ許シ先方ニ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
 第三十一條 犯人先方ノ地ニ到シハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來ス直ニ旅券ヲ警察所ニ送納ス可シ
 第三十二條 旅行時天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ認印ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添テ警察所ニ送附ス可シ

囚禁法律ヲ以テ
 定メテシトシ
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

獄ノ日獄司ヨリ其證票ヲ原本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察
 所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシムヘシ
 第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條
 第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス
 第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件
 ヲ遵守スルコトヲ要ス
 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視
 ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル
 事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サ
 ズ
 三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許
 可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サズ
 四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サズ
 第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅
 ニ臨檢スルコトヲ得ル

○(第二十一條)出
 水又ハ風雨ニテ發
 船ノ都合惡シキ時
 其場ニ離テ無ク
 逗留シタル時ハ其
 他ノ警察所ニ事情
 ナ中テ其證票ヲ
 得テ歸着シタル日
 其證書及ヒ旅券ヲ
 其住居ノ警察所ニ
 差出ス可シ

第四十六條 假出獄ヲ許ス可キ者住居ノ地ニ及ヒ引取人ナキ時
 ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ
 第四章 刑事裁判費用
 第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル証人醫師鑑定人通譯
 人翻譯人ニ給與ス可キ日常旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十
 二條所記取費タル者ヲ以テ刑事裁判費用ト爲ス
 第四十九條 日常旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ
 日常五十錢
 旅費百里十錢
 止宿料一宿二十五錢
 住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ

滞在中央日當並三止宿料ヲ給ス其三里米滿ノ地ニ在ル者ハ旅
止宿料ヲ給セズ

第五十條 贈入ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ費
非シト送テ給與セス

第五十一條 贈入日當ヲ以テ生業トスル者ハ罪法第百九十條
從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコ
アル可シ

第五十二條 解剖會等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯
料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受テ未ダ之ヲ納メサル前ニ於
テ犯人身死スル時ハ其相續人ニシテ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ蓋テ被害者ニ還付ス
ト雖若シ贓物ヲ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還
付セシムル者トス

○第五十五條 不

第五十五條 贓物轉轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取

正ノ方法ニ因テ得
タル物品及ヒ盜
物等ヲ公商ノ手
經テ買ヒ得タル
ハ必ス原價ヲ被害
者若シハ公商ヨリ
償ハサレハ還給ヲ
拒ムノ權アリ然レ
モ原價ヲ償フニ於
テハ之ヲ拒ムコト
得ス若シ公商ニ非
サル者ニリ買ヒ得
タル時ハ原價ノ償
却ナシトモ之ヲ拒
ムコトヲ得ス但賣主
ニ對シテ其償ヲ求
ムルノ權アリ公商
トハ公然商買ヲ爲
ス者ヲ云フ

シタル物品ハ其公商若シハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサ
レハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス
若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ
得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルコトヲ得
第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現
在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典
主ニ對シ轉價ヲ求ムルコトヲ得
第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トチ
區別ノ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ
第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時
又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
第五十九條 人ノ名譽若シハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ
爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ
此限ニ在ラス
第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁
判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民事裁

害ハ其償金ヲ請求
スルコトヲ得ヘシ但
シ失火ノ爲ニ生シ
タル損害ハ賠償ヲ
求ムルノ權無シ

判所ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ハ賠償ヲ請求

スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事

裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續

人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給

賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ

請求スルコトヲ得

畢

○刑法參考官令追加

○明治十四年太政官第七十二号

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ル

モノハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留

ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以

下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ

五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若シハ違令違式ニ照シ處斷ストア

リ及ヒ答可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱

發ノ例ヲ用非ス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑

法ニ依テ處斷ス

○太政官第七十二号

号布告

他ノ法律規則中

ノ罰例ヲ刑法ニ

據リ處斷スルハ

此例ニ從フ

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス但始審裁判所所在ノ地ヲ除ク外ハ始安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

○明治十四年太政官第八十一号

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルハ左ニ從フヘシ
第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ

- 一 死刑 新法 斬絞 舊法 斬絞
- 二 無期徒刑 新法 懲役終身 舊法 無期徒刑
- 三 有期徒刑 新法 懲役十年 舊法 有期徒刑
- 四 無期徒刑 新法 懲役終身 舊法 無期徒刑
- 五 有期徒刑 新法 懲役十年 舊法 有期徒刑
- 六 重懲役 新法 懲役十年 舊法 重懲役
- 七 輕懲役 新法 懲役七年 舊法 輕懲役
- 八 禁錮 新法 禁錮十年 舊法 禁錮十年
- 九 輕禁錮 新法 禁錮七年 舊法 輕禁錮

○太政官第八十一号
第三條第二項參看

○太政官第八十一号

十 重禁錮 懲役十一日以上五年以下

十一 輕禁錮 禁錮鎖錮十一日以上五年以下

十二 罰金 贖罪收贖罰金科料二圓以上

十三 拘留 懲役禁錮鎖錮拘留十日以下

十四 科料 贖罪收贖罰金科料二圓未満

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過シルコトヲ得ス 舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類 若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ 舊法ニ於テ禁錮三十日ニ係ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ禁錮三十日ニ處スルノ類

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ヲ過シルコトヲ得ス 舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ルモノ新法ニ照シ三月以上四年以下

ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類) 舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照シ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類)

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セズ

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ

換フ但一圓未満ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セズ但除辰追奪位記沒收ノ類ハ新法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セズ

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除ニス

第十二條 新法ノ舊法トチ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス(内務省、陸軍省、司法省、
○明治十五年四月廿九日達第二十二号 警視廳、府縣、東京府ヲ

除ク) 刑法第四百廿七條第三項中熾火ナクシテ市馬ヲ控驅スル者有之候處軍人制服ヲ着用乘馬シタル者ハ右ノ限ニ無之候上此旨相違候事

刑法參考官令追加終

○太政官第二十二
號四百二十七條
第三項參看

ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナシ新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照シ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類)

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮及ハ拘留ニ

換フ但一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除服追奪位記沒收ノ類ハ新法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處新スル時ハ其族ヲ除ニス

第十二條 新法ニ舊法トテ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

○太政官第二十二號
第四百二十七條
第三項參看

○明治十五年四月廿九日達第二十二号 内務省、陸軍省、司法省、警視廳、府縣、東京府ヲ除シテ 刑法第四百廿七條第三項中燈火ナクミテ車馬ヲ牽驅スル者有之候處軍人制服ヲ着用馬シタル者ハ右ノ限ニ無之候上此旨相違候事
刑法參考官令追加終

○太政官第四十二號布告
刑法附則參考

增補

○明治十五年八月太政官第四十二號布告(刑法附則參考)

明治十四年(十二月)第六十七號布告刑法附則第二十二條及四十

二條左ノ通改正シ第二十四條ヲ削除ス

第二十二條 監視ニ附スヘキモノハ豫メ其住所ヲ定メシメ主

刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察署ニ護送シ其警察署ヨリ

住居ノ地ノ警察署ニ送致シ監視ヲ執行セシム但シ主刑ノ期滿

免除ヲ得タルモノ又ハ主刑ヲ免シ止メ監視ニ付スルモノハ其

裁判所ノ檢察官ヨリ護送ス可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キモノハ豫メ其住所ヲ定メシメ

出獄ノ日典獄ヨリ其護票ノ謄本ヲ添ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯

人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

明治十五年四月三版權免許
全 十六年三月十一日出版

定價金四十錢

註解人 東京府士族

堀田智三

北豊島郡日暮里村

出版人 東京府平民 高崎修助

日本橋區濱町二丁目十二番地

東京若松町 柳原友吉

同元大坂町 法本徳兵衛

同通油町 東生龜次郎

甲府櫻町 中山録朗

專賣書肆

賣 捌 書 肆

東京芝	山中市兵衛	八王子	歌川國松
全石町	椀屋喜兵衛	全熊谷	竹川新助
全桶町	富田彦次郎	武州鴻ノ巢	小町屋徳太郎
全馬喰町	森屋治兵衛	全熊谷	長島爲一郎
全雄子町	巖々々	全桶川	杉浦平左衛門
全小川町	秩山	上州高崎	島村七兵衛
全芝	栗田信太郎	全安中	文心堂
全芝	春陽堂	全前橋	小林房次郎
全横山町	出雲寺萬次郎	全太田	千卷屋喜平治
全通三丁目	小林鐵次郎	野州佐野	羽織屋長三郎
全通一丁目	大倉孫兵衛	全榎木	長岡屋雞次郎
全横山町	沼田直武	全宇都宮	堀越常三郎
大阪	岡島直七	下総結城	叶屋義兵衛
全	吉岡平助	全境	田中正太郎
名古屋	永樂屋藤四郎	全銚子	長崎屋平八
沼津	小松浦吉	全	高木直二郎
甲府	徵古堂	全佐原	石井藤七
			飯田屋今治
			正文堂利兵衛

刑法本條正誤

貳 丁七行ノ下	重主ノ誤	五 丁十五行ノ下	各ヲ脱ス
十九丁四、節ノ下	ハハニノ誤	廿五丁三、ヲノ下	輕ハ免ノ誤
廿八丁十一、禁ノ下	獄ハ錮ノ誤	廿九丁七、陰ノ下	課ハ謀ノ誤
卅二丁八、暴ノ下	重ハ行ノ誤	卅二丁十五、又ノ下	書ハ書ノ誤
四十五丁七、詔ノ上	其ヲ脱	同 丁十五、官ノ上	其ヲ脱
五十一丁一、囑ノ下	記ハ託ノ誤	五十二丁六、服ノ下	飾ノ誤
七十五丁九、男ノ下	ニサ脱ス	八十丁十四、窃ノ下	取ノ誤
同 丁十六、窃ノ下	取ノ誤	八十一丁八、窃ノ下	取ノ誤
八十六丁六、燒ノ下	燬ヲ脱ス	八十七丁九、窃ノ下	取ノ誤
同 丁十三、四十二條ノ下	四ハ行	八十八丁一、二以上ハ	二圖以上ノ誤
同 丁二、過失ノ例	失火ノ例誤	同 丁十二、二圖ノ下	以上ヲ脱

附則中正誤

九十八丁十一行中スルハ	申立ツル誤	百一丁一行罪金ハ	罰金ノ誤
百八丁一行旅ノ下	申立ツル誤	同 丁三行費非ノ	費ハ行
百十一丁一行得ノ下	申立ツル誤		

第二節	民事原告人ノ起訴	廿八丁
第三章	豫審	廿九丁
第一節	令狀	三十一丁
第二節	密室監禁	三十八丁
第三節	證據	三十九丁
第四節	被告人ノ訊問及ヒ對質	四十丁
第五節	檢證及ヒ物件差押	四十二丁
第六節	證人訊問	四十五丁
第七節	鑑定	五十一丁
第八節	現行犯ノ豫審	五十四丁
第九節	保釋	五十六丁
第十節	豫審終結	五十八丁
第四章	豫審上訴	六十二丁
第四編	公判	七十丁
第一章	通則	全
第二章	違警罪公判	八十七丁

第三章	輕罪公判	九十四丁
第四章	重罪公判	百一丁
第五編	大審院ノ職務	百十二丁
第一章	上告	全
第二章	再審ノ訴	百十九丁
第三章	裁判管轄ヲ定ムル訴	百廿二丁
第四章	公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴	百廿三丁
第六編	裁判執行復權及ヒ特赦	百廿五丁
第一章	裁判執行	全
第二章	復權	百廿八丁
第三章	特赦	百三十丁

目錄終

治罪法注釋
 此法律ハ罪犯事件
 ナ取扱フ手續ニ定
 タルモノナリ ○
 (總則) 治罪法全部
 ノ適用方ヲ示セル
 者ナリ ○ 第一條
 一凡ソ法律ニ於テ
 罪ト爲ヘキ事ヲ犯
 者アル時ハ必ず其
 何等ノ犯罪ナルコ
 シ明クシ法律ニ定
 メタル刑ヲ科セサ
 ル可ラズ而シテ其
 犯罪者アルニ於テ
 ハ檢察官其刑事ノ
 原告人ト爲リ法律
 ニ定メタル區別ニ
 從テ其訴ヘテ起ス
 乃チ之ヲ公訴ト稱
 ス ○ 檢察官トハ檢
 事長檢事補及刑事
 事務ヲ行フ警部
 等也 ○ (第二條) 私

治罪法

第一編 總則

第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスル者
 ニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢察官之ヲ行フ

第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ
 目的トスル者ニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ル者ニ非ス又告訴私訴
 ノ樂權ニ因テ消滅スル者ニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場
 合ハ此限ニ在ラス

第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶シテ刑事
 裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得但法律ニ於テ其裁判所ニ私訴ヲ爲ス
 コトヲ許サル場合ハ此限ニ在ラス

第五條 公訴私訴ノ裁判ハ管轄裁判所ニ於テ現ニ施行スル法
 律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第六條 刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所トニ於テ公

事長檢事補及刑事
 事務ヲ行フ警部
 等也 ○ (第二條) 私

訴トハ罪ヲ犯ス者
アルニ因テ生シタ
ル損害ノ賠償ヲ取
求シ又ハ贓物ヲ取
リ戻スコトヲ目的ト
シテ訴ヲ起ス者ナ
リ而シテ其損害ノ
模様ニ因リ之カ償
ヒヲ要求スルノ權
アルト無キトハ民
法ニ從テ判別ス可
シ又損害ノ賠償贓
物ノ還給ヲ要スル
トモアルトハ被害
者一己ノ利益ニ關
スル者ナレハ被害
者ヨリ訴ヲ起スモ
ノトス ○第三條
公訴ハ被害者ノ
告訴スルヲ待テ起
ス可キ者ニ非ズ故
ニ被害者ノ告訴ナ
キモ檢察官其職務
ヲ以テ公訴ヲ起ス可

訴私訴並起ル時ハ公訴ノ裁判ニ先テ私訴ノ裁判ヲ爲ス可カラ
ス若シ賠償返還ノ言渡アリタル後刑ノ言渡アリタル時ハ共ニ
其效ナカル可シ

第七條 民事裁判ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起訴アルニ
非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲ス可トナス
刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願下ヲ
爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲ス可トナス

第八條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ
從ヒ被告者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカル可シ

第九條 公訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

- 一 被告人ノ死去
- 二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ被害者ノ棄權又ハ
私和
- 三 確定裁判
- 四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止
- 五 大赦

又被害者自ラ告
訴及私訴ノ權ヲ棄
テ之ヲ消滅セシム
公訴ヲ消滅セシム
ルコト能ハズ但シ
冒犯姦等ノ如キ法
律ニ於テ被害者若
クハ其親屬ノ訴ヘ
テ待テ論ス可キ犯
罪ニ係ルルハ固ヨ
リ告訴ヲ待テ後ニ
公訴ヲ起シ又其棄
權ニ由テ消滅スル
者トス ○第四條
被害者ヨリ犯罪者
アルコトヲ官ニ告
ルナラバ ○第五條
告訴私訴ヲ爲ス
コト得テ犯罪者
ナガテ犯人ヲ憐ム
ニ出ルカ若クハ訴
ヘテ爲スコトヲ欲
ズシテ自ラ其權ヲ
棄ルナラバ ○第

六 期滿免除

第十條 私訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

- 一 被害者ノ棄權又ハ私和
- 二 確定裁判
- 三 期滿免除

第十一條 公訴期滿免除ノ期限左ノ如シ

- 一 輕罪ハ三年
- 二 輕罪ハ三年
- 三 重罪ハ十年

第十二條 私訴期滿免除ノ期限ハ被害者無能力ナル時又ハ民
事裁判所ニ其訴ヲ爲シタル時ト雖モ公訴期滿免除ノ期限ト同
一ナリトス

公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタル時ハ民法ニ定メタル期滿免
除ノ例ニ從フ

第十三條 公訴私訴期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス但
繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

四條(公訴) 附帶
スルトハ檢察官ヨ
リ刑事裁判所ニ公
訴ニシタル時其刑
事ニ關係ノ私訴ヲ
公訴ニ附ケ添ヘテ
爲スコト云○其金
額ニ向ハラズトハ
違警罪ニ付テ私訴
ノ金額治安裁判所
ノ權限ニ超過スル
モ之ヲ違警罪裁判
所ニ爲スヲ得ルヲ
云フ○(第五條)
犯罪ノ種類ニ由リ
テ其裁判ノ管轄ヲ
異ニスルモノナリ
假令ハ輕罪裁判ニ
テハ重罪ノ裁判ヲ
爲スヲ得ク違警罪
裁判所ニテハ輕罪
重罪ノ裁判ヲ爲ス
事ヲ得ザル等ノ如
シ而シテ其管轄ノ

第十四條 期滿免除ハ刑事裁判所ニ於テ檢察官若クハ民事原告人ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ公判ハシ手續アリタルニ因リ其期限ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ
期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタル時ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期限ヲ起算ス但前後ノ日數ヲ通算シテ第十一條ニ定メタル期限ノ二倍ヲ超過ス可カラズ
第十五條 起訴豫審又ハ公判ノ手續其規則ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スル時ハ期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷スルノ效ナカ
ル可シ但裁判官ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スル時ハ此限ニ在ラス
第十六條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重キ過失ニ出テタル時ハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得
被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人告發人又ハ民事原告

裁判所ニテハ現在
施行スル所ノ法律
ニ定メタル訴訟手
續ニ從テ公訴私訴
ノ裁判ヲ爲スベキ
者トス然ラザ
ル時ハ其裁判ノ效
ナカルヘシ○(第
六條) 刑事裁判所
ニテ公訴私訴並ヒ
起ルカ又ハ刑事裁
判ト民事裁判所ト
ニ於テ公訴私訴並
ヒ起リタル時ハ必
ズ先ツ公訴ノ裁判
ヲ爲シ私訴ノ裁判
ヲ後ニス可シ若シ
私訴ノ裁判ヲ先ニ
シ賠償返還ノ言渡
ヲナシ公訴ノ裁判
ニ於テ刑ノ言渡ヲ
ナシタル時ハ公訴
及私訴ノ裁判何レ
モ其効ナシ○(第

人ヨリ惡意若クハ重キ過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ中立ヲ爲シタル時亦同シ
民事原告人豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ敗訴シタル時ハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得
要償ノハ本案訴ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得
第十七條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ裁判官檢察官書記又ハ司法警察官ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス
第十八條 此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスル者ハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ル時ハ期限ニ算入ス可ラス但期滿免除ノ期限ハ此限ニ在ラス
一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

二條)無能力者ハ
明治十四年第七十
三号布告ヲ以テ定
テハ即チ左ノ如シ
(一)未丁年ニシテ
痴人(四)治産ノ禁
ヲ受タルモノ民法
ニ於テノ期間免除
ハ無能者ニ對スル
時ハ其期限ノ經過
ヲ中止ス尙ホ之ヲ
洋解スルハ治産ノ
禁ヲ受ケタル者ハ
其禁ノ解クルマテ
未丁年ノ者ハ丁年
ニ至ルマテ共ニ其
年限ハ期間免除ノ
期限ニ算入セザル
ナリ然レドモ私訴
公訴ノ期間免除ハ
全シ民法ト異ナリ
無能力者ト雖モ之
ヲ中止スルコト無

此規則ニ背キタル時ハ其書類ノ効ナカル可シ
官吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ
若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ官吏ノ面前ニ於テ作リタル
場合ヲ除クノ外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ
第二十六條 官吏其他何人ニ限ラズ訴訟ニ關スル書類ノ正本
又ハ原本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラズ若シ挿入削除及
ヒ欄外ノ記入アル時ハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スル時ハ之
ヲ續得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其改テ記載ス可シ此規則ニ背キタ
ル時ハ其變更増減ノ効ナカル可シ
第二十七條 此法律ニ於テ定メタル豫審又ハ公判ニ付テノ規
則ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス
頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサル時ハ其効
アリトス
第二十八條 此法律ハ將來頒布ス可キ別段ノ法律ニ於テ豫審
又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス但法律ニ特
關スル規則ハ此限ニ在ラス

著シ公訴ニ付既ニ
其刑ノ言渡済ミタ
ル時ハ民法ノ例ニ
從テ期間免除ヲ中
止ス可シ○第十
三條)繼續犯罪ト
ハ一日ヲ以テ罪ヲ
犯シ終ラズシテ數
日若シクハ數年月
ノ間引續キテ犯ス
罪ヲ云フ即チ貨幣
ヲ偽造スル罪罪人
ヲ監禁スル罪及
ヒ國事ニ關スル罪
等ノ如キ是ナリ○
是等ノ犯罪ニ對ス
ル公訴私訴ノ期間
免除ノ期限ハ其犯
罪ノ最モ終リノ日
ヨリ起算スル者ト
ス○(第十四條)刑
事裁判所ニ於テ檢
察ヨリ公訴ヲ起ス

從前頒布シタル別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定メ
タル犯罪ニ付テハ前項ノ例ニ在ラス
第二十九條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ
者ニ適用スルコト得ス
第三十條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百
十五條ノ例ニ從フ
第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限
第一章 通則
第三十一條 通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁判
所ニ屬ス
第三十二條 裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿ノ奏請ニ
因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム
第三十三條 裁判所ニハ檢察官二名又ハ數名ヲ置ク
第三十四條 刑事ニ係ル檢察官ノ職務左ノ如シ
一 犯罪ヲ捜査ス
二 犯罪ニ付キ取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官ニ請求

ノ手續ヲ爲スカ若
 シハ民事ノ原告人
 ヨリ私訴ヲ起スノ
 手續アリタル時及
 ヒ豫審若シハ公判
 ノ手續アリタル時
 ハ期滿免除ノ期限
 ノ經過ヲ中斷シテ
 其已前ノ日數ハ期
 滿免除ノ期限ニ算
 入セザルモノトス
 其未タ發覺セサル
 共犯人及ヒ民事傍
 黨人ニ對シテモ同
 様ナリ○起訴豫審
 公判ノ手續ヲ止メ
 タル日ヨリ更メテ
 期滿免除ノ期限ヲ
 起算ス可シト雖モ
 中斷スル毎ニ棄除
 セサル日數及ヒ更
 ニ起算セルヨリ經
 過シタル日數ヲ合
 算シテ第十一條ノ

- 一 裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス
- 二 裁判所ニ於テ公益ヲ保護ス
- 三 裁判所ニハ公廷ニ立會フ可シ
- 四 檢察官一名ハ公廷ニ立會フ可シ
- 第三十五條 檢察官一名又ハ數名ヲ置ク
- 第三十六條 裁判所ニハ書記一名又ハ數名ヲ置ク
- 第三十七條 書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書公判始末書其
 他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ル可シ
- 又裁判言渡其他一切ノ書類ヲ保存ス可シ
- 第三十八條 犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルノ左ノ如シ
- 一 違警罪ハ違警罪裁判所
- 二 輕罪ハ輕罪裁判所
- 三 重罪ハ重罪裁判所
- 重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人
 ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非スト雖モ上等ノ裁判所
 併セテ之ヲ管轄ス
- 第三十九條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

期限ノ二管ヲ爲シ
 可ラス○民事傍黨
 人ハ明治十四年十
 二月第七十三號ノ
 布告ヲ以テ定メテ
 左ノ如シ(一)未
 丁年者ノ父若クハ
 母又ハ同居ノ親屬
 ニシテ監督ヲ爲ス
 者(二)夫タル者
 (三)白痴癡癡人ノ
 保管者(四)雇主○
 (第十五條)起訴豫
 審又ハ公判ノ手續
 各其規則ニ背キタ
 ルニ因リ其裁判無
 効ト爲リタル時ハ
 公訴私ノ期滿免除
 ノ期限ヲ中斷スル
 効ナシ但シ裁判官
 ノ管轄違ヒニテ其
 手續ノ無効ニ爲リ
 タル者ハ中斷ノ効
 カナシハサル可シ

- 一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シ
 タル時
- 二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタル時
- 三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免ル
 爲メ他人ノ罪ヲ犯シタル時
- 第四十條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫
 審及公判ノ管轄ナリトス
- 犯罪ノ地分明ナラサル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其
 管轄ナリトス
- 第四十一條 數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ於テ同時ニ又ハ繼續
 レテ一箇ノ罪ヲ犯シタル時ハ其中ニテ被告人逮捕ノ地ノ裁判
 所ヲ以テ其管轄ナリトス
- 數罪俱發ノ場合ニ於テモ亦同シ
- 第四十二條 犯罪ノ地ニ非サル裁判所管轄地内ニ於テ被告人
 ヲ逮捕シタル時ハ最近ノ管轄裁判所ニ送致ス可シ
- 令狀ヲ以テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ其令狀ヲ發シタル裁判所

○(第十六條) 免訴トハ罪アリトモ既ニ
 期滿免除ノ期限ヲ
 經過シタル等ノ故
 ナリテ其訴ヘテ免
 スナクモ無罪トハ
 固ヨリ罪ナキ者ナ
 クモ告訴トハ犯人
 ノ罪ヲ犯スニ因リ
 テ損害ヲ被リタル
 者ヨリ訴フルナク
 ヒ告發トハ何人ニ
 テモ犯罪者アルヲ
 知テ之ヲ官ニ告ク
 ルヲ云フ○本條ニ
 依ケタル起訴人ヨ
 リ惡意ニ出ツルカ
 又ハ重キ過失ニ因
 リテ訴ヲ起シ被告
 人ニ損害ヲ被ラシ
 メ又ハ過實ノ申立
 ナ爲シタル時ハ被
 告人ヨリ其人々ニ
 對シ其損害ノ償ヒ

ニ送致ス可シ
 第四十三條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テ被告人ヲ逮
 捕スルコト能ハス若クハ法律上逮捕スルコト許サレバ其中
 ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリ
 トス
 第四十四條 犯行ニ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリ
 數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アル時其中心ニテ最初
 豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
 高等法院及ヒ陸海軍裁判所ノ管轄ニ付キ法律ニ於テ特ニ定メ
 タル場合ハ本條ノ例ニ在ラス
 第四十五條 外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ依リ處斷
 ス可キ者ニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ逮捕ノ地
 ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタル時ハ送
 致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
 關席裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終住所ノ地ノ裁
 判所ヲ以テ其管轄ナリトス其住所不明ナル時ハ裁判管轄

ヲ要スル權アル
 ○(第十七條) 本條ノ官吏ハ其職
 務ニ因テ爲ス者ナ
 レハ被告ハ無罪ノ
 言渡ヲ受ケルモ之
 ニ對シテハ要償ヲ
 爲スコト得スト雖
 モ故ニ損害ヲ被ラ
 シメタルカ又ハ刑
 法ノ罪ヲ犯シテ被
 害人ヲ陷害シタル
 場合アル時ハ其損
 害ヲ要償スルノ權
 アリ○(第二十條)
 特別ノ場合トハ災
 變厄難等ニ遭逢シ
 タル時カ又ハ言渡
 書ニ上告スルヲ得
 ル權限期限ノ記載
 ナキ等ノ場合ヲ云
 フ○(第二十一條)
 訴訟關係人トハ原
 告被告及ヒ民事擔

ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ
 第四十六條 商船内ノ犯罪ニ付テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別ニ
 法律ヲ以テ之ヲ定ム
 第四十七條 豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カラ
 ス前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ哀訴及ヒ關席裁判ニ
 對スル故障ヲ除クノ外其上訴ノ裁判ニ干預ス可カラズ此規則
 ニ背キタル時ハ其言渡ノ効ナカル可シ
 第四十八條 裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ自ラ其管轄ナ
 リヤ否ヲ判決スルノ權アリ其判決ニ付テハ本案ノ事件終審ナ
 ル可キ場合ト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ檢察官其他訴訟關係人ヨ
 リ上訴スルコト得
 第二章 違警罪裁判所
 第四十九條 治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内ニ
 於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス
 第五十條 違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事之ヲ行
 フ

當人等ナリ○(第
 二十二條)管轄外
 ノ地ハ直ニ書類
 ナ送達スル權ナキ
 者ナリ故ニ書類ヲ
 送達ス可キ者管轄
 外ノ地ニ在ル時ハ
 其地ノ裁判所ノ書
 記ニ書類送達ノ事
 ナ依頼ス可キモノ
 トス○(第二十四
 條)明治十四年九
 月第四十六号布告
 ○書類送達ニ付治
 罪第二十四條ノ制
 限有之候ヘハ當分
 ノ内ハ不及其儀候
 事○(第二十五條)
 官吏ニ非サル者ノ
 作ルヘキ書類下
 告訴人ノ作ル告訴
 狀鑑定人ノ申立書
 等ナリ是等ノ書類

判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ
 第十一條 違警罪裁判所檢察官ハ職務ニ其裁判所ノ在ノ地
 ノ警部之ヲ行フ
 第五十二條 違警罪裁判所檢察官ハ毎月未決既決ノ事件表ヲ
 作り輕罪裁判所檢事ニ差出ス可シ
 事件表ニハ違警罪裁判所判事認印ノ且意見アル時ハ之ヲ附記
 ス可シ
 第五十三條 違警罪裁判所書記ハ職務ハ治安裁判所書記之ヲ
 行フ
 第三章 輕罪裁判所
 第五十四條 始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於
 犯シタル輕罪ヲ裁判スル
 又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ
 又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ
 裁判ス
 第五十五條 輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁判

ハ本人自ラ姓名ヲ
 記シテ捺印スヘキ
 モノトス若シ署名
 捺印スルコト能ハサ
 ル時ハ其場ノ立會
 人代署シテ其本人
 ノ署名捺印爲シ難
 キ事由ヲ記載スヘ
 シ但シ官吏ノ面前
 ニ於テ作リタル時
 ハ立會人ノ代署ヲ
 用ヰズ○契印スル
 トハトシタニ割
 印スルヲ云○(第
 二十六條)文字ヲ
 改竄スルトハ文字
 ナ増補シ若シハ削
 除スルヲ云○(第
 二十七條)豫審又
 ハ公判ニ付テ此治
 罪ニ於テ定メタル
 規則ハ頒布以前ノ
 犯罪ニ關スル訴訟
 ニモ之ヲ適用スル

所判事一名又ハ數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス
 又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得
 第五十六條 豫審判事ノ職務ハ司法卿ヨリ始審裁判所判事一
 名又ハ數名ニ滿一年間之ヲ命ス
 又滿一年以上其職務ヲ繼續ス可キコトヲ命スルヲ得
 第五十七條 判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職務
 ナ行フ
 判事補ハ豫審又ハ公判ニ立會ヒ意見ヲ述ルヲ得
 第五十八條 輕罪裁判所檢察官ノ職務ハ始審裁判所檢事又ハ
 其指名シタル檢事補之ヲ行フ
 第五十九條 輕罪裁判所書記ノ職務ハ始審裁判所書記之ヲ行
 フ
 第六十條 東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ各其管轄地内ニ於
 テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ檢事ト同一ノ權ヲ
 有ス但東京府長官ハ此限ニ在ラス
 左ニ記載シタル官吏ハ檢事ヲ補佐トシテ其指揮ヲ受テ第三編

コトヲ得ヘシ○此
 法頒布以前ニ於テ
 訴訟手續ヲ爲シテ
 ルトモ其時ノ法律
 ニ從テ爲シタル者
 ハ其効ヲ失ハス○
 (第二十八條)本條
 ハ別段法律ヲ以テ豫
 審又ハ公判ノ手續
 ヲ定メタル犯罪ニ
 就テ此治罪法ヲ用
 ヲルト用非サルト
 ナ示スモノナリ將
 來ノ犯罪ニハ之ヲ
 用ユルヲ得可シト
 雖モ頒布以前ノ犯
 罪ニハ用ルテ得ス
 ○(第二編)○通則
 一八第二編ノ刑事
 裁判所ノ組立及ヒ
 權限ニ付通シテ用
 ヲ可キ法則ヲ云フ
 ○(第三十一條)通
 常刑事トハ軍事ニ

ニ定メタル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査ス可シ
 一 警視廳長
 二 區長部長
 三 治安判事
 四 警部ノ在ラサル地ノ局長
 第六十一條 司法警察官檢察官又ハ裁判官ハ他ノ司法警察官
 又ハ裁判官ヨリ犯罪取調ノ爲メ其管轄地内ニ於テ證據其取事
 實參考ト爲ル可キ事物ヲ採取ス可キノ囑託ヲ受シルコトアル
 可シ
 第六十二條 檢事ハ二月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件
 表ヲ作り控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ
 又遼輕罪裁判所檢事長ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢事長
 ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
 事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
 第四章 控訴裁判所
 第六十三條 控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ

關セサル刑事ヲ云
 フ○(第三十四條)
 一 檢察官ハ犯罪者
 ヲ起手續ヲ爲シ有
 罪者ヲシテ罪ヲ免
 ル、若シカラスム
 二 犯罪ノ罪狀形
 跡ヲ取調ヘ及ヒ其
 犯罪者ヲ罰ス可キ
 刑ヲ適用スルコトヲ
 裁判官ニ請求スル
 任アリ○(第卅
 五條)公廷トハ刑
 事ヲ裁判スル白洲
 也○(第二十八條)
 重罪輕罪違警罪等
 ノ懸罪同時ニ起訴
 アリタル時ハ附帶
 セル犯罪ニ非サル
 モ重罪裁判所ニ於
 テ其數罪ヲ併シテ
 裁判スヘシ○(第
 三十九條)(二)犯

裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ
 爲ス可シ
 第六十四條 刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事
 數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス
 又滿一年間吏ニ其職務ヲ繼續セシムルコトヲ得
 第六十五條 刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局判
 事ヲシテ其職務ヲ行ハシム
 裁判所長ハ何時ニテモ裁判長ト爲ルコトヲ得
 第六十六條 刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所檢事長又ハ其指
 名シタル檢事之ヲ行フ
 第六十七條 檢事長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ輕罪裁判所
 檢事ニ屬スル司法警察及ヒ起訴ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢
 事ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
 又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告達スル
 コトアル可シ
 檢事長ハ其管轄地内ノ檢察官及ヒ司法警察官ヲ監督ス

罪ノ時日若クハ場
所ヲ異ニスルモ彼
此謀ヲ通シ合ヒテ
數罪ヲ犯シタル者
ハ附帶ノ犯罪トス
○(第四十條)被告
人居住ノ地及ヒ被告
捕縛ノ地及ヒ被告
人罪ヲ犯シタル地
各裁判所ノ管轄異
ル時ハ其犯罪ノ地
ノ裁判所ヲ以テ豫
審及ヒ公判ノ管轄
ト定ム若シ犯罪ノ
地ヲ知ルコト能ハ
サル時ハ被告人ヲ
逮捕シタル地ノ裁
判所ニテ之ヲ管轄
スルモノトス○刑
治十四年九月第四
十六号布告○治罪
法第四十條ニ犯罪
ノ地ヲ以テ裁判管
轄ノ規定有之候處

第六十八條 検事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事
件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ
又輕罪裁判所檢事ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ司法卿ニ差
出シ且意見アル時ハ之ニ附記ス可シ
事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
第六十九條 刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ
第五章 重罪裁判所
第七十條 重罪裁判ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪裁判ス
第七十一條 重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク
若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ検事長ヨリ司法卿ニ
具申シ其許可ヲ得テ臨時開廳スルコトヲ得
第七十三條 重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ
之ヲ開ク
重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ
第七十三條 一 裁判長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事ニテ之
ヲ命ス

審分ノ内犯罪ノ地
分明ナラバ被告人ト
雖モ管轄裁判所ヨ
リ其職託アリタル時
ハ其被告ハ逮捕ノ
地ノ裁判所之ヲ管
轄ス可シ○(第四
十一條)數箇ノ罪
判所ノ管轄地内ニ
於テ一箇ノ罪ヲ犯
ストハ蓋シ管轄地
ニテ犯シタル者ノ
如キヲ云フ可シ繼
續シテ犯ストハ貨
幣偽造ノ罪ノ如キ
繼續シテ犯ス一罪
ヲ各處ノ裁判所ノ
管轄地ニテ犯スニ
云フ前項ノ犯人若
クハ數箇ノ裁判所
ノ管轄地内ニテ數
罪ヲ犯シタル者ハ
何レノ裁判所ノ管
轄ト定メ難キニ以

二 陪審判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨ
リ其裁判所判事ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク
時ハ其裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之ニ充ツ
第七十四條 重罪裁判所檢事官ノ職務ハ控訴裁判所檢事長又
ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ
始審裁判所ニ於テ開ク時ハ檢事長ヨリ始審裁判所檢事ヲシテ
其職務ヲ行ハシムルコトヲ得
第七十五條 重罪裁判所書記ノ職務ハ開廳ス可キ裁判所ノ書
記之ヲ行フ
第七十六條 控訴裁判所檢事長ハ開廳ノ後既決事件表ヲ作り
司法卿ニ差出ス可シ
事件表ニハ控訴判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
第六章 大審院
第七十七條 大審院ニ刑事局ヲ置キ左ノ條件ヲ裁判ス
一 上告
二 再審ノ訴

若シ内外國ニテ逮捕スルコト能ハサル時ハ最モ終リニ住居セル地ノ裁判所ニ於テ關席裁判ヲ執行スヘシ其住所ヲ知ルコト能ハサル者ハ先ツ其事件ヲ裁判ス可キ管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スヘシ

○第四十六條 本條商船トハ官船ニ非スシテ私有ニ屬スル者ヲ云フ

○明治十四年十二月第六十五号布告

○商船内犯罪取扱規則

○第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發

第八十九條 高等法院ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ許サス但左ノ條件ニ於テハ其院ニ上訴スルコトヲ得

一 關席裁判アリタル場合ニ於テ故障

二 第四百三十六條ト同一ノ場合ニ於テ哀訴

三 第四百三十九條ト同一ノ場合ニ於テ再審ノ訴

第九十條 被告事件夥多ナル時又ハ再審ノ訴ヲ裁判ス可キ時ハ新ニ職員ヲ命スルコトアル可シ

第九十一條 高等法院ノ訴訟手續ハ通常ノ規則ニ從フ

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審

第一章 捜査

第九十二條 檢察官ハ後ニ記載シタル告訴告發現行犯其他ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル時ハ其證憑及ヒ犯人ヲ捜査シ第百七條以下ノ規則ニ從ヒ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

第一節 告訴及ヒ告發

第九十三條 何人ニ限ラズ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者

ナ爲スルコトヲ得

○第二條 船長告訴告發ヲ受タル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問證憑ノ處分ヲ爲シ日證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但シ調書ヲ作ルルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其中立ナル場合ニ於テ立會人二名以上アル要ス

○共ニ該船ニ碇泊又ハ着港ノ地ニ於テ若シ外國ノ港埠ニ碇泊シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ

ハ犯罪ノ地若クハ被告入所在ノ地ノ豫審刑事檢察事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

豫審刑事告訴ヲ受ケタル時ハ第百四十條以下ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

刑事告訴ヲ受ケタル時ハ第百七條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

司法警察官告訴ヲ受ケタル時ハ速ニ其書類ヲ檢事ニ送致ス可シ

違警罪ニ付テハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得其告訴ヲ受ケタル司法警察官ハ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ移ス可シ

第九十四條 告訴人ハ成ル可ク其證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立ツ可シ

又告訴人ハ第百十條以下ノ規則ニ從ヒ民事原告人ト爲ルコトヲ得

第九十五條 告訴ハ告訴人署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲

引渡ス可シ○(第
四十七條)豫審ハ
爲シテ裁判官ハ
同一ノ事件ニ付其
公判ニ付ルコトヲ
ス像審若クハ公判
ヲ爲シテ裁判官
ハ其事件ノ上訴ノ
裁判ニ付テ但シ其
事ノ控訴又ハ公判
ノ控訴ニ付テハ最
初ノ裁判官ヲシテ
之ニ干預スルヲ許
スモノハ其事實ヲ
熟知スルコトヲ以
テ○(第四十八條)
何レノ裁判所ニテ
モ訴ヘテ受ケル事
件ニ付其事件自己
裁判所管轄ナルカ
判決スル權アリ若

ス可シ
又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ
調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告
訴人署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ
告訴人ニハ告訴ヲ受ケタルノ證書ヲ渡スコトヲ得
第九十六條 官吏其職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪アルコトヲ認知
シ又ハ重罪輕罪アリト思料シタル時ハ這ニ其職務ヲ行フ地ノ
檢察官告發ス可シ
告發ハ官吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證
憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ
違警罪ニ付テハ違警罪裁判所檢察官ニ告發ス可シ
第九十七條 何人ニ限ラス重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪
輕罪アリト思料シタル時ハ第九十四條第九十五條ノ規則ニ從
ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ豫審判事檢察官又ハ司法警察官
ニ告發スルコトヲ得
告發ヲ受ケタル官吏ハ第九十三條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス

其判決ニ服セサル
時ハ終審ノ場合ヲ
モ上訴スルコトヲ得
ヘシ○本案ノ事件
トハ○初訴ヲ受ケ
ル事件ヲ云フ其
罪審問ノ爲ニ發覺
シタル他罪ハ之ニ
合審セス○終審ト
ル可キ場合トハ控
訴裁判ノ判決ニ爲
リタル場合ヲ云フ
假令ハ輕罪ヲ經罪
裁判所ニテ判決シ
タルハ始審ニシテ
之ヲ控訴裁判所ニ
控訴シテ判決ニ爲
リタルハ即チ終審
ナリ○(第四十九
條)治安裁判所ハ
刑事ノ違警罪ヲ裁
判スル所トス○明
治十四年九月第四
十八号布告○刑注

可
第九十八條 告訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但第
九十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス
無能力者ノ告訴ハ法律ニ定メタル代人ヲ爲スモ其効アリト
ス
第九十九條 告訴告發ハ其願下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スル
コトヲ得此場合ト雖モ第十六條ノ規則ニ從ヒ被告人ニリ要償ノ
訴ヲ受ケルコトアル可シ
第二節 現行犯罪
第一百條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發
覺シタル罪ヲ謂フ
第一百一條 重罪輕罪ニ付左ノ場合ハ現行犯ニ推ス
一 犯ハトシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時
二 兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帯シタル時
三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ犯人ト
思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戶主ヨリ官吏ニ其處分ヲ

冷罪法中違警罪裁
判ノ儀ハ三分三府
五港ノ市區ヲ除ク
ノ外府縣警察官又
ハ警察分署ニテ裁
判ヲ致候此旨布告
候コト○明治十四
年十二月第八十号
布告○本年(九月)
第四十八号布告左
ノ通り改正ス○違
警罪ノ儀ハ本年第
三十六号布告ニ據
リ明治十五年一月
一日ヨリ治安裁判
所ニ於テ裁判ス可
キ處當分ノ内府縣
警察官及ヒ其分署
ニ於テ裁判セシム
ヘシ○明治十四年
十二月第八十三号
布告○治安裁判所
及ヒ檢察官裁判所
ノ權限左ノ通り定○

求メタル時

第二百二條 司法警察官及ヒ巡查其職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪
ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ令狀又ハ命令ヲ待タズシテ被
告人ヲ逮捕ス可シ
違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ被告人ノ氏名住所ヲ同
ヒ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ告發ス可シ其氏名住所分明ナラ
ズ又逃亡ノ恐アル者ハ違警罪裁判所ニ引致スルコトヲ得
第二百三條 巡查被告人ヲ逮捕シタル時ハ送ニ之ヲ司法警察官
ニ引致ス可シ
其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テハ調
書ヲ作ル可シ
第二百四條 司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル時
ハ假ニ被告人ノ訊問及ヒ證據處分ヲ爲ス可シ
第二百五條 何カニ限ラズ重罪輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ
直ニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得
第二百六條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司

第一條 治安裁判所
ハ訴訟事件ヲ審判
スル事及ヒ民事
ニ係リ急迫ヲ要ス
ル事件ハ勸解スル
ノ限ニ在ラス○第
二條 治安裁判所
請求ノ金額及價額
百圓未満ノ訴訟ニ
付始審ノ裁判ヲ爲
ス○第三條 治安裁
判所ハ人事其他金
額ニ見積ル可ラサ
ルモノヲ裁判スル
コトヲ得ス○第四條
始審裁判所ハ請求
ノ金額及價額百圓
以上並ニ第三條ニ
掲ケタル治安裁判
所權外ノ訴訟ニ付
始審ノ裁判ヲ爲ス
○第五條 始審裁判
所ハ其管轄地内ノ

司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サル時ハ自己ノ氏
名職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡查ニ引渡ス
コトヲ得
被告人ヲ巡査ニ引渡シタル時ハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ
被告人又ハ巡査ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコ
トヲ求ムルコトヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレ
ハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス
第二章 起訴
第一節 檢察官ノ起訴
第二百七條 檢察官犯罪ノ捜査ヲ終リタル時ハ左ノ手續ヲ爲ス可
シ
一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム
可シ
二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕罪難易ニ從ヒ豫審
ヲ求メ又ハ直ニ輕罪裁判所ニ其訴ヲ爲ス可シ
三 違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ

治安裁判所ノ始審
 裁判ニ對スル控訴
 二付終審ノ裁判ヲ
 爲ス但控訴手續ハ
 明治十年第十九号
 布告控訴手續ニ照
 準ス可シ○第五
 十四條一節審トハ
 檢事ノ請求ニ因リ
 民事原告人ノ告訴
 ニ因テ被告人ヲ罰
 關シ犯罪ノ證據及
 事實參考ト爲ル可
 キ者ヲ取リ調ル
 等凡テ公判ノ前調
 ナ爲スナ云フ第三
 編第三章ニ詳ナリ
 ○違警罪裁判ノ始
 審ニ不服ナル時ハ
 輕罪裁判所ニ控訴
 スルコトヲ得ヘシト
 雖モ附帶ノ犯罪ニ
 因リ輕罪裁判所ニ
 テ違警罪ヲ裁判シ

添へ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致ス可シ
 四 被告人ノ身分犯罪ノ種類ハ場所ニ因リ其管轄ニ屬セ
 サル者ト思料シタル事件ニ付テハ之ヲ管轄裁判所檢察
 官ニ送致ス可シ
 被告事件罪ト爲ラズ又ハ公訴受理ス可カラサル者ト思料シタ
 ル時ハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラズ
 第百八條 前條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ル時ハ檢事ニ
 リ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ
 第百九條 檢事豫審ヲ求ムル時ハ證據及ヒ事實參考ト爲ル可
 キ事物ヲ送致シ且檢事可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ原被ノ
 證人トナル可キ者ヲ指示ス可シ
 第二節 民事原告人ノ起訴
 第百十條 重罪輕罪ノ被害者公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲サント
 スル時ハ告訴ト共ニ之ヲ申立テ又ハ告訴ヲ爲シタル後其旨ヲ
 豫審判事ニ申立ツ可シ
 審判事直ニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ル可キノ申立テ受ケ

タル者ハ其控訴ヲ
 申サス其故ハ輕罪
 裁判所ハ違警罪ノ
 控訴裁判所タルヲ
 以テナリ○控訴ト
 ハ始審裁判ヲ違警
 ナラズトスルトキ
 ハ上等ノ裁判所ニ
 申立テ前裁判所ニ
 リ消テ更メテ裁
 判ヲ求ムルヲ云フ
 ○明治十四年十月
 第五十四号布告○
 刑法治罪法實施ノ
 儀ニ付テハ審分ノ
 内輕罪ニシテ檢察
 官ニ於テ豫審ヲ要
 セズト見込ムモノ
 二限リ始審裁判所
 所在ノ地ヲ除クノ
 外治安裁判所ニ於
 テ輕罪裁判所ヲ關
 キ其裁判ヲ爲スコ
 トヲ得可シ此旨布告

タル時ハ檢察官ノ起訴ナシ雖モ公訴私訴ヲ併セテ受理シタル
 者トス
 豫審判事ハ何レノ場合ニ於テモ直ニ被害者ヨリ民事原告人
 ト爲ル可キノ申立テ受ケタル時ハ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ
 第百十一條 被害者ハ公訴ノ本案ニ付キ始審終審ノ裁判言渡
 アルマテ何時ニテモ私訴ヲ爲シ若シハ其要ムル所ヲ變更スル
 コトヲ得
 又私訴ノ願下キ爲シタル後更ニ其申立テ爲シ若クハ其要ムル
 所ヲ變更スルコトヲ得
 第百十二條 被害者ハ代人ニ委任シテ私訴ヲ爲シ又ハ其願下
 若クハ棄權ヲ爲スコトヲ得
 被害者無能力ナル時ハ法律ニ定メタル代人ヲ爲ス可シ
 第三章 豫審
 第百十三條 現行ノ重罪輕罪ヲ除クノ外豫審判事ハ前章ニ定
 メタル規則ニ從ヒ檢事又ハ民事原告人ノ請求アルニ非サレハ
 豫審ニ取掛ルコトヲ得ス此規則ニ背キタル時ハ其請求ヨリ以前

候事○但本本文ノ
場合ニ於テ訴訟内
治罪ノ手續ハ便宜
可取計且且手續
ニ付テハト訴テ許
サズ○有テ布告
付明治十四年十二
月第七十七号ノ布
告アリトモ今之ヲ
略ス○第五十七
條ニ判事補ハ判事
ノ職務ヲ行フ可シ
ト雖モ豫審又ハ公
判ニ此等ヒタルト
キハ意見ヲ述フル
ニ止マテテ其決議
ニ參ズルコトヲ得ス
○第五十八條ニ府知
事豫審ヲ兼テ行
フノ任アリ故ニ犯
罪ヲ捜査スルニ於
テハ檢事ト同一ノ
權ヲ有ス但シ東京

係ル手續ノ効ナカル可シ
第百十四條 豫審判事及重罪輕罪ヲ付キ直ニ告訴又ハ告發
ヲ受ケタル時ハ召喚狀ヲ以テ被告人ヲ呼出シ以テ訊問スルコ
ト得若シ引續キ取調ヲ爲ス可キ者ト思料シタル時ハ其事件ヲ
檢事ニ送致ス可シ
第百十五條 豫審判事或告訴告發ノ事件急速ヲ要スル時ハ直
ニ被告人ニ對シテ引狀ヲ發シ又ハ訊問シタル後勾留狀ヲ發
スルコトヲ得此場合ニ於テハ違ニ其旨ヲ檢事ニ通知シ且證據及
運事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致ス可シ
若シ其通知ヲ爲シタルヨリ一日内ニ檢事起訴ヲ爲サ、ル時ハ
速ニ被告人ヲ放免ス可シ但後日起訴ヲ爲スハ妨礙ト爲ルコト
ナカル可シ
第百十六條 被告人所在ノ地ニ豫審判事直子ニ告訴告發ヲ受
ケ又ハ檢事ヨリ其送致ヲ受ケ被告事件急速ヲ要スル時ハ通常
ノ規則ニ從ヒ被告人ノ訊問又ハ檢證處分ヲ爲シタル後證據及
運事實參考ト爲ル可キ事物ヲ犯罪ノ地ニ豫審判事ニ送致ス可

府ハ別ニ專任ノ
視察ヲ附テ以テ知
事ニ其任ヲシ○
豫審判事任官ニ
テ豫審判事任官
ニ置ク○明治十四
年十月司法省甲第
五号布達ニ新法實
施ノ後ハ司法警察
事務上時宜ニ依リ
巡査ヲシテ警部ノ
代官ト爲シテシムル
儀モ有之候條此
旨布達候事○第
六十一條ニ警部ノ
異リタル地ニ於テ
豫審判事任官及
ヒ事實ヲ考テ爲ル
可キ事物ヲ集取ス
ル能ハルコトヲ以
テ司法省實ニ依託
ス可キ者トス故ニ
其依託ヲ受ケタル

若シ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料セタル時ハ勾留狀ヲ以
テ被告人ヲ送致ス可シ
第百十七條 檢事ハ豫審中何時ニモ豫審判事ニ請求シテ訴
訟書類ヲ檢閱スル權ヲ得但二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ
又必要トシテ檢證處分ニ對シテ臨時其請求ヲ爲ス可シ
第一節 豫審
第百十八條 豫審判事ハ檢事又ハ民事原告ハ之ヲ起訴スル因重
罪輕罪ノ事件ハ之ヲ受理スル時ハ被告人ニ對シテ先ツ召喚狀ヲ發
ス可シ但召喚狀ヲ送達シ被告人出廷シテ訊問少シテ二十四時
ノ内豫審アル可シ
第百十九條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受テ何キ被告人其居地内
ニ住セサル時ハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ
豫審判事ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

官吏ハ其求メニ控
セサル可ラス○控
訴裁判所明治十四
年十二月第七十四
号布告○治罪法中
刑事ノ控訴ニ關ス
ル條件ハ當分ノ内
實施セス○第六
十五條ニ控訴裁判
所ハ民事刑事共ニ
控訴ヲ受ケル所ナ
ルヲ以テ民事刑事
ノ二局ヲ置キ刑事
モ亦各專任ヲ命ス
可シ然レトモ刑事
局判事ニ差支アル
時ハ裁判所長ノ職
權ヲ以テ民事局判
事ヲ以テ刑事局判
事ヲシテ刑務ノ極
○裁判所長ハ民事
刑事ニ拘ハラヌ所
中一切ノ事務ヲ統轄
スル任アルモノナ

第百二十條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出
廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得
第百二十一條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發
スルコトヲ得
一 被告人定リタル住所アラサル時
二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スルノ恐アル時
三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケント
スルノ恐アル時
第百二十二條 勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シ
タル豫審判事ニ被告人ヲ引致ス可シ
勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可
シ若シ長時間ヲ經過スル時ハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然
之ヲ釋放ス可シ
第百二十三條 勾引狀ヲ發シタル前被告人既ニ豫審判事ノ管
轄地外ニ在ル時ハ被告人ヨリ其所在ノ地ノ豫審判事ノ取調ヲ
求ムルコトヲ得其求ヲ受ケタル豫審判事ハ假ニ被告人ヲ勾留シ

レハ何時ニテモ其
事件ノ裁判長トシ
ルコトヲ得○
第六十六條 裁判
所長ヨリ各指シタ
ルモノヲ云○第六
十六條ニ檢用長
ハ其係屬裁判所管
轄地内ニアル檢察
官トシテ之ヲ監督
裁判所ノ檢事ノ長
官トシテ之ヲ監督
其檢事ノ管掌ニ
屬スル職務ヲ行ハ
ル事ヲ得○
第七十一條 重罪
裁判所ハ常時ニ之
ヲ開クコトヲ得
三月毎ニ之ヲ開ク
モノトシテ其故ハ重
罪ハ輕罪違背罪ニ
比スレバ其事件ニ

送シ勾引狀ヲ發シタル豫審判事ニ其旨ヲ通知ス可シ
第百二十四條 前條ノ場合ニ於テ勾引狀ヲ發シタル豫審判事
ハ被告人ヲ勾留シタル豫審判事ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處
分ヲ囑託シ又ハ前ニ發シタル勾引狀ヲ以テ被告人ヲ送致ス可
キコトヲ請求ス可シ
其囑託ヲ受ケタル豫審判事ハ被告人ヲ訊問シタル後其旨ヲ勾
引狀ヲ發シタル豫審判事ニ通知シ其意見ヲ聽キ被告人ヲ放免
シ又ハ前ニ發シタル勾引狀ヲ以テ管轄豫審判事ニ送致ス可キ
ノ言渡ヲ爲ス可シ
第百二十五條 豫審判事ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被
告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證
明シタル時ハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告
人其管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ豫審判事ニ訊問ノ事ヲ
囑託ス可シ
第百二十六條 勾留狀ハ被告人逃亡シ又ハ第百二十三條ノ場
合ヲ除クノ外被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ

○(第七十二條) 少ナケレハナリ
 ○(第七十三條) 二陪席判事ハ或
 ル事件ノ裁判ニ立
 會ヒ異見ヲ陳述シ
 兼テ決議ニ參スル
 得ル○本條陪
 席判事ニ付二條陪
 席判事アリ左ノ如シ
 ○明治十四年九月
 第四十六号布告○
 治罪法第七十三條
 第二項ノ陪席判事
 四名ト有レ候ヘモ
 當分ノ内二名ト相
 定メ候事○明治十
 四年十月第五十五
 号布告○治罪法第
 七十三條末文陪席
 判事第七十九條第
 二項補充判事ノ儀
 當分其裁判所長又
 ハ院長ノ職時指シ
 タル所ニ任シ候條

者ト思料スルコト非サレハ之ヲ發スルコトヲ得
 第二百二十七條 豫審判事ハ拘留狀ヲ執行シタルヨリ十日ヲ過
 クル時ハ之ヲ收監狀ニ換ヘ若シハ第二百十九條ノ規則ニ從ヒ
 被告人ヲ責付ス可シ
 檢事ハ被告人ヲ責付スルコトナク更ニ十日間之ヲ拘留ス可キ
 コトヲ豫審判事ニ求ムルヲ得
 第二百二十八條 收監狀ハ既ニ取掛リタル豫審ノ手續ヲ檢事ニ
 通知シ且其意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得
 ス
 第二百二十九條 收監狀ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ
 一 被告事件ノ概要及ヒ加重減輕ノ模様アル時ハ其概略
 二 其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
 三 檢察官ノ意見ヲ聽キタルコト
 第三百三十條 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業住
 所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサル時ハ
 容貌體格等ヲ明記ス可シ

此旨布告候事 ○
 第七十五條 開廳
 ス可キ裁判所トハ
 重罪裁判所ヲ關シ
 裁判所ヲ指ス
 (第七十七條) 大審
 院ニ於テ刑事事ニ付
 裁判ス可キ事件ハ
 本條第一項ヨリ第
 四項マテニ配載ス
 ルモノニ限ル
 上告ハ第四百十條
 ニ定メタル場合ニ
 於テ爲ス可シ得
 キ者トス
 九條ニ定メタル場
 合ニ於テ更ニ裁判
 ヲ求ムルノ訴ヲ云
 (三) 裁判管轄ヲ定
 ムルノ訴ハ第四白
 四十八條ノ場合ニ
 於テ訴訟事件ヲ管
 運スルコト能ハサル

又令狀ニハ之ヲ發スルノ年月日時ヲ記載シ豫審判事及ヒ書記
 署名捺印ス可シ
 拘留狀拘留狀收監狀ハ巡查ヲシテ之ヲ執行セシム
 第三十一條 召喚狀ハ第二十三條ノ規則ニ從ヒ書記局所屬ノ
 使下テテ被告人又ハ其住所ニ之ヲ送達セシム
 第三百二十二條 拘留狀留狀收監狀ハ日本全國ニ於テ之ヲ執
 行ス但時宜ニ因リ日本敷通ヲ作り巡查數人ニ分付ブルコトアル
 可シ
 前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付
 ス可シ此場合ニ於テハ第二十三條第二項第四項ノ規則ニ從フ
 第三百二十三條 令狀執行ノ時受ケタル巡查ハ被告人其家宅
 若シハ他人ノ家宅ニ潜匿シタリト思料シタル時ハ其地ノ戸長
 又其差支アル時ハ隣宿二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ
 巡查ハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラズ搜索調書ヲ作り
 立會人ト共ニ署名捺印ス可シ
 家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲ス可シ得ス

此時ナリ起スルシ
 四(公安ノ為メ)
 刑罰ヲ移スルハ
 第四十一條
 第五十一條
 第五十四條以下ニ
 詳ナリ(第七十
 九條一本條第二項
 補定ノ事ノ儀ヲ付
 布告アリ第七十三
 條ノ解ナリ合ス可
 シ○(第八十二條)
 皇族者ヲ動任官
 ト附シテ他ノタ
 ル罪ハ身券ノ何可
 キ拘ハラズ高等法
 院ニ於テ之ヲ裁判
 ス○(第八十九條)
 高等法院ニ最上
 ノ裁判所ナルナリ
 テ上訴スルニハ矢
 張リ其院ニ爲ス可
 シ(一)關照裁判ハ

第三百二十四條 豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ留置シタル
 一ヲ知り又ハ潜匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急
 迅ヲ要スル時ハ巡查ニ令狀ヲ發行シシムルコトヲ得巡查ハ被
 告人所在ノ地ノ豫審判事官事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シ問
 時ニ執行ヲ求ム可シ
 第三百二十五條 豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ離却スルコト能ハ
 サル時ハ豫審判事官所長ニ被告人ノ人相簿ヲ送致シ捜査
 及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得
 請求ヲ受ケタル豫審判事官ハ其管轄地内ノ捕房ヲシテ捜査及ヒ逮
 捕ノ處分ヲ爲サシム可シ
 第三百二十六條 陸海軍在營ノ軍人軍属ニ對シテ被告ヲ獲シタル
 時ハ所屬長官ニ令狀ヲ示ス可シ長官ハ已ムコトヲ得サルニ支ア
 ルニ非サレハ本人ヲシテ這ニ令狀ニ應ジシム可シ其行軍ノ際
 亦同シ
 第三百二十七條 拘留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ハ這ニ其
 令狀ニ記載シタル監倉ニ引致ス可シ若シ其監倉ニ引致スルコ

被告人ノ出席ナク
 シテ爲レタル裁判
 ナレハ未ダ必スシ
 モ冤枉ナシト言フ
 可ラス故ニ此場合
 ニ於テ被告人ヨリ
 其故障ノ上訴ヲ爲
 スコトヲ得可シ○
 (第二編)○(第九
 十二條)檢察官ハ
 第九十三條以下ニ
 記載シタル被告者
 ノ告訴若クハ犯罪
 ナリ見聞シタル者
 告發ニ因テカ又ハ
 現在犯罪ヲ行テ見
 留メタル等ノ手續
 ニ因テ犯罪アルコ
 トヲ知ルカ又ハ未ダ
 認知セサルモ犯罪
 アリト思料シタル
 時ハ其犯罪ノ證據
 ト爲ル可キ物件ヲ
 取り集メ犯人ヲ搜

能ハサル時ハ假ニ最近ノ監倉ニ引致スルコトヲ得
 向レノ場合ニ於テモ監倉長ハ令狀ヲ檢閱シテ被告人ヲ受取り
 其證書ヲ渡ス可シ
 第三百二十八條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ之ヲ執行シタ
 ルコト又執行スルコト能ハサル時ハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス
 可シ
 巡查ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ書記局ニ差出シ書記ハ其受取
 證書ヲ渡ス可シ
 第三百二十九條 拘留狀又ハ收監狀ヲ受ケ可キ被告人既ニ監倉
 若クハ獄舎ニ在ル時ハ書記ヨリ之ヲ本人ニ送達シ其旨ヲ正本
 及ヒ原本ニ記載ス可シ
 第三百四十條 密室監禁ノ場合ヲ除クノ外被告人ハ監獄期ニ從
 ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ代理人ニ接見スルコトヲ得
 書翰書翰其他ノ書類ハ豫審判事ノ檢閱ヲ經タル後ニ非サレハ
 被告人ト外人ト之ヲ授受スルコトヲ許サス但豫審判事ハ其書類
 ナ留置シコトヲ得

查シテ起訴ノ手續
 キチ爲ス可シ○捜
 査トハ犯人ヲ吟味
 スルニ非ス○テ止
 ク公訴ヲ起ス手續
 ナ爲スタタ一應ノ
 取調ヘテ爲スヲ云
 フ○告訴及ヒ告發
 告訴ハ被害者ヨリ
 訴ヘ出ツルモノニ
 シテ第九十三條ノ
 場合ヲ云ヒ告發ハ
 何人ニ限ラズ犯罪
 アルコトヲ知リタ
 ル者ヨリ官ニ告ク
 ルモノニシテ第九
 十七條ノ場合ヲ云
 フ○第九十三條
 司法警察官ハ犯罪
 ノ證據ヲ取り集メ
 犯人ヲ捜査スルノ
 權ナク告訴告發ヲ
 受ケタル時ハ只其
 告訴告發ノ種類ヲ

第四百一十一條 豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ
 者ニ非スト思料シタル時ハ豫審中何時ニテモ拘留狀又ハ收監
 狀ヲ取消ス可○收監狀ヲ取消ス時ハ豫メ檢察官ノ意見ヲ聽ク
 可シ
 第四百一十二條 監倉ニハ刑法治罪法ヲ備置キ被告人ノ請求ニ
 從ヒ之ヲ貸與ス可シ
 第二節 密室監禁
 第四百一十三條 豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト
 思料シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ拘留狀若ク
 ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スルノ言渡ヲ爲スコ
 ヲ得
 第四百一十四條 密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎ニ
 之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見
 シ又ハ書類貨幣其他ノ物品ヲ授受スルコトヲ許サス
 食物飲料藥餌其他監寫ヨリ給ス可キ物品ト雖モ監倉長ノ特ニ
 指名シタル者ヲシテ之ヲ給與セシム

檢事ニ送り渡スマ
 テナリ○第九十
 五條ノ告訴ヲ爲ス
 ニハ姓名ヲ記載シ
 及ヒ實印ヲ捺シタ
 ル書面ヲ以テス可
 キ者ナレトモ又言
 語ニテ爲スコトヲ
 得ヘシ其言語ノ告
 訴ヲ受ケタル檢察
 官若クハ司法警察
 官等ハ其陳述ヲ書
 取リ告訴人ト共ニ
 署名捺印ス可キモ
 ノトス○凡テ告訴
 ナ受ケタル時ハ告
 訴人ニ其告訴ヲ受
 ケタル證書ヲ渡ス
 可シ○第九十六
 條ノ本條ニ云フ官
 吏トハ獨リ司法官
 吏ノミヲ指スニ非
 スシテ一般ノ官吏
 ナ云フ其官吏タル

第四百一十五條 密室監禁ハ十日ヲ超過ス可カラス但十日毎ニ
 其言渡ヲ更改スルコトヲ得
 言渡ヲ更改スル時ハ其事由ヲ裁判所長ニ報告ス可○
 豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問シ通常ノ規則
 ニ從ヒ調書ヲ作ル可シ
 第三節 證據
 第四百一十六條 法律ニ於テハ被告事件ノ模樣ニ因リ有罪ナル
 ノ推測ヲ定ムルコトナレ
 被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申
 立其他諸般ノ證據ハ裁判官ノ判定ニ任ス
 第四百一十七條 豫審判事ハ檢察官民事原告人被告人ノ請求ニ
 因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル證據徴憑
 ナ集取ス可シ
 第四百一十八條 豫審判事臨檢家宅搜索物件差押又ハ被告人證
 人ノ訊問ヲ爲スニハ書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作り
 豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ

者各其管掌スル事務ヲ爲スニ因テ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ必ス告發ス可キモノトス○(第九十八條)代人ニ委任スルトハ委任狀ヲ與ヘテ已レノ代人ト爲スヲ云フ○無能力者ト雖トモ告發告發者ト爲スコトヲ内而シテ告訴ハ法律ニ定メタル代人ノ之ヲ爲スモ其効力アリ○法律ニ定メタル代人トハ第十條ノ註解ニ記載シタルモノニシテ別ニ委任狀ヲ要セスシテ其効アル可シ○(第九十九條)告發者自ラ其過チアルコト

裁判所外ニ於テ急送ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサル時ハ立會人二名アルヲ要ス但監會ニ就テ被告人ヲ訊問スル時ハ其監會ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム可シ
前項ノ場合ニ於テハ豫審判事目ヲ調書ヲ作り之ヲ讀取ルカニ立會人一共ニ署名捺印ス可シ
書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其効ナカル可シ
第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質
第四百十九條 豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但證據ヲ爲シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付キ急送ヲ要スル時ハ此限ニ依ラズ
第四百五十條 豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ白狀セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用フ可カラズ
第四百五十一條 書記ハ訊問及ヒ陳述ヲ錄取シ被告人ニ之ヲ讀取ルカス可シ
豫審判事ハ被告人ニ其陳述ノ相違ナキヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

ヲ覺リ之ヲ頓下ケ若シハ其中立ヲ變改スルコトヲ得ヘシ然レトモ過誤ノ中ニ立ノ爲メ被告人既ニ損害ヲ被リタル時ハ其要價ノ訴ヲ受シルコト有ル可シ○(第九十二條)現行犯罪ハ第九條ノ罪ニシテ此場合ニ於テハ急送ニ犯人ヲ逮捕スルル處置ヲ爲シハレハ犯人逃走スル等ノ恐レアリルニ因リ通常ノ程式規則ヲ用サズシテ即時ニ處分ヲ施ス○本條ノ場合ハ現行ニハ非ラサレトモ同シク其處分ノ急送ヲ要スルモノナレハ現行犯ニ

書記ハ本條ノ式ヲ履行シタルコトヲ記載シ豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ
第四百五十二條 被告人其陳述ニ付キ變更増減ス可キコトヲ申立タル時ハ更ニ訊問ノ爲メ前條ノ規則ニ從ヒ其訊問及ヒ陳述ヲ錄取シ之ヲ讀取ルカセ署名捺印ス可シ
第四百五十三條 被告人ハ陳述書ノ原本ヲ求ムルコトヲ得
第四百五十四條 豫審判事ハ被告人ノ其犯ナルコト人違ナキコト其他事實ニ發見ス可キ一切ノ證據ヲ讀取ル爲メ必要ナリトスル時ハ被告人ト他ノ被告人證人又ハ其他ノ者ト對質セシムルコトヲ得
第四百五十五條 書記ハ對質人ノ陳述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀取ルカス可シ
第四百五十一條第四百五十二條ノ規則ハ其對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス
第四百五十六條 被告人又ハ對質人證ナル時ハ書面ヲ以テ證ヒ

准シテ同様ニ處分
スヘキモノトス
（一）犯罪人ナリト
一人又ハ其他ノ者
ヨリ追ヒ懸ケ呼留
メントケル場合チ
云フ（二）未タ其犯
人カ否ラサルカチ
詳ニヒテモ雖モ其
所持シタル物件甚
ク疑ハシキ者ナル
時（三）家宅内ニ於
テハ何儀ノ事アリ
トモ法律ニ於テ許
シタル場合カ若
クハ其法式規則ニ
因テスルニ非ヤシ
ハ隠リニ家宅内ニ
侵入スルコト能ハ
サル者ナリ故ニ家
宅内ニ於テ現行犯
アルカ又ハ犯人ト
思料ス可キ者アル
コトヲ戸主ヨリ官

廳ナル時ハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ覺者隨着文字ヲ知ラサル
時ハ通事ヲ命ス可シ
被告人又ハ對質人國語ニ通ゼサル時又同
第五百十七條 通事ハ正實ニ通譯ス可キノ宣誓ヲ爲ス可シ
書記ハ通事ニ調査ヲ請フガモ之ニ署名捺印セシム可シ
第九十二條 第九十三條 第二百條ノ規則ハ本條ニモ適用ス
第五節 檢證及ヒ物件差押
第五百十八條 豫審判事ハ事實發見ノ爲ラ必要ナリトスル時
重罪輕罪ノ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ
又檢事ノ請求アル時ハ如何ナル場合ト雖モ臨檢ス可シ
第五百十九條 豫審判事ハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告
人ノ人選ヲ證明ス可キ摸樣ニ付キ調査ヲ作ル可シ
又被告入ノ利益ト爲ル可キ摸樣ニ記載ス可シ
第六十條 豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ發見シタル物件其
出所及ヒ摸樣ニ因リ被告人ノ人選ナキコト又ハ犯罪ノ摸樣ヲ
知ルニ足ル可キ思料シタル時之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目

處ニ其處分ヲサ
タル時ハ現行犯
准シテ所分ナ可シ
○明治十四年九月
第四十六号布告
治罪法第百二條ニ
准テ現行犯ノ場合列
載有之候處其架動
犯人ト思料ス可キ
者アルトキハ當分
ノ内現行犯ニ准シ
處分スルコトヲ得
○准現行犯ト認
可シ場合ハ第百一
條一二三項ニ列記
スレトモ發動怪ム
可キ者ヲ處分スル
コトハ其中ニ明文
ナシ故ニ此布告ニ
依テ其明文ヲ添ヘ
タリ但當分ノ内
ナリ○第百五
條ノ職務ノ官吏ハ
本條ノ場合ニシテ

總子作ル可シ但其物件ヲ監護シ又ハ運送スルハ書面之ヲ擔任
可シ
第六十二條 豫審判事ハ臨檢家宅搜索物件差押ニ付キ其日
ニ處分ヲ終ラサル時ハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置ク
コトヲ得
第六十三條 豫審判事ハ被告人ノ住所又ハ事實ヲ證明ス可
キ物件ヲ藏匿スル嫌疑アル者ノ住所ニ臨檢スルコトヲ得
被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住所ニ在ラサル時ハ同居ノ親
屬若シ其住ラサル時ハ戸長ヲ立會アルヲ要スル限ニテ之ヲ臨
第六十三條 第三項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス
第六十三條 被告人ハ臨檢家宅搜索ノ處分ニ立會ヒ又ハ代
人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得
若シ被告人拘留受取タル時ハ自ラ立會フコトヲ得ス但豫審
判事本人ノ立會ヲ必要ナリトスル時ハ此限ニ在ラズ
民事原告人及ヒ其代人ハ前ニ記載シタル處分ニ立會フコトヲ
得但豫審判事ハ其立會ヲ爲シ豫審ヲ遲延ス可カラズ

限ラス必テラフ爲サ
 ハル可ラサルノ責
 任アリ常人ニハ責
 任ナシ強モ之キ爲
 スコトヲ得ヘキモ
 ノトス官吏若クハ
 非官吏若クハ無能
 力者等ノ差別ナシ
 本條ノ場合ニハ令
 狀又ハ命令ナシシ
 テ直ニ被告入ヲ逮
 捕スルコトヲ得可
 ○(第百十條)私
 訴ハ則チ贓物還給
 損害賠償ノ訴ニシ
 テ被害者ヨリ爲ス
 可キモノトシ是チ
 民事原告人ノ起訴
 ト云フ私訴ハ犯罪
 ヲ告訴スルト同時
 ニ爲スモ又ハ告訴
 ノ後ニ於テ爲スモ
 差支ナシ○(第百
 十三條)豫審判事ハ

第百六十四條 家宅搜索ノ場合ニ於テ豫審判事ハ第百六十條
 ノ規則ニ從ヒ物件ヲ差押フ可シ
 物件ヲ差押ヘタル時ハ其目錄ノ原本ヲ立會人ニ渡ス可シ
 第百六十五條 豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒテ
 ルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ解釋ヲ爲サシム可
 シ其訊問及ヒ陳述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ
 第百六十六條 豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ證人ノ陳述ヲ聽
 シコトヲ必要ナリトスル時ハ書記ノ立會ニ依リ各別ニ之ヲ訊
 問ス可シ
 第百七十七條以下ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス
 第百六十七條 豫審判事ハ前數條ニ記載シクシ處分中何人ニ
 限ラス允許ヲ得スレバ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得
 若シ其禁ヲ犯ス者アル時ハ之ヲ逮捕シ又ハ處分ヲ終ルマテ之
 ヲ留置スルコトヲ得
 第百六十八條 豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨
 檢家宅搜索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルコトヲ得

檢事又ハ民事原告
 人ヨリ請求アルチ
 待テ豫審ニ取掛ル
 可キモノトシトモ
 重罪輕罪ノ現行犯
 ニ限リテハ請求ナ
 シト雖トモ豫審チ
 爲スベキモノトス
 ○(第百十四條)告
 訴告發ハ起訴ノ効
 ナキモノナレトモ
 重罪輕罪ニ付キ豫
 審判事告訴告發ヨ
 リ直接ニ受ケタル
 時ハ召喚狀ヲ發シ
 被告入ヲ呼出シテ
 訊問スルコトヲ得
 可シ而シテ訊問ノ
 後有罪ナリトシテ
 尙ホ取調ブ可キ者
 思料シタル時ハ
 其事件ヲ檢事ニ引
 渡シ檢事ヨリ更メ
 キ起訴アルヲ待ツ

第百六十九條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時
 ハ郵便電信鐵道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫
 審ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ是等ノ者ニ對シ發シタル書類
 電報又ハ物件ヲ受取開拔スルヲ得但受取開辦ヲ渡ス可シ
 前項ノ書類物件不用ニ屬シタル時ハ其官署又ハ會社ニ還付ス
 可シ
 第六節 證人訊問
 第百七十條 豫審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人
 トシテ指名シタル者ヲ呼出ス可シ
 原告證人被告證人ノ眞數夥多ナル時ハ指名ノ順序ニ從ヒ又ハ
 最モ事實ヲ知ル可シト思料シタル者輕罪事件ニ付テハ各五名
 重罪事件ニ付テハ各十名ヲ限リ先ツ之ヲ呼出ス可シ但事實發
 見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ此限ニ在ラズ
 又原被ノ指名セサル者ト雖モ豫審判事ノ職權ヲ以テ證人トシ
 テ之ヲ呼出ス可シ得ル
 第百七十一條 證人ハ豫審判事ノ名ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ但

再引(第百十六條) 被告人犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト定ムルニ因リ本條ノ手續キテ爲ス可キモノトス
 (第百十八條) 送達ト出廷トノ間トハ召喚狀ヲ被告人若クハ其受取ルコトヲ得可キ權アル者ニ渡シテ之ヲ受取ル被告人裁判所ニ出願スルヲテ云フ
 (第百二十條) 引狀ハ被告人ハ命引ス可キコトヲ命引タル書狀ニシテ巡査ヲシテ之ヲ執行セシム
 (第百二十一條) 通常被告人ヲ召喚スルハ先ツ召喚狀ヲ以テス
 (第百二十二條)

其呼出狀ハ第二十三條ノ規則ニ從ヒ之ヲ送達ス可シ
 若シ證人管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ輕罪裁判所書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ
 第百七十二條 豫審判事ハ證人裁判所所在ノ地ニ住セサル時ハ其住所ノ地ノ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヲ得
 若シ證人管轄地外ニ在ル時ハ其所在地ノ豫審判事又ハ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヲ得
 本條ノ場合ニ於テ呼出狀ハ囑託ヲ受ケタル判事ノ名ヲ以テ其裁判所ノ書記局ヨリ之ヲ送達ス可シ
 第百七十三條 呼出狀ハ証人ノ氏名住所及ヒ職業ヲ記載ス可シ
 又出頭ノ日時場所及ヒ呼出ニ應ジタル時ハ罰金ヲ言渡シ且命引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ
 呼出狀ハ送達ト出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ
 第百七十四條 証人疾病公務其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應ズル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ

ノ場合ニ於テ公即時ニ命引セサル時(三) 被告人犯罪ノ證據ト爲ル物件ヲ消滅シテ犯罪ヲ隠蔽ス可キ恐アルカ又ハ逃ビタルノ恐アル時(三) 被告人未ダ犯罪ヲ爲シ後ケサル場合ニテ命引コトヲ命引セサルハ終ニ命引コトヲ命引ス可キ恐アル時(三) 第百七十二條(一) 引狀ハ被告人出廷ヨリ四十八時間ハ拘留スルノ効力アリトモ若シ其時間ヲ過クシテ當然之ヲ釋シテ放テ置ラシムルモノトス尙ホ拘留ヲ要スル時ハ別ニ命引狀ヲ發ス可シ(一) 命引狀ハ十日

訊問ス可シ
 第百七十五條 証人ト爲ル可キ者陸海軍在營ノ軍人軍屬ナル時ハ其所屬長官ニ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官ハ即時ニ出廷セシム可キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アル時ハ其事由ヲ付シテ出廷ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ
 第百七十六條 豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除クノ外証人呼出ニ應セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ請フ可シ
 豫審判事ハ其証人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ニ送達シ又ハ直チニ命引狀ヲ發スルコトヲ得但其費用ハ證人ヲシテ之ヲ擔當セシム
 若シ證人再度ノ呼出ニ應ジサル時ハ二倍ノ罰金ヲ言渡シ且命引狀ヲ發スルコトアル可シ
 第百七十七條 豫審判事ハ證人初度又ハ再度ノ呼出狀ヲ受ケサルコト其呼出狀百七十三條ノ規則ニ背キタルコト又ハ豫知シ難

開被告入ヲ留置スルヲ得ル書狀ナリ
 ○(第百二十六條)
 拘留スル者ナレハ容易ニ拘留狀ヲ發スルコトヲ得
 且訊問ノ末禁錮以上ノ刑ニ處スルキモノト思料シタル者カ又ハ何等ノ罪ニ該ル可キモノタルニ拘ハラス召喚句引久令狀ヲ受ケテ逃亡シタル者及ヒ被告入自ラ所在ノ地ノ豫審判事ノ取調ニテ求メタル者ニ對シテハ句引狀ヲ發スルコトヲ得
 ○(第百二十七條)
 一、收監狀ハ其効力ハ期限ナシ而シテ收監狀ヲ受ケテ

キ正當ノ事故アリテ出廷スル能ハザリシコトヲ證明シタル時ハ
 檢事ノ意見ヲ聽キ甘罪金ノ言渡ヲ取消ス可シ
 第百七十八條 證人呼出狀ニ因リ出廷シタル時ハ其呼出狀ヲ書記ニ差出ス可シ若シ之ヲ遺失シタル時ハ其人違ナキコトヲ證明ス可シ
 第百七十九條 豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ其氏名年齢職業住所及ヒ第百八十一條ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ問フ可シ
 第百八十條 豫審判事ハ證人ヲシテ愛憎畏懼ノ心ナク正實ニ陳述ヲ爲ス可キコトヲ宣誓セシム可シ
 豫審判事ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ
 宣誓書ハ訴訟書類ニ添付ス可シ
 第百八十一條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得
 一、民事原告人

此者ハ通常監倉
 入置スル可キ被告
 人ノ付スル書狀
 告人ヲシテハ何
 事モ出廷セシム
 可キコトヲ得
 ○(第百二十六條)
 拘留スル者ナレハ容易ニ拘留狀ヲ發スルコトヲ得
 且訊問ノ末禁錮以上ノ刑ニ處スルキモノト思料シタル者カ又ハ何等ノ罪ニ該ル可キモノタルニ拘ハラス召喚句引久令狀ヲ受ケテ逃亡シタル者及ヒ被告入自ラ所在ノ地ノ豫審判事ノ取調ニテ求メタル者ニ對シテハ句引狀ヲ發スルコトヲ得
 ○(第百二十七條)
 一、收監狀ハ其効力ハ期限ナシ而シテ收監狀ヲ受ケテ

三、民事原告人及ヒ被告人ノ親屬
 四、民事原告人及ヒ被告人ノ雇人
 第百八十二條 左ニ記載シタル者亦前條ニ同
 一、十歳未満ノ幼者
 二、知覺精神ノ不充分ナル者
 三、癡癡者
 四、公權ヲ剝奪セシメ又ハ公權ヲ停止セシメタル者
 五、重罪事件ニ付キ重罪裁判應ニ移スノ言渡ヲ受ケ又ハ重罪事件ニ付キ輕罪事件ニ付キ公判ヲ付セシメタル者
 六、現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證憑充分ナルコトヲ因テ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者
 第百八十三條 證人宣誓書及ヒ宣誓シテ陳述ヲ肯セシメタル時ハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑罰法第百八十條ニ從ヒ罰金

ルノ爲メ自宅又ハ
他人ノ宅ニ匿レタ
ルト思料シタル時
ハ執行ノ命ヲ受ケ
タル巡査之ヲ搜索
ス可シ但此場合ニ
於テハ戸長ノ立會
アルヲ要ス若シ戸
長差支アル時ハ隣
家ノ戸主カ又ハ差
配人等二人以上ノ
立會ヲ求メテ搜索
ス可シ○家宅搜索
ノ時ハ出沒ニ因テ限
界ヲ立ツ○刑罰十
四年九月第四十六
号布告○治罪法第
百卅三條第三項ニ
家宅搜索ノ制限有
之候得共芝居人等
席飲食店湯屋遊船
宿待合茶屋ノ類ハ
日出前日没後ト雖

ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ビ控訴ヲ許サス
醫師對商標及ハ代言人辯護人公證人若シテ神官僧侶
其身分職業ニ關スル秘密事件ヲ傳テ委託テ受テタル者ハ前
項ノ例ニ在ラス
第百八十四條 證人ハ他ノ證人及ビ被告人ト各別ニ之ヲ訊問
ス可シ但事實確見ノ爲メ必要ナリトシタル時ハ證人ト他ノ證人
又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得
第百八十五條 豫審判事ハ證人ハ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ
必要ナリトスル時ハ重罪輕罪ノ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行ス
ルコトヲ得
第百八十六條 豫審判事ハ被告セサル時ハ第百七十六條ノ規則ニ從
テモ亦之ヲ適用ス
第百八十七條 皇族又ハ辯任官證人トシテ豫審判事書記ト
共ニ其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ

モ其營業ヲ爲ス時
間又旅館屋賃庫敷
一日出前日没後ニ
拘ハラス搜索致シ
苦シガラス○第
百三十四條 被告
事件至急ニ要スル
時ハ令狀ヲ池管ノ
官吏ニ渡サシメテ
本管ノ巡査直ニ令
狀ヲ捕ヘ行キ其地
ノ官吏ニ示シテ即
時ニ執行セシムコト
ヲ得○(百三十八條)
令狀執行ノ命ヲ受
ケタル巡査之ヲ執
行シタル時ハ執行
セル旨ヲ令狀ノ正
本ニ記載シ若シ逃
亡疾病其他事故有
ルハ執行スルコト能
ハサル時ハ其事由
ヲ記載ス可シ○

第百八十八條 書記官證人陳述ニ付キ各別ニ訊書ヲ作ル可
シ其調書ニ對シテ證人宣誓ヲ爲シタルコト又ハ爲ササルノ事由ヲ記載
ス可シ
第百八十九條 豫審判事ハ證人ニ其陳述ノ相違ガキヤ否ヲ知
ラシムル爲メ書記官ハ訊問ヲ讀聞カセシム可シ
證人ハ其陳述ヲ變更増減セシムコトヲ請求スルヲ得書記官其請求
ヲリテ其ルコト及ビ變更増減ノ條件ヲ調書ニ記載シ豫審判事及ヒ
證人ト共ニ署名捺印ス可シ
若シ證人署名捺印スル能ハサル時ハ其旨ヲ附記シ可シ
第百九十條 證人ハ即時自出廷ニ付テテ旅費日當ヲ要ムルコ
トヲ得
若シ日當ヲ以テ生業ヲスル者ナル時ハ旅費日當ノ外日稼高ニ
等シキ償金ヲ要ムルコトヲ得
本條ノ場合ニ於テハ豫審判事其金額ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ
第七節 鑑定

第四百一十條 被告
 人其親屬朋友又ハ
 代言人等ニ接見シ
 規則ニ從ヒ官更立
 會ノ上ニテ接見セ
 シム但密室監禁ノ
 場合ニ於テハ接見
 ナルヲ許スルニテ
 ナル○書狀ヲ送付
 人書類ヲ送付人
 外人ト受授セシム
 トテテハ時ハ豫
 審判事ノ檢査
 其後ニ從フニテ
 其許否ハ豫審判事
 見テ由ル○
 第四百一十一條 禁
 錮以上ノ刑ニ處
 可キ者ニテハサレハ
 拘留狀收監狀
 スルコトヲ得ル
 手ノ加ハルニ由リ
 問ノ米禁錮ニ至

第九十一條 豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナ
 テシムル爲メ鑑定人ヲ必要ナリトスル時ハ學術職業ニ因リ鑑
 定スルコトヲ得可キ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ
 第九十二條 鑑定人ハ書記局ヨリ呼出狀ヲ以テ之ヲ呼出ス
 可シ其呼出狀ニハ犯罪事件ニ付鑑定ヲ命スルコト及ヒ呼出ニ應
 セサル時ハ罰金ヲ言渡ス可キコトヲ記載ス可シ
 鑑定人ハ呼出ニ應ジテ其時ハ第九十七條ノ規則ニ從ヒ處分ス
 可シ但何引狀ヲ發スルコトヲ得ス
 第九十七條 鑑定人ハ正實ニ鑑定ス可キト宣誓ヲ爲ス可シ
 其宣誓ハ第九十八條ノ式ニ從フ
 第九十四條 鑑定人ハ宣誓ヲ肯セズ又ハ宣誓ヲテ鑑定ヲ肯セ
 サル時ハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第九十九條ニ從ヒ
 罰金ヲ言渡ス但シ其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス
 宣誓書ヲ添置シ可シ

サレノ者ト思料シ
 タル時ハ何引狀收
 監狀ヲ取消ス可シ
 ○密室監禁一八一
 室ニ監禁シテ豫
 判事ノ許可ヲ得ル
 非サレハ他入ト
 接見贈答等ヲ爲ス
 コトヲ得ル○第
 百四十三條 被告
 人證據ヲ消滅シ事
 實ヲ隠蔽スルノ恐
 アリテ密室ニ監禁
 スルヲ必要トスル
 時ハ豫審判事ノ職
 權ヲ以テシテ又ハ檢
 事ノ請求ニ因テ其
 言渡ヲ爲スコトヲ
 得○(第四百十四
 條)飲食物其他監
 倉ヨリ給與ス可キ
 物品ニテモ監倉長
 ヲ別段ニ指名シ
 タル者ニ非サレハ

第九十五條 第九十八條 豫審判事ハ成ル可シ鑑定ニテ會フ可シ
 第九十七條 豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職業ヲ以
 テ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得
 第九十八條 鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其手續結果及ヒ鑑定ヲ
 爲シタル時間ヲ詳記ス可シ
 若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記載ス可シ
 鑑定人意見ヲ異ニスル時ハ各自鑑定書ヲ作り又ハ各自ノ意見
 ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス可シ
 第九十九條 鑑定人ハ鑑定書ニ年月日ヲ記載シ署名捺印及
 ヒ契印ス可シ
 又鑑定人ニハ豫審判事之ヲ受取シタル年月日ヲ記載シ書記ト
 共ニ捺印ス可シ
 鑑定書ハ鑑定命令書ニ添置シ可シ

濫リニ給與スルコトヲ得ス。○第四百四十六條 明確ナル證據ナクシテ止マレバ被告事件ノ模様ニ因テ有罪ナルコトハ推量スルコトハ法律ニ於テ豫シメ定ムルコトナキナリ。○官吏ノ檢證トシテ官更自ラ現ニ被官人犯罪ノ證據ヲ實檢スルコトヲ云フ。○調書トハ官更ノ取リ調ヘタル書類ナリ。○徵憑トハ證據ヲ爲ル可キ徵候アル者ヲ云フ。○訊問及ビ對質訊問トハ官更ヨリ被告トハ官更ヨリ被官人ニ問ヒ糾スルコトヲ云フ。○對質トハ被告及ビ其他ノ者ト同一

外國人鑑定ヲ爲シタル時ハ其鑑定書ニ裁判所ヨリ命シタル通事ノ作ルタル譯本ヲ添置シ可シ。
第二百條 鑑定人及ビ通事ニハ旅費給料其他相當ノ費用ヲ給ス可シ。

第八節 現行犯ノ豫審

第二百一條 豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルコトヲ知ルル場合ニ於テ其事件急遽ヲ要スル時ハ檢事ノ請求ヲ待テ直ニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルヲ得。
豫審判事ハ官所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ニ定メタル規則ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲ス可シ。
第二百二條 前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナキト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタル者トス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルヲ記載ス可シ。
豫審判事ハ速ニ書類ヲ檢事ニ送致ス可シ但檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼續ス可キ者ニ非ザルニ意見アリト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ之ヲ終結ス可シ。八十一條 豫審判事ハ...

ノ席ニ於テ互ニ論辨スルヲ云ハ○第四百十九條 豫審判事ハ第一先ニ被告トシテ訊問スルヲ順序ト定ムルト雖モ檢證ヲ爲シ又ハ急ニ證人ヲ訊問スルコトヲ必要トスル時ハ其順序ヲ拘ハラズ可シ。○第四百五十二條 明治十四年十一月司法省(内閣)十六號通令○若シ被告中犯人證人等押印シテ之ヲ留置シ檢事ヨリ檢印シテ之ヲ依リ從來ノ檢例ニ依リ檢印爲ス可シ。○此旨檢證候事○第四百五十五條 被告及ビ對質人等手印書ハ書面ヲ以テ明シシ言語

第二百三條

檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルコトヲ知ルル時ハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ他所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲ス可シ但罰金ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス。
第二百四條 証人及ビ鑑定人ハ陳述ハ宣誓ヲ用フルコトヲ之ヲ聽ク可シ。
第二百五條 前條ノ場合ニ於テ檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致ス可シ。
第二百六條 檢事被告トシテ受取タル時ハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ調書ヲ作り拘留狀ヲ發スルト否トテ問ハス一切ノ書類ヲ請求シ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ。
若シ起訴ヲ爲ス可キ者ト認メタルトキハ直ニ被告トシテ放免ス可シ。

ノ自由ヲササル者
ニハ書面ヲ以テ答
辯セシムル可シ
是等ノ者文字ヲ知
ラサル時ハ其事情
ヲ通シシムル者ヲ
罪ニ命ス可シ
○檢
證及ヒ物件差押明
治十四年十二月司
法省丙第十五号達
○刑罰法施行ノ上
ハ豫審判事檢證及
ヒ物件差押ノ事件
ニ付急遽ヲ要スル
場合ニ巡査手同行
シ又ハ所在ノ巡査
ヲ使用スル儀モ可
有之候條條テ可達
置此旨相達候事○
（第五十八條）本
條ハ檢證ス可キ時
ノ要目ヲ示セルナ
リ○（第六十二
條）豫審判事ハ被

第二百七條 豫審判事ハ二十四時間内ニ被告人ヲ訊問ス可シ
此場合ニ於テハ檢事ノ發シタル拘留狀ヲ解キ又ハ之ヲ存スル
コトヲ得

第二百八條 豫審判事ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲シタル手續
ニ付キ更ニ其取調ヲ爲スルヲ得但檢事又ハ司法警察官ノ作リ
タル調書ハ之ヲ訴訟書類ニ添置シ可シ

第二百九條 檢事ハ輕罪ノ現行犯ニ係ル場合ニ於テ拘留狀ヲ
發シタルト否トニ依ハラス被告人ヲ訊問シタル後豫審ヲ求ム
ルニ及ハスト思料シタル時ハ直チニ輕罪裁判所ニ呼出ス可シ
得

第九節 保釋

第二百十條 豫審判事審中ハ豫留留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル
被告人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聞キ何時ニテモ呼出ニ應ジ
出廷ス可キノ證書ヲ差出サシメ保釋ヲ許ス可シ
被告人無能力ナル時ハ親屬又ハ代人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得
第二百十一條 前條ノ證書ハ書記局ニ差出ス可シ

告人ノ住所ハ勿論
ナレハ被告人ノ事
實ノ證明ス可キ物
件ヲ藏匿スルノ嫌
疑アル者ノ家宅ニ
モ臨檢スルコトヲ得
○（第六十三條）
檢家宅搜索ノ處
分ニハ被告人自ラ
立會ヒ又ハ代人ヲ
シテ立會ハシムル
コトヲ得可シ○若
シ被告人拘留ヲ受
ケタル時ハ自ラ立
會フコトヲ得ズト
雖モ代人ヲシテ立
會ハシムルコトヲ
得可シ但豫審判事
被告本人ノ立會ヲ
必要トスル時ハ自
ラ立會ハシムルコ
トアル可シ○第
百六十七條）豫審
判事ノ職權ヲ以テ

保釋中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時間前ニ報知ヲ爲
ス可シ

第二百十二條 保釋ヲ許スニハ金圓ヲ以テ被告人ノ出廷ヲ保
證セシム可シ但豫審判事其金額ヲ定メ保釋ヲ許スノ言渡書ニ
記載ス可シ

第二百十三條 保證ヲ爲スニハ被告人又ハ其他ノ者ヨリ保證
金若シハ賄命預所又ハ銀行ノ預證書ヲ書記局ニ差出ス可シ
又裁判所ノ管轄地外ニ住シ且充分ナル資力アル者ヨリ金額ニ
充ツ可キ保證書ヲ差出ス可シ

第二百十四條 保釋中被告人呼出テ受ケテ正當ノ事由ヲシテ
出廷セサル時ハ保證金ノ全部又ハ幾分ヲ没入ス可シ

第二百十五條 保證金ヲ没入スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫審
判事其言渡ヲ爲ス可シ
若シ他人ノ保證ニ係ル時ハ民事ノ規則ニ從ヒ之ヲ徵收ス可シ
第二百十六條 豫審判事保證金ヲ没入シタル時ハ保釋ノ言渡
ヲ取消ス可シ